

東水試出版物通刊 No.296

調査研究要報 No.146

伊豆諸島海域天然魚礁調査報告 - II

〔IV〕 藺灘波島
(イナンバ)

〔V〕 東京都海域における
天然礁の概要

昭和 55 年 3 月

東京都水産試験場

序

伊豆諸島海域における主な天然魚礁（漁場）の総合調査は、1972年8月の銭洲礁から始まり、第1報^{*}では銭洲礁、恩馳群礁、大野原島について報告したが、その後蘭難波島、鵜渡根島周辺、新島地内島周辺等つぎつぎと調査を行ない、今回蘭難波島周辺調査の取りまとめが終了したので報告する。

また、東京都管内の海域には著名な数多くの魚礁（漁場）があり、これらについて、かねてから各種文献資料の取りまとめを行なっていた東海大学海洋学部教授佐藤孫七氏から、貴重な資料の提供があったので併せて報告する。

これらの資料は、明治以来つぎつぎと新魚礁（漁場）が発見されたものを含めて、何れも現在とは比べものにならない貧弱な装備で、多くの先人が辛苦の末に発見、開拓したものであり、現代の近代的な新装備船による再調査では若干の修正があるかも知れないが、これらの魚礁（漁場）は200マイル漁業専管水域時代に入りますます重要な意味のあるところとなり、併せて多くの魚礁（漁場）が今なお各漁業において、価値ある好漁場として効果的に利用されており、ここに改めて諸先人の偉業に痛感し、感謝の意を表する次第である。

今後とも管下漁場の精査に努め、取りまとめ次第報告する予定であるが、本報告書が200マイル漁業専管水域時代において、管下漁場の再認識と管理型漁業に役立ち、水産業の発展に寄与できれば甚だ幸いである。

1980年3月

東京都水産試験場

技術管理部長 草 刈 正

* 伊豆諸島海域天然魚礁調査報告—1 昭和51年3月

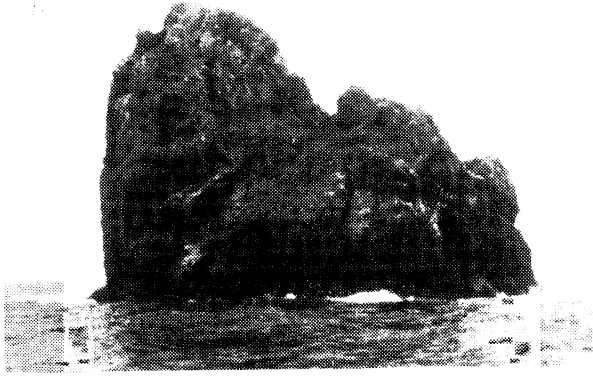


写真1

イナンバ島（北側より撮影）

写真2

イナンバ島（東側より撮影）

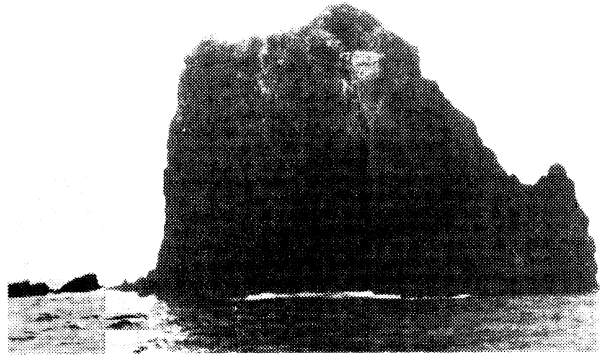


写真3

イナンバ島（南西側より撮影）

∴磯根生物相調査上陸地点（矢印）

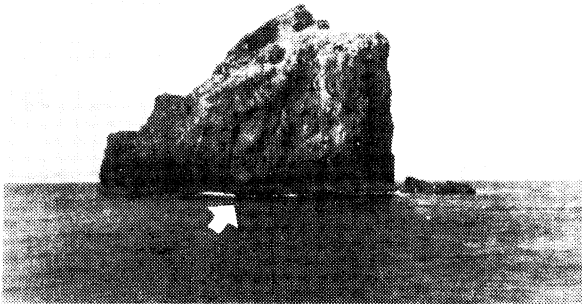


写真4

調査に従事する水試指導船
（手前が“やしお”、沖側が“みやこ”）



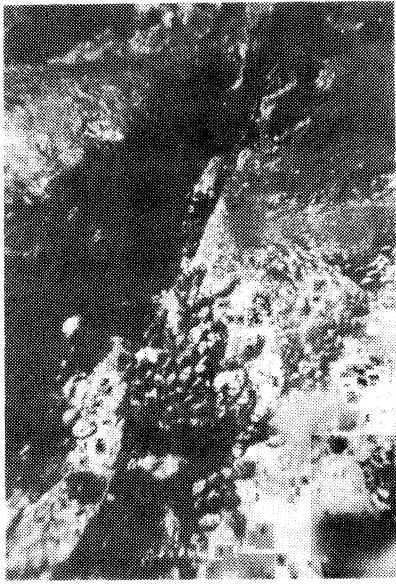


写真5 上陸地点、潮干帯の動物類
(カメノテ、フジツボ、ヒザラガイ)



写真6 同左の植物類(サイミ)



写真7 上陸地点の水中(2m)で観察された魚群(イヌズミ科)

〔Ⅳ〕 藺 灘 波 島

実施機関および担当区分	1
1. 調査方法	2
1) 調査期間	2
2) 調査項目および方法	2
2. 調査結果	3
1) 島の形状	3
2) 海底地形	3
3) 海況	3
4) 生物相	6
3. 考察	7
1) 海底地形	7
2) 海況	7
3) 生物相	8
4) 漁場利用状況	9
付 表	12
1. 海洋観測表	12
2. サング網採集生物	13

実施機関および担当区分

実施機関 東京都水産試験場 大島分場（分場長 草 莉 正）

調査従事者および調査船

主任研究員	中 川 政 男	総括および漁場環境調査とりまとめ
”	三 村 哲 夫	磯根生物、海中調査とりまとめ、および写真
研 究 員	岡 村 陽 一	サンゴ網調査
	米 沢 純 爾	海洋観測、報告書取りまとめ
	伊 藤 二三夫	海底地形調査
	床 枝 真 吉	”
	斉 藤 実	磯根生物、海中調査
	竹之内 卓 夫	” ” および写真
	武 藤 光 盛	プランクトン査定
	小 泉 正 行	卵稚仔査定

み や こ（127.32トン）

船長 青沼 勇ほか16名

や し お（13.78トン）

船長 立島 昭ほか6名

はじめに

イナンバ島は御蔵島の南西約20マイルに孤立する小岩島で（写真1、2）、周辺は急深となり1,000m等深線も極めて近く、島の北側は1マイル、最も遠い所の南西側でも4マイル程度で、その沖合は急激に2,000m近い深海となっている。漁業としては季節的に回遊するカツオ、マグロ、ブリ類および底魚（アオダイ、メダイ、キンメダイ等）を対象に少数の漁船が出漁する程度である。

1972年以降銭洲、恩馳島、大野原島と順次、島および礁周辺の基礎調査をおこない、詳細を明らかにしてきたので、この一環として1976年はイナンバ島周辺の海底地形、生物相および海況等の総合調査を企画した。過去の調査にならい各種の調査項目を計画準備したが、最初に実施した水深調査によると島の周辺はかなり急深な海底地形であったため、当初生物、底質調査のため計画した三枚網、ドレッジ、カニ籠、潜水による磯根生物の各調査は漁具器材の流出や、根がかり、破損、波浪による危険等のおそれが多くに予測されたため、これらの調査項目については断念し変更せざるを得なかった。このため本調査によって明らかにされたものは島の形状と海底

地形が主体となった。

1. 調査方法

1) 調査期間

1976年8月17日～18日

2) 調査項目および方法

(1) 島の形状

従来の調査では航空写真をもとに概略図を作成し、上陸目視または海上からの距離、方位の測定により位置形状の確認等により図の補正を行っていたが、今回は参考となる資料がほとんどなく、また周囲は断崖の連続で上陸はごく一部に限られたため、島の形状は周囲からの写真撮影と目視により判断した。

(2) 海底地形

“みやこ”および“やしお”による図1に示す航跡図のとおり魚群探知機を用い測深調査を行った。“みやこ”の船位確認はジャイロコンパスとレーダーにより、“やしお”の船位確認は磁気コンパスにより行った。

(3) 海況

島の周囲に図2のとおり12測点をもうけB.Tによる水温観測をはじめ下記の気象、海象について調査を行った。なお、流向流速は4測点、卵稚仔プランクトン採集および透明度は2測点についてのみ調査を実施した。

海 象：各層水温（B.Tによる0～200m層観測）

流向流速（G.E.K観測）

波浪、うねり、水色、透明度

気 象：風向、風力、雲形、雲量、天気、気温、気圧

卵 稚 仔：**(特)**Bネット0←150m垂直曳き
プランクトン

(ち)ネット水平5分曳き

(4) 生物相

a 磯根調査

上陸可能地点が島の南側の1地点（図3、写真3、4）に限られたため、この地点における潮干帯における生物調査の目視観察と、“素もぐり”による付近の水中観察ならびに写真撮影をおこなった。

b サンゴ網調査

“みやこ”によりサンゴ網(図4)を用い、図3に示した島の南東側(水深100～130m)と西側(水深30～120m)の2地点について調査を実施した。曳網には海流による船の移動を利用したが、急深部は10分程度のエンジン駆動による曳網調査をおこなった。

2. 調査結果

1) 島の形状

イナンバ島は周囲約580m、面積約15,865m²の小岩島である。高さ75mの最頂部は島の中心よりやや東寄りにあり、島はおおむね南東側が高く北西側が低い馬の背状の地形となっている。島の周囲はいずれも急壁で、とくに東側から南側にかけほとんど垂直に近い高さ数10mの絶壁が続き、東側ではそのまま海に落ち込んでいる。このため島を南方より眺めると東が高く西が低い直角三角形に近い形をなしているが、北東側と北西側には、それぞれやや高い場所があり見る方向によって島の形状は種々に変化する。一方、南壁下には島と連なる岩礁があり唯一の上陸可能地点となっている(図5)。

2) 海底地形

上陸地点付近の潜水による目視調査ではこの周辺の海底地形は、潮干帯から島のすそが急傾斜で落ち込み急深となっている。波打際でも5～6mの水深があり、島から数メートル付近では、既に20m以上の水深があって、素潜り調査では海底まで到達できない急深となっていた。

また、付近の海底には、小さな岩石類の分布は全く認められず、島を形成する岩質そのものが海面下に露出し、いわば海底から島が柱状にほぼ直立している状態といえる。

50m等深線は距岸200m以内にあり、とくに急深となっている北西側では、距岸40～50mに迫っている(図6)。50m以浅海域には調査船が近づけず詳細は不明であるが南側の目視調査によると水際から水面下10m位までは絶壁状をなしていた。

200m等深線は島の北側で距岸0.2～0.4マイル、東側と南側で0.7マイル、西側で0.3マイル付近にあり、とくに急深となっている北側から西側にかけては陸棚らしい箇所は全くなかった。

また、1000m等深線は島の北側距岸1.3マイル、東側2.0マイル、南側1.8マイル、西側1.4マイル付近にあるが、南東側では距岸4.0マイル付近まで延びており、ヒョータン型の地形となっている(図7)。

3) 海況

(1) 表層流

流速は0.3～0.18ノットと4測点とも緩やかな流れであった。

流向は島の北側でNE、東側と南側でESE～E、西側でSSWと渦流状の流れであった(図8)。

(2) 水 温

表面水温は27.9～28.1℃とほぼ同様であったが、おおむね島の西側が高く東側が低い傾向が見られた。

20～30m層までは各測点とも表面とほぼ同様な水温となっており、30～100m層に温度差が最高7.7℃(St.11)、最低5.9℃(St.2)の顕著な温度躍層が形成されていた。

100m層水温は19.9～21.2℃の範囲にあり島の南～西側がやや低温であった。また、200m層水温は17.1～18.2℃の範囲にあり島の東側にやや水温の高い海域があった(図9)。

(3) 卵稚仔出現状況

㊦ ネットでは2測点を合せ魚卵が16粒、稚仔魚が15尾採集された。

このうち判明した出現種は魚卵ではサヨリトビウオ卵1粒、稚仔魚ではネズミギス10尾サヨリトビウオ3尾、モンガラカワハギ科1尾であった。

㊧ BネットではSt.2で魚卵が7粒、稚仔魚が2尾採集されたが、いずれも不明種であった(表1)。

表1. 魚卵・稚仔出現状況

		St. No.	2	8	計	出現範囲
㊦	魚卵	総卵数	12	4	16	
		サヨリトビウオ	1		1	
		不明卵	11	4	15	
ネット	稚仔魚	総稚仔数	10	5	15	
		ネズミギス	5	5	10	n. 6.2～11.3mm
		サヨリトビウオ	3		3	5.6～6.2
		モンガラカワハギ科	1		1	5.6
		不明魚	1		1	
㊧	魚卵	総卵数	7	0	7	
		不明卵	7		7	
	稚仔魚	総稚仔数	2	0	1	
		不明魚	2		1	

(4) プランクトン出現状況(特Bネット)

イナンバ島の北東側と南西側との2測点で採集を実施し、採集結果を表2に示した。両測点の生物量(沈澱量)はSt.2で4.9^{cc}/haul、St.8で3.0^{cc}/haulと島の北東側の方が比較的多くなっていた。

表2. プランクトン出現状況(特Bネット)

採集地点	St. 2	St. 8
採集年月日	昭和51年8月18日	昭和51年8月18日
“ 時間	08時11分	12時38分
“ 方法(網)	特B垂直分	特B垂直曳
“ 採集層	0←150m	0←150m
沈澱量	4.9cc/haul	3.0cc/haul
生物相(個体数)		
Thalassia	14	18
Appendicularia	24	46
Mollusca	2	8
Polychaeta	10	8
Sagittoida	48	84
Medusae	46	42
Decapoda	2	12
Euphausiacea	12	10
Amphipoda	4	14
Copepoda	858	1,272
Others		
Trichodesmium thiebauti	+	+
Diatoms Rhizosolenia, Chaetoceros etc.	+	
Noctilca	+	+
Ceratium	+	+
有孔虫類	+	+
アミ類 Siriella thompsoni	1	

出現生物は両測点ともCopepodaが圧倒的に多く、次いで矢虫類が多く出現した。また、らん藻類(Trichodesmium thiebauti)や夜光虫(Noctilca scintillans)も比較的多くみられた。

出現種はいずれも暖海外洋性(黒潮系)であった。主な出現種をあげると矢虫類ではSagitta enflata, S. bipunctata, S. pacifica等で、CopepodaではEucalanus attenuatus, Calanus minor, Undinula vulgaris, Euchaeta marina等であった(表2)。

4) 生物相

(1) 磯根生物

唯一の上陸が可能であった島の南側の地点には、潮干帯にカメノテとサイミが群棲し、岩礁上にはクロフジツボとヒザラガイ類の生息が見られた。また上陸地点付近の“素もぐり”による目視観察ではギンユゴイが十数尾、イスズミ科と思われる魚が二十数尾群泳しているのが見られた。

当初は島周辺に4調査地点を設定し、各地点について潮干帯ならびに水深5m、10m線の枠取り(3m²)調査を計画したが、全域とも急峻なりえ、波浪が高くさらに島の東から北側にかけては渦流域のうえ急潮で潜水不可能なため上陸地点付近の生物相把握に変更した。

その結果、いずれにしても今回は調査条件が限定された関係上、磯根生物相の詳細は今後の精査にゆだねることとして、ここでは観察し得た生物類を列記するとどめたい(表3)(写真5, 6, 7)。

表3 潮干帯から海中にかけて目視された生物類

蔓脚類	クロフジツボ、カメノテ
甲殻類	ショウジンガニ
軟体類	ヒザラガイ類、イワガキ類
海藻類	サイミ
魚類	イスズミ科、チョウチョウウオ類、ツノダシ、ミギマキ、ギンユゴイ、ヒラマサ類

(2) サング網

サング網による採集生物の種類数を動物門別に表4に示した。曳網時間が1回目13分間、2回目8分間と短かく全体の採集生物量は少なかったが、腔腸動物ではStylaster属。

トゲハネウチワ、ホソキサンゴ等ほぼ代表的な種類が採集されたほか寒海性のウモレキセルガヤが採集された。棘皮動物のナガクモヒトデは盤径3～5mmの小個体でホソキサンゴに付着していた。触手動物は11種採集されたがすべてコケムシ類であった。

表4 サンゴ網による採集生物種類数

動物門	種類数
海綿動物	5
腔腸動物	25
触手動物	11
棘皮動物	2

3. 考察

1) 海底地形

イナンバ島の周辺は予想以上の急深となっており、浅海性の磯根生物資源をはじめ、底魚類の中でも比較的浅海性の魚類の生息にはかなり限定された環境となっている。一方、800m等深線はヒョータン型に広がっており、島の南西にも水深500m台の海域が見られる。このため、キンメダイ等の深海に生息する魚類に関しては有望な漁場の可能性がある。

なお、今回の調査では海面上にない浅瀬は発見されなかった。

2) 海況

当分場がイナンバ総合調査と前後して実施した7月下旬および8月下旬の沿岸定線調査によると黒潮はいずれも大島～三宅島間を最高3.2～3.0ノットの強流となって東流していた。また8月後半の水路部海洋速報によっても総合調査当日、イナンバ島は黒潮外縁部ないし外側域に位置していたと想定される。

(1) 海流、水温

今回の調査では約1.5マイル間隔で12測点を設定し、島まわりの微細温度構造について一知見を得ることができた。これによると、今回調査を実施した3マイル四方の海域の中で温度差は50m層2.2℃、100m層1.3℃、200m層1.1℃で黒潮外縁部以南の海域としては温度差が大きかった。

また200m層では島の東側に直径1～2マイル程度の18℃台暖水域があったのに対し、100m層以浅ではおおむね島をとり囲むような小規模の冷水域があり表層では左旋流が観測された。

(2) 卵 稚 仔

黒潮域～黒潮外側域においておもに夏季を中心に出現するサヨリトビウオ稚仔と秋季の代表種であるネズミギス稚仔が採集されたことは、調査海域が夏季から秋季へ移りつつあることを示していた。

また、卵稚仔とも採集個体数が非常に少なかったことは、調査海域が黒潮外側域の性格をおびていたためと考えられる。

(3) ブランクトン

調査地点が少なく生物分布の微細構造は不明であったが、島をはさむ2測点で量的な相違がみられた。海洋環境と合せてみると島のまわりに地形性と思われる小規模な渦流域の存在が示唆され、島の北東側で比較的生物量が多かったこととよく対応している。

またこの海域で1個体であったが夜間によく出現するアミ類のオキョアミ *Siriella thompsoni* が採集されたことも注目される。生物の種組成からこの海域は、黒潮、あるいはそれ以南の外洋性の性格を強く示していたと言えよう。

3) 生 物 相

島南部の上陸地点の潮干帯にはサイミ、カメノテ、フジツボ類の生息が見られ伊豆諸島岩礁地帯とほぼ同様な、ごく一般的な潮干帯生物相を呈していた。“素もぐり”による目視調査ではイセエビ、アワビ、テングサ等の磯根生物の生息について把握できなかったが、おそらく海底が急深なためこれらの生物が通常生息する30m以浅域は非常に狭く、もし生息していたとしても量的には少ないと思われる。

また、計画した三枚網による漁獲調査が実施できず、島周辺の魚類の分布については、海中目視調査が唯一の資料となり、各魚種とも数尾～数十尾の群泳が認められたものの、いずれの魚種についても採集できなかったため、種のくわしい同定はできなかった。なお、海中の岩礁上には蔓脚類の生息がみられたのみで海藻類の分布は認められなかった。

いずれにしても磯根生物相については、資料不足のため断定できないが当场で継続しておこなっている他の天然礁の調査結果と比較すると、生物の分布は種類数、個体数とも極めて貧相な結果といえよう、このことは、イナンバ島がタイドプール等の浅海域を有せず、他の島から20マイル以上離れて海洋中に突き出た孤立した島であり、海底地形が単純のため岩礁性の有用生物類の生息が不適であること等が誘因になっているものと考えられる。

一方、サンゴ網による水深30～130m層の調査では、全体として大野原礁とほぼ同様な生物相を呈していたが触手動物が11種と少なかった。これは生息種が少ないというよりは海底が急深なため付着基盤であるサンゴ礁や岩を採集できなかったためと考えられる。また今回

の調査では大野原礁と同様に寒海性腔腸動物のウモレキセルガヤが採集され、この種の分布域がかなり広域にわたることが確認された。

4) 漁場利用状況

昭和53年5月から10月にかけて指導船“みやこ”が5次にわたる底釣調査を実施した結果、8月から10月にかけてイナンバ島の南東～南側、水深70～180m付近の海域にアオダイのまとまった群れが確認された。とくに8月下旬と10月下旬には1日平均約300Kgの水揚げがあり漁場として時期的には好漁場が形成される可能性がある。ただし、操業日数が長くなるとC P U E (単位努力当たり漁獲量)が大幅に減少する傾向があることから急深な地形との関連で資源量はそれほど多くないと考えられる。また、サメによる釣獲魚への食害、釣道具への被害が多いことが難点である。

急峻な海底地形による小規模な流れのジョウ乱は回遊魚の漁場形成に影響を及ぼすと考えられるが、本調査では十分把握することができなかった。

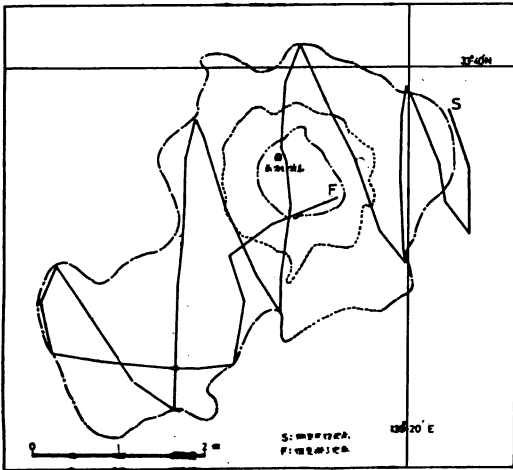


図1 測深航跡図(みやこ)

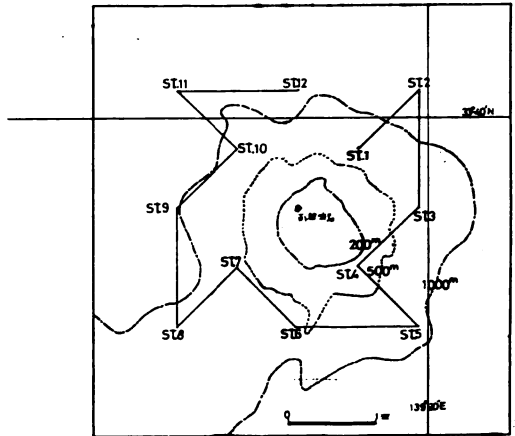


図2 海洋観測点

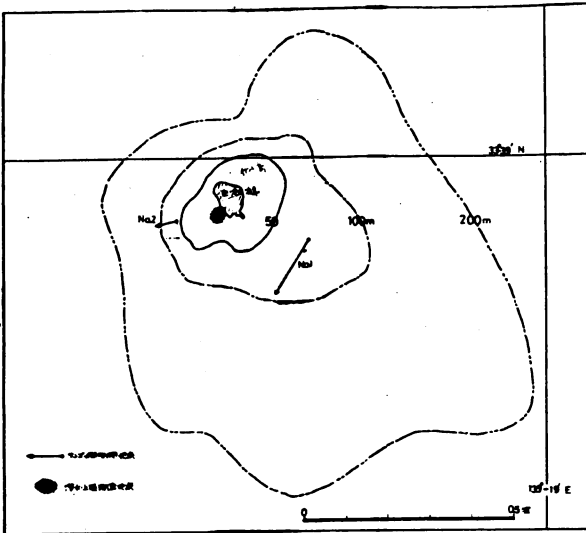


図3 潜水およびサンゴ網調査地点

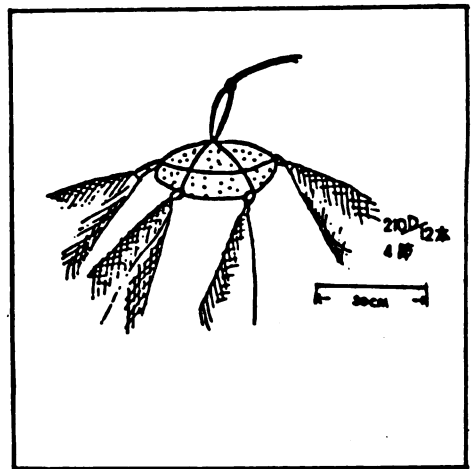


図4 サンゴ網

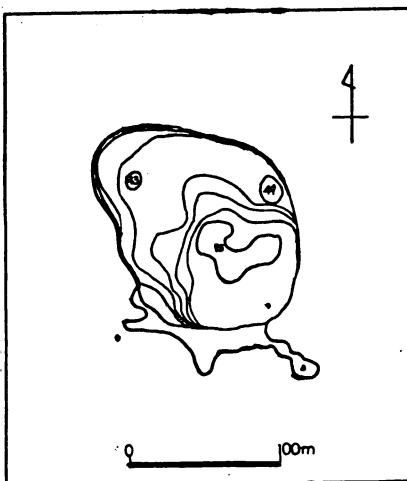


図5 イナンバ島等高線図

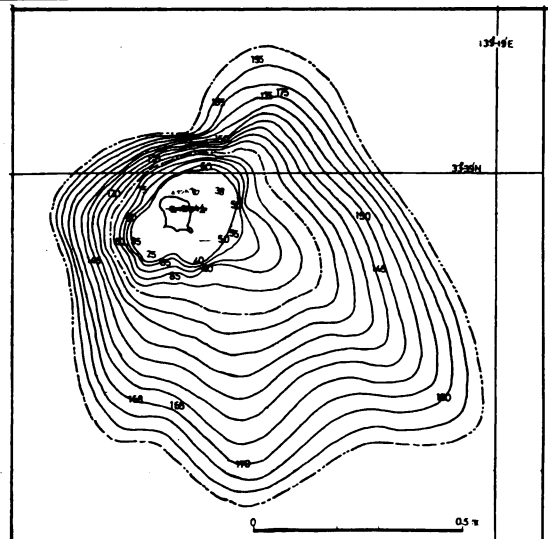


図6 イナンバ島周辺海底地形

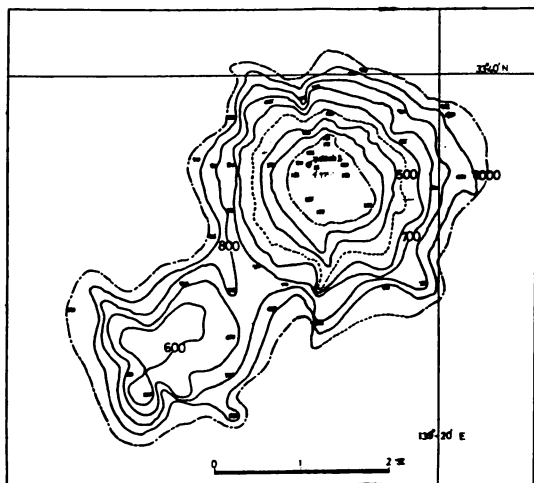


図7 イナンバ島周辺の海底地形(200m以深)

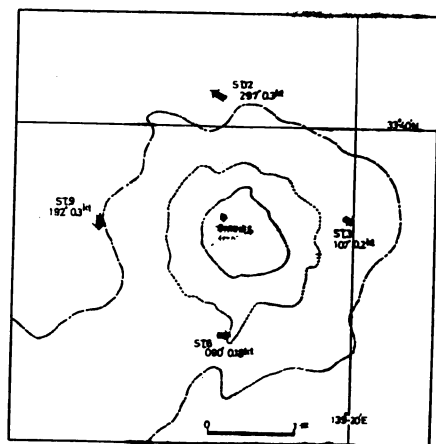


図8 流向流速(GEKによる表層流測定)

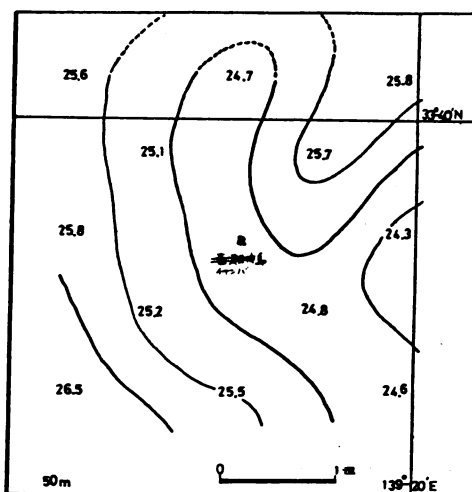
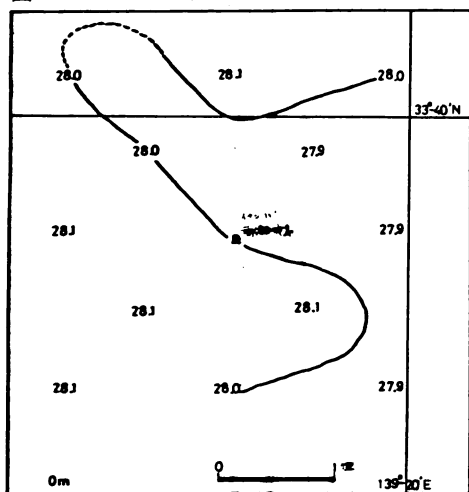
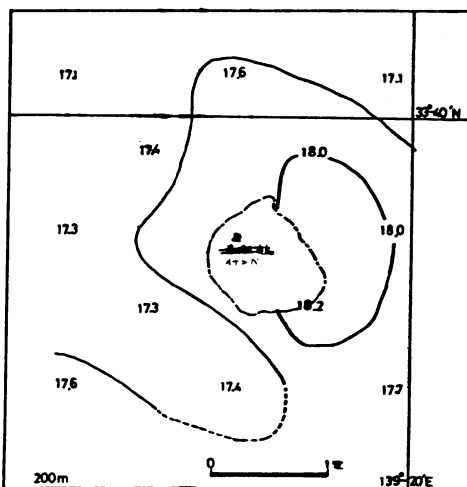
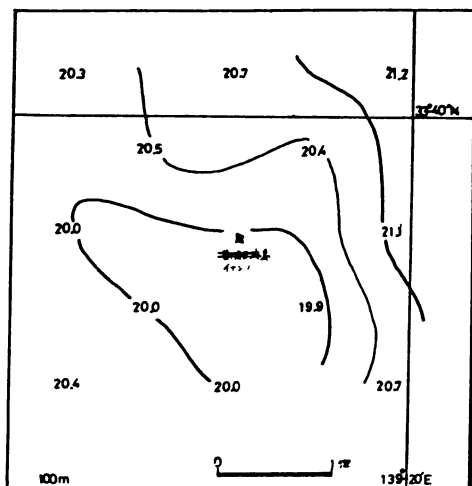


図9 水温水平分布図



水温水平分布図(図9の続き)

付表1. 海洋観測表

測点番号	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
位	45°	45°	90°	135°	135°	180°	225°	225°	270°	315°	315°	0°
観測月日	8.18	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"
開始時刻	07:42	08:03	08:33	08:51	10:12	11:43	11:58	12:15	12:59	13:14	13:32	13:49
終了 "	07:52	08:26	08:42	09:00	10:31	11:51	12:05	12:48	13:08	13:23	13:40	13:58
風向・風力	ENE 3	ENE 3	E 3	E 3	E 2	E 2	ENE 2	ENE 3	ENE 2	ENE 2	ENE 2	ENE 2
雲形・雲量	Sc 7	Sc 9	Sc 8	Sc 8	Sc 6	Sc 8	Sc 8	Sc 6	Sc 7	Sc 7	Sc 7	Sc 7
天気	bc	c	bc	bc	bc	bc	bc	bc	bc	bc	bc	bc
気温	25.9	26.0	26.5	26.2	26.4	26.2	27.4	26.4	26.8	26.1	26.3	26.2
気圧	1016.0	1016.3	1016.2	1016.0	1016.0	1016.0	1016.0	1016.0	1016.0	1016.0	1015.8	1015.5
波浪	3	3	3	3	3	2	2	3	2	3	3	3
うねり	2	2	2	2	3	3	2	3	3	3	3	3
水色	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3
透明度	23	23	23	23	23	23	23	23	22	22	22	22
流向・流速			107°0.2kt			90°0.18kt			192°0.3kt			297°0.3kt
0m	27.9	28.0	27.9	28.1	27.9	28.0	28.1	28.1	28.1	28.0	28.0	28.1
10	27.9	28.0	27.9	28.1	27.9	28.0	28.1	28.1	28.1	28.0	28.0	28.1
20	27.6	27.5	27.5	28.1	27.9	28.0	28.1	28.1	28.1	27.7	28.0	27.8
30	26.8	27.1	26.7	26.4	27.7	26.4	27.1	26.9	28.1	26.5	28.0	26.7
50	25.7	25.8	24.3	24.8	24.6	25.5	25.2	26.5	25.8	25.1	25.6	24.7
75	22.0	21.7	23.1	21.0	22.6	22.3	21.9	22.6	22.3	23.8	22.8	22.7
100	20.4	21.2	21.1	19.9	20.7	20.0	20.0	20.4	20.0	20.5	20.3	20.7
150	19.0	18.9	18.9	18.7	18.7	18.4	18.1	18.7	18.2	18.4	18.5	19.1
200	18.0	17.1	18.0	18.2	17.7	17.4	17.3	17.6	17.3	17.4	17.1	17.6

付表2. サンゴ網採集生物

種 名	St.	No. 1	No. 2
		水 深 100~130m	水 深 30~120m
海綿動物門	PORIFERA		
尋常海綿綱	Demospongiae		
不明種(5種)		○	
腔腸動物門	COELENTERATA		
ヒドロ虫綱	Hydrozoa		
ヒラタオベリア	Obelia plana	○	
コバネキセルガヤ	Lictorella stechowi	○	
ネジキセルガヤ	Zygophylax curvitheca	○	
ニホンキセルガヤ	Z. pacifica	○	
キセルガヤ	Lafoea fruticosa	○	
ウモレキセルガヤ	Grammaria immersa	○	
ツツウミシバ	Synthecium campylocarpum	○	
ゴトウウミシバ	Symplectoscyphus gotoi	○	
ヒメウミカビ	Amphisbetia furcata		○
テングサウミカビ	A. pacifica		○
ハボウキガヤ	Antennellopsis integerrima	○	
クロガヤ	Lytocarpia nigra		○
シロガヤ	Aglaophenia whiteleggei	○	
ダメサンゴ	Stylaster profundiporus typica	○	○
エノシマサンゴ	S. profundiporus crassicaulis	○	
ムシノスサンゴ	S. gracilis	○	
キセルサンゴ	S. yabei	○	
ヨコアナサンゴ	Distichopora borealis japonica	○	○
花虫綱	Anthozoa		
チヂミトサカ	Nephtea chabrlii	○	○

種 名	St.	№. 1 水 深 100~130m	№. 2 水 深 30~120m
イ ソ バ ナ <i>Melithaea flabellifera</i>		○	
イ ソ ハ ナ ビ <i>Acabaria tenuis</i>			○
ト ク サ モ ド キ <i>Parisis fruticosa</i>			○
オ オ キ ン ヤ ギ 属 <i>Primnoa sp.</i>		○	
ト ゲ ハ ネ ウ チ ワ <i>Plumarella spinosa</i>		○	○
ホ ソ キ サ ン ゴ <i>Dendrophyllia fistula</i>		○	○
触 手 動 物 門 T E N T A C U L A T A			
苔 虫 綱 <i>Bryozoa</i>			
シ ロ ヒ ゲ コ ケ ム シ <i>Crisia eburneo-denticulata</i>			○
ホ ソ ス シ ム ダ コ ケ ム シ <i>Tubulipora atlantica var. flexuosa</i>		○	
ミ カ ド コ ケ ム シ <i>Lichenopora imperialis</i>		○	
ナ ガ ホ ソ ト ク サ コ ケ ム シ <i>Cellaria tenuirostris</i>		○	
ウ ス エ ダ コ ケ ム シ <i>Caberea bryi</i>		○	○
チ ゴ ケ ム シ <i>Dakaria subovoidea</i>		○	
コ ブ コ ケ ム シ <i>Celleporina japonica</i>		○	
ホ ツ ツ ノ コ ケ ム シ <i>Adeonellopsis yarraensis</i>		○	
ツ ノ コ ケ ム シ <i>Adeona japonica</i>		○	
ホ ソ ア ナ ミ コ ケ ム シ <i>Iodictyum polycrenulatum</i>		○	○
マ ガ リ ク ダ エ ダ コ ケ ム シ <i>Margaretta ceveoides</i>		○	
棘 皮 動 物 門 E C H I N O D E R M A T A			
ク モ ヒ ト デ 綱 <i>Ophiuroidea</i>			
ト ゲ ク モ ヒ ト デ <i>Ophlothrix koreana</i>		○	
ナ ガ ト ク モ ヒ ト デ <i>O. marenzelleri</i>			○

〔 V 〕 東京都海域における
天然礁の概要

〔 V 〕 東京都海域における天然礁の概要

目 次

1. はじめに	16
2. 東京都管下漁場の概要	16
1) 漁場の位置（範囲）	17
∴ 第1図 海嶺、海台、海溝、海盆分布図	18
第2図 著名な魚礁（漁場）分布図	19
第3図 西アリアナ海嶺上の礁	20
第4図 日吉丸場発見に輝く日吉丸	21
第5図 日吉丸による海底地形図	22
2) 漁場構成	22
3) 特殊漁場	22
3. 海底火山起因の魚礁（漁場）について	23
1) 形成の理由	23
2) 礁、海山のない固定漁場	23
4. 魚礁（漁場）の発見について	24
∴ 第1表 漁場発見経緯	24
第2表 各礁別発見記録	24
5. 東京都管下における魚礁（漁場）の分布とその発見	26
1) 表の説明	48
(1) 魚礁の海域について	48
(2) 魚礁の水深変化について	48
(3) 礁位の記載について	48
(4) 記載凡例	49
∴ 第3表～第12表	51～116
6. おわりに	121
7. 参考資料	121
8. 参考文献	126

1. はじめに

日頃われわれ海辺育ちの漁業者にとって、多くの“魚礁”は生活基盤の安定の場として魚介草類の恩恵によくするところが多く、漁業者にとっては大へんに有難いことで、感謝の気持で一杯である。

これら海洋資源生物の多くが天然魚礁を棲場として産卵・育成と再生産の場とし、魚族にとっては最適の「住み家」であり、漁業者にとっては最適の好漁となる。

しかしながら、近年では大型漁船（トロール等）による天然魚礁の破壊（外国漁船も含む）、或いは不腐材料を主とする産業廃棄物の投棄による漁場価値の低下等が多く、天然礁と云へども魚族にとっては必ずしも安住の棲場とはなくなりつつある。

今日、全国的に人工魚礁等による各種の漁場造成が行われ、資源の管理維持や安定に莫大な経費を費やしていることを思えば、天然礁の管理に今後ますます留意する必要がある。

自然の恩恵であるこれらの天然礁は、明治末期より現在とは比較にならない幼稚な設備の僅か数トンの小船で、意気高々と万里の波濤をけり“水産日本”のために幾多の諸先人によって艱難辛苦の結果発見されたものの貴重な蓄積によるものである。

これらの先輩諸氏に万腔の感謝の意をこめながら、その後世に残された多くの魚礁（海山含む）を整理し、なお一層の敬けんの念の湧くのを覚えた。今は亡き海底に永眠された多くの諸先輩に衷心より感謝を捧げ冥福を祈る次第である。

これらの天然礁は子々孫々に至るまで恒久的に有効に活用するための一環として、今回東京都管下における天然礁の記録をとりまとめた。また、この魚礁分布記録は省エネルギーの現在、能率的な漁業の操業度或いは船舶保安上等に寄与すること希い、諸先輩の資料を基に筆者の海上勤務当時の経験を加えて記録したものである。

終りに本文の取まとめにあたって、多くの諸先輩は勿論のこと、多くの漁船乗組員の方々、海上保安庁水路部、各水産研究所、各関係水産試験場及び漁業組合の方々に御教示いただき、衷心より感謝の意を表します。

2. 東京都管下漁場の概要

東京都管下の漁場は富士火山帯の延長上伊豆諸島を始め、延々千数百軒に及び、大海嶺や沖ノ島・南鳥島などを含む各島しょの周辺、或いは海台上に数多くの魚礁（海山）があり、東京都

※（東海大学海洋学部 教授）

は誠に天与に恵まれた広大な海域の所有者である。

また、専管200哩の新海洋時代となり、東京都管内の漁業専管水域は約50万平方哩に及び、わが国の総水域112万6千平方哩の約5分の2を占めるその海域内には、他海区とは比べものない数多くの魚礁があり、今後は水産資源のみならず各種の鉱物資源等にもかなりの期待がもたれるところである。

これらの漁場(魚礁)は往事より固定的な好漁場として、回遊魚・根付魚・底棲魚・サンゴ漁業等の安定した漁獲率の高い固定漁場となっている。

海嶺や海谷付近に分布する多くの諸魚礁は、将来とも多くの漁船が操業し、特に島付き・根付き(瀬付き)のカッコなど回遊魚にとって、その魚礁分布は今後とも操業上において高漁獲の生産に寄与するところであり、また測深航法、海底火山爆発等の資料は操業上における船舶の安全にも大いに貢献するところである。

東京都管内の各漁場には一般国民にも忘れ勝ちである南海の弧島(南鳥島・沖ノ鳥島)や小笠原群島は専管漁場水域の基となっており、これらの島々の行政上の管轄や発見等の沿革についてもその概略を記した。

1) 漁場の位置(範囲)

東京都管内の漁場は南北には極めて長く、北部は伊豆大島の北側約15マイルでそれぞれ千葉、神奈川、静岡の各県海域と接している。

南は沖ノ鳥島の南200マイル(北緯 $17^{\circ}05'$)となって我が国の漁業専管水域の最南端である。したがって南北の総距離は約1,150マイルに及んでいる。東北の距離は東経 $157^{\circ}37'$ (南鳥島の東方200マイル)より西は東経 $132^{\circ}32'$ (沖ノ鳥島の西方200マイル)の間で約1,400マイルに及んでおり、南側ほど広がっているが北端は僅か20マイル程度である。

全体的には三角形の広大な面積で温帯より熱帯海域にまたがり、水温及び水質も著しい変化がある。そのためこの海域の漁場(魚礁)に謂集する魚族も多彩で有用魚種の濃密群も多く、年間を通じて高漁獲があり経済的な面においても屈指の好漁場となっている。

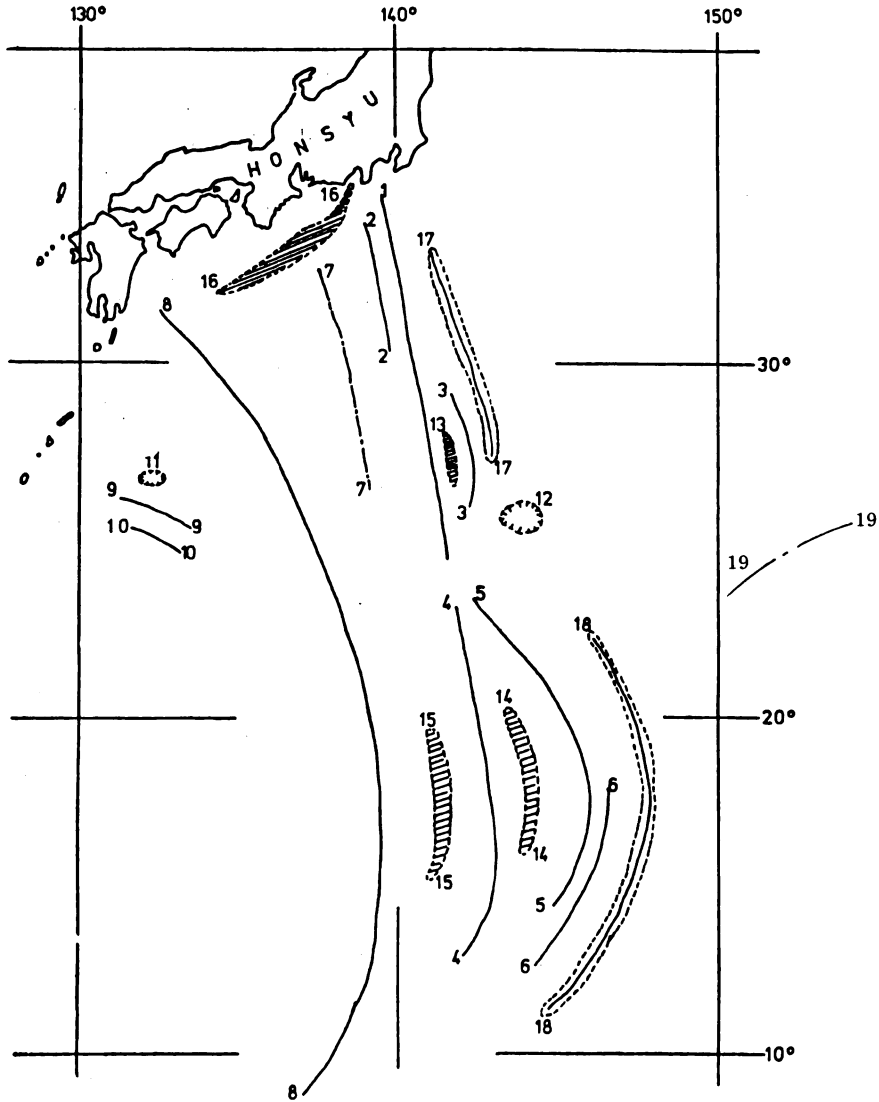
なお、第1図は魚礁の分布に重大な関係のある海嶺、海台、海溝、海盆などの分布を示す。

第2図は主な魚礁(海山)の分布である。

第3図は伊豆諸島及び硫黄島海嶺、西マリアナ海嶺の断面図である。

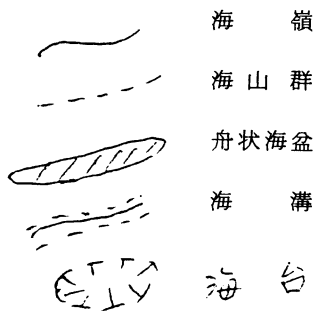
第4図は日吉場発見の功績に輝く日吉丸

第5図は昭和11年に日吉丸坂本忠作船長の作成した海底地形図で、海軍水路部に資料として提出した。

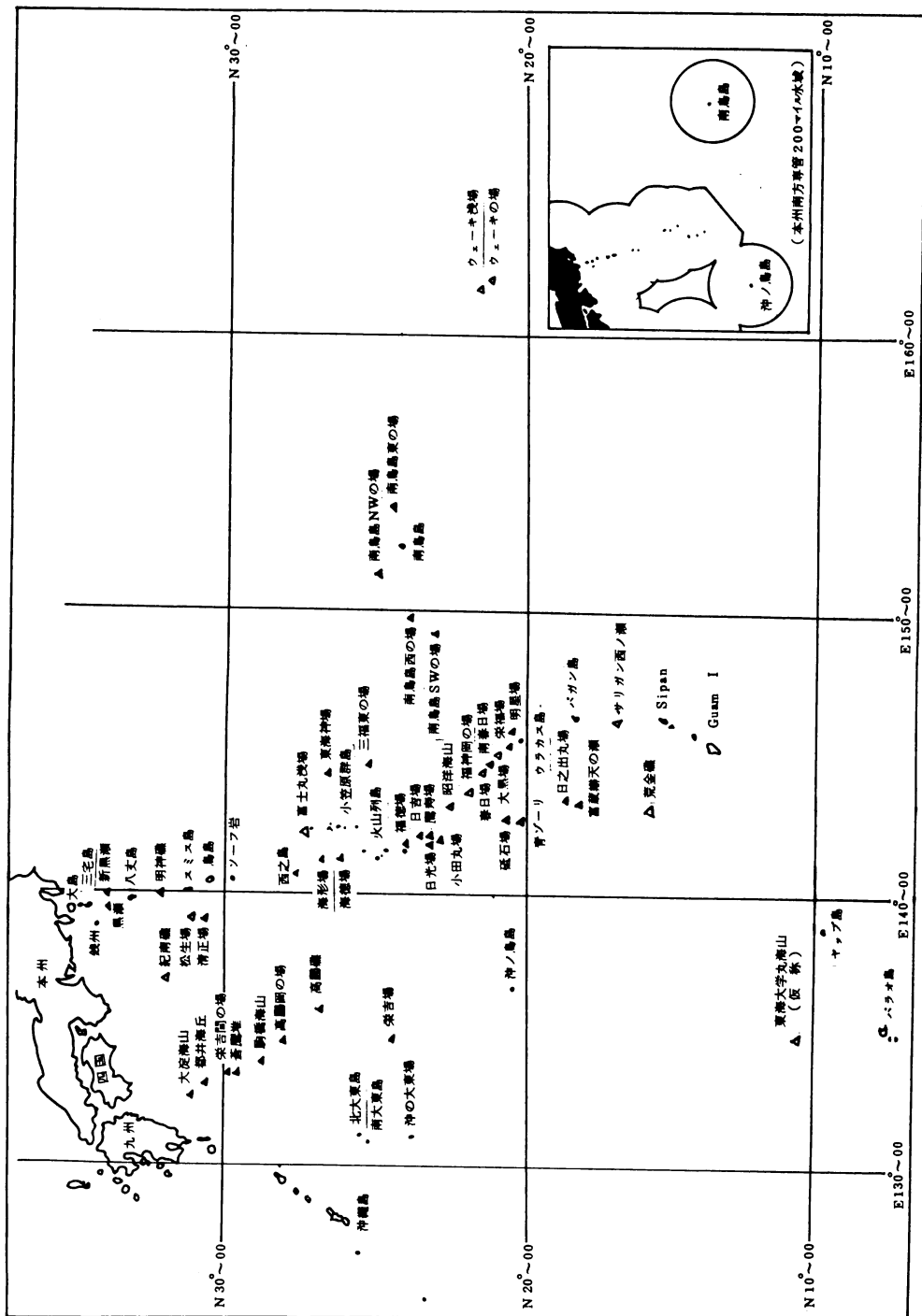


第1図 海嶺、海台、海溝、海盆分布図

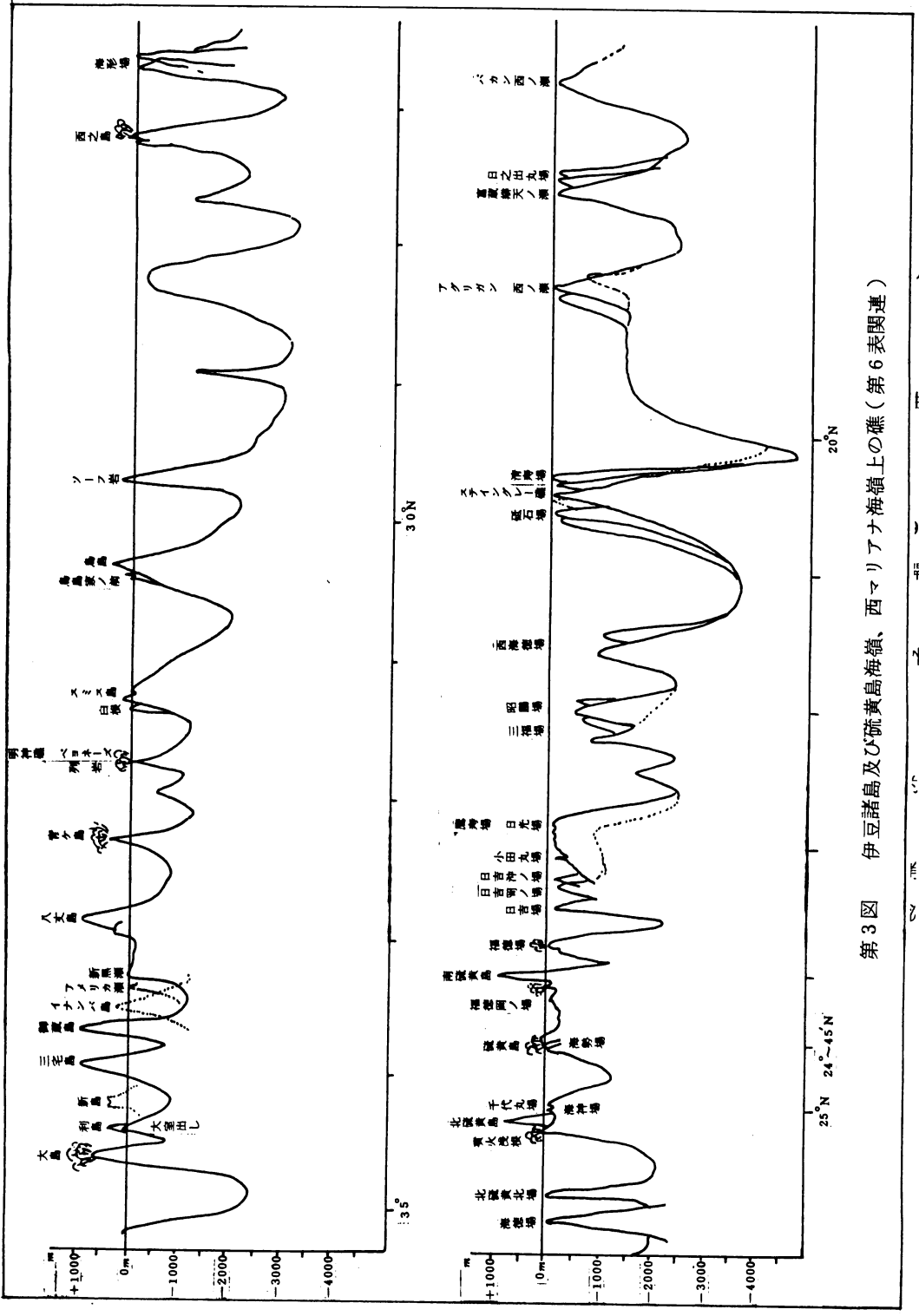
凡例



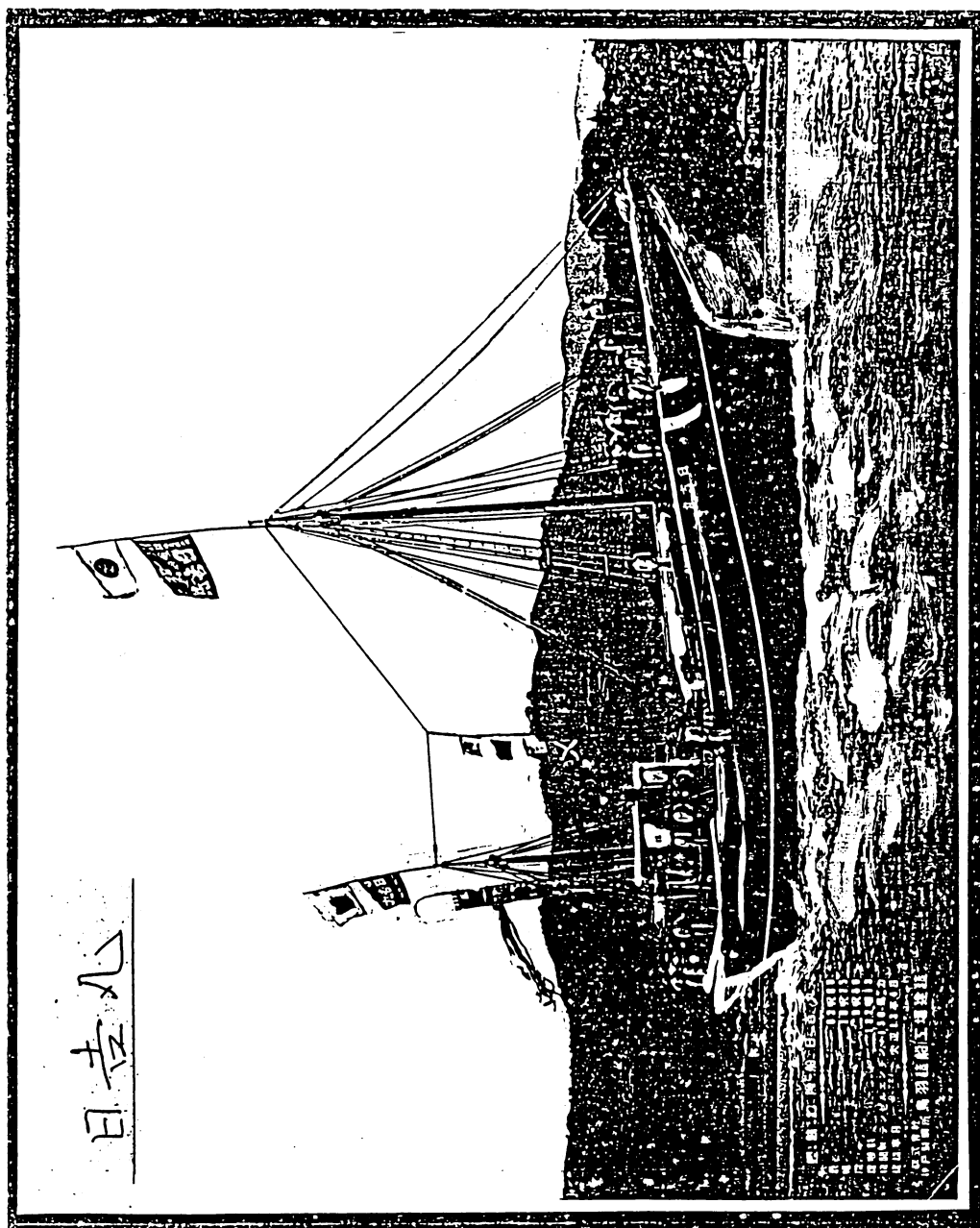
- | | |
|-------------|---------------|
| 1. 七島、硫黄島海嶺 | 11. 庵美海台 |
| 2. 西七島海嶺 | 12. 小笠原海台 |
| 3. 小笠原海嶺 | 13. 小笠原舟状海盆 |
| 4. 西マリアナ海嶺 | 14. マリアナ舟状海盆 |
| 5. 中マリアナ海嶺 | 15. 西マリアナ舟状海盆 |
| 6. 東マリアナ海嶺 | 16. 南海舟状海盆 |
| 7. 紀南海山群 | 17. 伊豆小笠原海溝 |
| 8. 九州パラオ海嶺 | 18. マリアナ海溝 |
| 9. 大東海嶺 | 19. マーカス・ウェーキ |
| 10. 沖大東海嶺 | 海山群 |



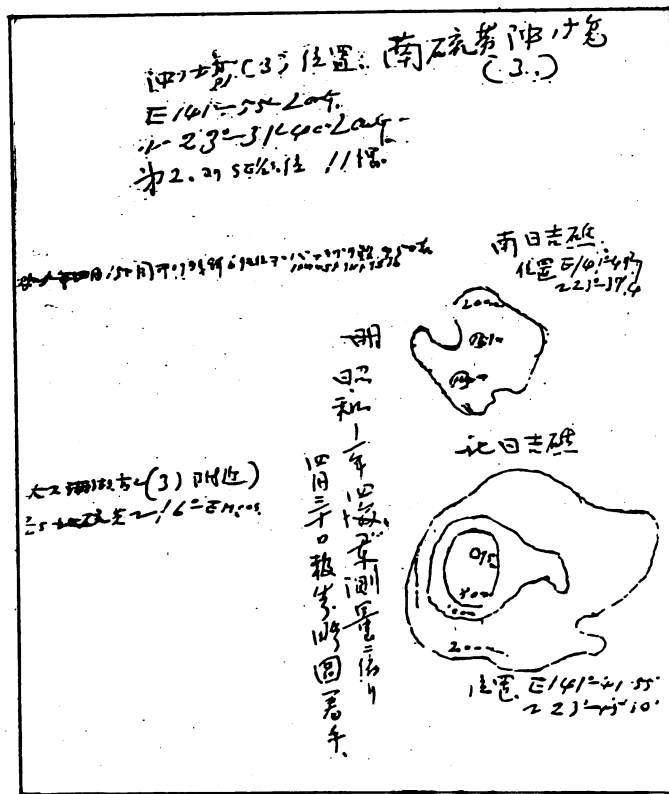
第2図 著名な魚礁分布図



第3図 伊豆諸島及び硫黄島海嶺、西マリアナ海嶺上の礁 (第6表関連)



第4図 日吉丸 場発見に輝く日吉丸



第5図 日吉丸による海底地形図

2) 漁場構成

第1図に示すように南北に並走する数条の大海嶺、大海溝、舟状海盆、その他海山群、海谷がある。ことに伊豆諸島海嶺、硫黄海嶺は第四期の活動期中の活火山、活海底火山があり、海底火山起源の魚礁（海山）が多く点在し、優秀な固定漁場として根付き性の回遊魚および底棲魚の漁場となり、安定した高生産をあげている。

加えて、黒潮の大海流がこれらの海嶺上を洗っているため、この海嶺、海溝、火山島、海底火山性魚礁付近には海流（黒潮流・小笠原反流）や冷水塊（特にB、C、D型）等が出現して良好の漁場が形成される。

3) 特殊漁場

- (1) 第四期の活動期にある富士火山帯の延長上にあり、海底火山活動の海域にある火山性の島、岩、礁の出現は航海或いは漁業の操業上においても大いに警戒すべき海区である。
- (2) 将来とも汚染度が少なく、岩岬の磯での回遊魚であるカツオやマグロ類等の漁獲、沖合のサンゴ漁業、来遊するカメの養殖、保護などもある天然に恵まれた特殊漁場である。

3. 海底火山起因の魚礁（漁場）について

海底における火山性の魚礁についてはいろいろあり、▽、△、≈、☪等の記号で区分し、それぞれの火山性の魚礁が普通の魚礁に比べて、漁場価値がより高い点が多いのでその理由を考察した。

魚礁（海山）は、中層に多く含む珪酸塩や硝酸塩などの栄養塩が、魚礁付近でひき起される湧昇流によって表層近くに運ばれ、植物性プランクトンの繁殖が促進し、それについて動物性プランクトン、小魚、大型魚の順に多くの集合がみられ、これらの食物連鎖によって漁場が形成される。

1) 形成の理由

海底火山起因の魚礁は次の理由で更に好漁場を形成する。

- (1) 火山ガスの中に含まれる鉄（Fe）、マンガン（Ma）等が少量ではあるが噴出し、これらの無機物質が植物プランクトンの肥料（栄養）となり、好漁場の要因の一つとなっている。
- (2) 火山活動にともなう気泡の発生、浮上の現象が魚族の謂集に大いに役立っている。
- (3) 噴山により礁上の岩面が破壊され、そこに生棲している種々の小生物、例えばゴカイ類、海草類或いは付着性の卵などが噴出物とともに浮上して魚族の餌料となる。
- (4) 太陽光線の浸透する恵まれた環境にある浅い海の岩礁には、多くの小生物の棲息に適するため、噴火の場合はよりよい漁場となることもある。
- (5) 礁上の凹部などには堆積した砂、泥、礫などが多く、この堆積物質中には生息する生物が噴出物とともに浮上して餌料となる。
- (6) 海底火山の活動により海底の擾乱があり、付近の海中の混濁がある。多くの魚族は底質による「濁り」に魚族が群集する習性があるので、好漁場の要因の一つとなる。
- (7) 火山活動にともなう海水の「濁り」および噴出する軽石群は、浮上して海面に漂流するので、これにより太陽の直射をさえぎり、海面下には陰影部分が出来あがる。

魚族は一般に陰影部分に群集する習性があり、従来からも洋上に浮遊する流木などにカツオ、キメジ（キハダマグロ幼魚）、ダルマ（クロマグロ幼魚）、シイラなどの回遊魚が集まり、これを発見した漁船は短時間に大漁することがあり、漁船の間ではこれを「木付」と云い、これによる大漁の実例が実に多い。

- (8) 軽石群（ことに径の大きいもの）には約一週間後にエボンガイ、カキ及びアオサ類のコケが付着し、また特殊なカニ及び幼生（漁師間ではこの小さい透明なカニ類をザリガニと呼んでいる）などがつき、小魚の餌となり、大型魚の餌料となる。

前項に記した「木付」或いは「鮫付」、「鯨付」と同じ様に浮遊物の場でも同様な効果が

あり、小規模漁場となる。

(9) 爆音にともなう海水の震動が魚族を刺激し、その音源や震動(含む海水振動)の発地点に群集する習性もその好漁場の要因と考えられる。

(10) 噴火現象によって、海水温度が変化し礁上の水域内での魚族の移動をうながし、その行動に刺激を与える。

(11) 硫黄流、噴出硫黄流の変色水域内において、ダルマ、キメジなどの大漁する事例もあるが理由は不明である。

以上のように火山性の魚礁には特徴があり好漁場の要因と考えられる。

2) 礁、海山のない比較的深海の固定漁場

魚礁、海山のない海域が固定漁場となるには、深海より火山性噴出物が湧昇する可能性、あるいは他の理由により湧昇流のある海域が考えられる。

他に異水質の境界水域の出現し易い海域で、海洋構造条件が魚族に適したとき(季節等)に群集することが考えられる。

4. 魚礁(漁場)発見について

この管内海域の好漁場は明治に入ってから、船舶の航行区域、漁船の操業区域の拡大にともない、つぎつぎと発見開拓された。

これらの魚礁(漁場)について現在の近代的な装備で、改めて測定すればその位置、水深等に若干の修正を要するものもあると思われるが、一応当時の記録にしたがって、出来るだけ忠実にとりまとめた。

表1表 漁場発見経緯

年次別	漁場
1898年(明治31年)	三宅島
1908"(" 41")	黒瀬、八丈島その周辺海域
1909"(" 42")	青ヶ島周辺海域
1912"(" 45")	ハロース(ベヨネーズ)、スミス島周辺
1913"(大正 2")	
1915"(" 4")	鳥島、その周辺海域
1916"(" 5")	ソーフ岩、その周辺海域
1919"(" 8")	西之島、その周辺海域

1919年(大正 8年)	小笠原群島、その周辺海域
1922年(" 11)	硫黄島
1923年(" 12)	富士丸マリアナ群島調査
1925年(" 14)	海洋場
1926年(" 15)	海徳場
1929年(昭和 4)	台湾沖漁場開拓
1930年(" 5)	ウラカス明星場、アグリガン西瀬
1930年(" 5)	南洋群島、南支那海漁場開拓
1931年(" 6)	福徳場
1932年(" 7)	高鵬場(九州、パラオ海嶺)
1933年(" 8)	日吉場
1933年(" 8)	西カロリン群島、パラオ西漁場開拓
1934年(" 9)	ルソン沖漁場開拓
1935年(" 10)	春日場、福神場
1935年(" 10)	松生場(西七島海嶺)
1936年(" 11)	トラック諸島漁場開拓
1937年(" 12)	三福場、小笠原海神場
1940年(" 15)	鷹寿場
1963年(" 38)	富蔵弁天の瀬(マリアナ西方海域)

第2表 各礁別発見記録

- ① 銭州 伊豆石室崎の南約40湊、北緯 $33^{\circ}56.5'$ 、東経 $138^{\circ}4'3$ 、1876年(明治8年)、伊豆…静岡県松崎村の人、稲葉半七…(発見した船名不詳、一説には、神津島の山頂より望見したと伝えられている)発見す。高さ13m。
1912年(大正元年)8月軍艦“松江”測量す。
1922年(大正11年)鉄製の杭柱建設、点灯取止め。
岩の周囲は根付魚類多く、帆走櫓船時代は、この州まで行けば金の州…金庫…と同意味の漁獲されることから、銭州…ゼニの州と名付けられた。周りの礁上には、ヒロメ、フノリなどの海草が茂り、ペラ、カサゴ、メジナ、イセエビが多く、他にカツオなども豊富である。
- ② 松生場 銭州の南方約175湊、北緯 $30^{\circ}58.5'$ 、東経 $138^{\circ}58.0'$ 、水深56~180m。
1935年(昭和10年)7月静岡県志田郡焼津町、田中金松所有のカツオー本釣漁船、松生丸、船長 田中金弥により発見され、カツオなど大漁を続けた。操業中は、設標した。
松生丸は、漁場発見の功により、静岡県水産会長より表彰された。
- ③ 西之島漁場 小笠原父島の西方約70湊、北緯 $27^{\circ}14.0'$ 、東経 $140^{\circ}54.0'$ にあり、1918年(大正7年)静岡県御前崎、焼津のカツオー本釣漁船 松生丸(t)により漁場を開拓された。
その島の周辺は、周年カツオ、マグロ(ピンチョウ 4月上旬前後)カツオなどの回游魚の外、カサゴなどの根付魚が極めて多い。
この島は、1973~74年(昭和48~49年)海底噴火を起した。
- ④ 海形場 西の島の南方約35湊の北緯 $26^{\circ}46.0'$ 、東経 $140^{\circ}57.0'$ 、東西約2湊、南北約3湊、水深約140m、底質、石花礁の魚礁で、1925年(大正14年)3月24日(19焼津市 : 註 日本鮭鮪釣漁業水産組合の発表は1926年(大正15年)4月9日とある)静岡県榛原郡御前崎村大澤情治郎所有カツオー本釣漁船“海形丸”(88t200HP)船長 大沢常吉、漁撈長 益田良吉、機関長 によって発見された。
発見当時、カツオ、キワダなどの大群に乱舞する海鳥群を認め、操業始まるや短時間で満船状態の大漁した。この魚群は測深の結果、浅礁上に群集したものであった。その後数航海、続けて大漁した。後他船にも知られ、優秀な漁場として現在に至っている。
海形丸は、魚礁発見の功績により、県水産会長より表彰された。なお海形丸は日本漁船で最初に音響測深儀を装備し、魚群を求め航走しつつ、魚礁、海山を発見、漁獲生産の向上と共に海底地形を明かにし、海図作成上に大いに寄与した。またこの礁発見後、七島、硫黄島、海嶺上さらに西マリアナ、中マリアナ、小笠原、西七島の各海嶺上に魚礁、海山が次々と発見された。

なお、操業中は設標（マリウケ）して礁の目標とした。

- ⑤ 海徳場 西之島の南方約55哩の北緯 $26^{\circ}18'5$ 、東経 $141^{\circ}05'0$ に通称“海徳北の場（北の瀬）”とも呼ばれ、最少水深105m、1926年（大正15年）11月28日、静岡県御前崎村 沢入幸助所有船、“海徳丸”（85t、150HP）、船長 伊村万次郎、漁撈長 山崎平四郎、機関長 によって発見された。

1927年（昭和2年）4月、海徳東の瀬、北緯 $26^{\circ}08'0$ 、東経 $141^{\circ}06'0$ の地点に水深304mを発見、さらに同年6月に、その南西約10哩、北緯 $26^{\circ}03'0$ 、東経 $140^{\circ}56'0$ の地点に水深250m、海徳西の瀬（場）を発見した。各礁に設標して操業の目印とした。

これらの魚礁は、カツオ、サメ、キワダなどの漁獲が多く、発見以来5航海は連続満船的な大漁を続け、その後他船と共に現在まで、優良漁場として高い漁獲生産をあげている。

船長 伊村万次郎は、この功により静岡県水産会長より表彰された。（表彰状 別紙）

- ⑥ 福德場 南硫黄島の南々東約13哩、北緯 $24^{\circ}06'4\sim04'0$ 、東経 $141^{\circ}35'0\sim37'0$ 、最少水深100m、周りは急深の尖礁で、海底活火山である。

1931年（昭和6年）秋の漁季、静岡県焼津町小川の小林惣一郎所有漁船“第1福德丸”（130t、200HP）、船長 吉田鹿蔵、漁撈長 、機関長 によって発見され、カツオ、キメジ、ダルマ、サメの好漁場で現在まで高い生産をあげている。

船長 吉田鹿蔵はこの功績により、県水産会長より表彰された。

註：この礁は、1962～65年（昭和37～40年）同県戸田村、中島繁所有漁船、毘沙門丸の漁場長 中島氏らが操業中礁上より多量の硫黄が噴出し、その変色水中から、ダルマ、キメジなどがよく釣れたが、いつ大爆発に遇いかと不安を感じながら、一方夢中になって操業した。操業中は設標して礁の位置的な目印とした。

註：1978年（昭和53年）月、水路部測量船“照洋”の測定の結果、最少水深は210mであった。なお、水路部はこの魚礁を“福德海山”と命名した。

なおこの礁は、西瓜の浮流によって他船に発見されたため「スイカ場」とも云う。

- ⑦ 南日光場 南硫黄島の南々東約70哩、北緯 $23^{\circ}14'5$ 、東経 $141^{\circ}32'5$ 、水深52～60mの浅礁で、1947年（昭和29年）10月、静岡県御前崎町、藪田国平所有漁船第8日光丸（221t、500HP）、船長 伊藤表吉、漁撈長 高塚勝蔵、機関長 松下春雄らによって発見され、カツオ、メジなどの漁獲の多い魚礁である。操業は設標し操業の能率を計った。

- ⑧ 鷹寿場 日光場の西方約10哩、北緯 $23^{\circ}14'0$ 、東経 $142^{\circ}24'0$ 、1940年（昭和15年）9月、静岡県榛原郡御前崎村、沢部松蔵所有漁船“鷹寿丸”（126t、 HP）、船長 、漁撈長 、機関長 によって発見された。

この礁は、南北約1哩、東西約3哩で、最浅部は90m、周年カツオ、マグロ群が多く、良漁場となった。(焼津市史)

- ⑨ 日吉場 南硫島の南々東約30～50哩の間(北緯23°47.0'～23°28.0'、東経141°43.0'～141°58.0')にある。

1933年(昭和8年)9月26日、静岡県榛原郡御前崎村、沢入市兵衛所有船“日吉丸”(135t、HP)、船長 坂本忠作(現在87才)、漁撈長、機関長によって北緯23°39.0'、東経141°47.0'に水深180mの礁を発見、キハダ、カツオなど、数航海満船の大漁をした。操業回数を重ねる度に、その付近南北方向に、新礁が次々と発見され、回游魚の他に根付魚も豊富で、有数の大漁場となり現在まで高い生産をあげている。最近海底火山活動が盛んで、水深30mの報告があり、航行上充分注意する必要がある。

焼津市史、および日本鯉鮪釣漁業水産組合によれば次表のようである

礁(場)名	位置	水深	底質	広さ (哩) 南北 東西	発見 昭和 年月
日吉岡の場	23° 47.0' N 141 43.0' E	53m		1.0 0.5	(1935) 10. 4
日吉中の場	23 38.5' N 141 47.5' E	150m		1.0 1.0	(1935) 10. 5
日吉沖の場	23 30.0' N 141 58.0' E	180m		0.8 1.0	10. 5
日吉丸 154トン34と記してある					

日吉丸船長 坂本忠作氏は、漁場と共に熱心に礁などの測深を行い、海底地形図を作成し、その資料を海軍水路部(当時担当管 岸人三郎少佐、後に海軍少将)に報告した。

※ 参考資料欄に当時の水深記録図、表彰状あり。

- ⑩ 福神岡の場 南硫黄島の南東約180哩、北緯21°56.0'、東経143°28.0'。

1935年(昭和10年)5月、静岡県榛原郡御前崎村、伊村徳平所有漁船“福神丸”(116t、HP)、船長 藪田国平、漁撈長 伊村伴次郎、機関長 伊村佐次郎、航海士 清水虎次らによって発見され、当時の水深167mであった。(焼津市史：水深210m、周り1.2哩)。発見当時は、カツオ、キワダの大群あり、大漁したが、火山活動は認められなかったため、設標して操業した。

この礁は1973年(昭和48年)9月27日以後、相当活発な海底火山活動があり、水深3mの浅礁が記録された(三社丸)。

注：資料は、当時の乗組員の御前崎町の下村吾平氏の好意による。

- ⑪ 春日場 北緯21°57.0'、東経143°29.0'。

1935年(昭和10年)4月、静岡県榛原郡御前崎村、増田権三郎所有“第2春日丸”(126t、約200HP)、船長 増田権次郎、漁撈長 吉村又右エ門、機関長 寺田 らによって発見された。

南北 4 湮、東西 2 湮、最少水深 140m。

周年 鯉、鮪群多い。

資料は、現在資料 増田行男による(1980)。

- ⑫ 南春日場 北緯 $21^{\circ}36'0$ 、東経 $143^{\circ}28'5$ 。水深300m(1976年昭和5年、水路部の測量の結果274mの浅所を測得した。)

1935年(昭和10年)、宮崎県南那珂郡南郷村明井津、西村伝作所有漁船“第1春日丸”(110t—鋼船)、船長 山崎甚作、漁撈長 坂本熊被、機関長 坂本操平、通信長 西村清三郎らによって発見された。

キワダ、マグロ、カツオを大量の漁獲があった。

註：春日丸の名称は、当時農林省水産試験場の春日場長の“春日”をとって船名とした。

- ⑬ 三福場 北緯 $22^{\circ}50'1$ 、東経 $142^{\circ}36'7$ 。

1936年(昭和11年)春の漁季(焼津市史 昭和12年6月)、愛媛県宝飯郡三谷町、小田忠平所有船“三福丸”(161t、88、320HP)発見、周囲2.3湮、最少水深180m。

この礁は周年、鯉、鮪群が多い。設標は250等(約370m)の深さであった。船長 益田、漁撈長 松下忠造、機関長 小笠原。

(三氏は、静岡県榛原郡地頭方出身) (資料：焼津市史)

(および当時三福丸乗組員の楠田慎松氏による)

- ⑭ 大黒場 北緯 $21^{\circ}15'0$ 、東経 $144^{\circ}12'0$ 、水深600m。

1936年(昭和11年)の春の漁季、静岡県榛原郡地頭方、清水新蔵所有、カツオ一本釣漁船“大黒丸”(110t、200HP、釣船)、船長 相原房吉、漁撈長、機関長

らによって発見された。

キメジ、サメ、ダルマ等を大漁して、大黒海山と命名した。

- ⑮ 栄福場 南硫黄島の南東約230湮、北緯 $21^{\circ}24'5$ 、東経 $144^{\circ}08'5$ に水深350m～600m。

1936(昭和11年)春の漁季、静岡県榛原郡御前崎村、小野田八郎左エ門所有漁船“栄福丸”(120t、200HP)、船長 鈴木良一、機関長 小野田喜作、漁撈長 らによって発見された。

発見以来、カツオ、キワダ、マグロ等の好漁場となった。

- ⑯ 海勢場 硫黄島と北硫黄島の間、北緯 $24^{\circ}54.0'$ 、東経 $141^{\circ}10.0'$ 、水深 $60\sim156\text{m}$ 。
 1931年(昭和6年)春の漁季、静岡県榛原郡相良町地頭方、清水 所有カツオー本釣漁船“海勢丸”(木造船 約 100t 、 HP)、船長 、漁撈長 、機関長
 らによって発見された。カツオ群多し、また火山性硫黄流の変色水帯中から、キメジ、ダルマの漁があった。
- ⑰ 新海徳場 北緯 $30^{\circ}56.8'$ 、東経 $138^{\circ}39.0'$ 、水深 145m 。
 1937年(昭和12年)春の漁季、静岡県榛原郡御前崎、沢入又十所有カツオ漁船“海徳丸”(鋼船、 199t 、 330HP)、船長 、機関長 、漁撈長 らによって発見された。カツオの好漁場である。
- ⑱ 砥石場 北緯 $20^{\circ}34.5'$ 、東経 $142^{\circ}23.0'$ 。
 1949年(昭和24年)春の漁季、静岡県清水市、清寿漁業株式会社所有船カツオー本釣漁船“第2清寿丸”(150t 、 HP)、船長 岡田喜一、漁撈長 佐藤真二、機関長
 ら魚群を求めて調査航行中、前記地点の海中に青白い海底を認め、直ちに船を急停止し、甲板にある砥石にマグロ縄で縛り、アリウケとして設標した。この礁の名称を砥石場と名付けた。カツオ、キワダ、サメを大漁した。満船と同時に第5清寿丸に報せた。この資料は、当時通信長の桑原昭の提供。
- ⑲ 青ゾウリ場 北緯 $20^{\circ}29.9'$ 、東経 $142^{\circ}25.5'$ 、水深 14m 。
 1936年(昭和11年)11月、静岡県榛原郡御前崎、沢入市兵衛所有漁船“日吉丸”(135t 、 HP)、船長 坂本忠作、機関長 、漁撈長 らによって発見した。礁名は、船が漂泊中、ゴム製の青ゾウリを過って落した処、青ゾウリが礁上で止まり、沈まなかったためである。他は礁が青白く見えたのでこの名をつけたという。カツオ、サメ、ダルマ等が多く、豊漁した。資料は、坂本船長による。
- ⑳ 日之出丸場 北緯 $18^{\circ}03.0'$ 、東経 $143^{\circ}07.0'$ 、水深 浅い処は $23\sim25\text{m}$ 、礁の長さは、東西 $4\sim5\text{km}$ 、南北 km 。
 1936年(昭和11年) 月、静岡県 郡田子村、松田 の所有のカツオー本釣漁船第5日之出丸(150t 、 320HP)、船長 、機関長 、漁撈長
 らによって発見された。
- ㉑ 小田丸場 鷹寿場の西約6哩の地点、北緯 $23^{\circ}14.0'$ 、東経 $141^{\circ}24.0'$ 、水深 90m 。
 1960年(昭和35年)10月、秋の漁季、静岡県榛原郡御前崎町、川口康一所有漁船“小田丸”(木造約 46t 、 250HP)、船長、兼漁撈長 小田孫一、機関長 小栗伝作らによって発見された。漁は主に根付の底魚で、手釣によりハマダイ(オナガ)・チビキ(アカサバ)であった。操業中

は設標（アリウケ）を設け、能率的操業のため、礁の位置の目印とした。

㊸ 黒瀬、新黒瀬、八丈島付近の漁場 北緯 $34^{\circ} \sim 33^{\circ}$ 。東経 $139^{\circ} \sim 140^{\circ} 20'$

1931年（明治41年）4月27日より、静岡県榛原郡焼津町、東海遠洋漁業株式会社（社長 片山七兵衛）所有漁船

高草丸（木造 28t32 20馬力）	船長 鈴木吉太郎	機関長 北原 万一
東洋丸（木造 23t94 20馬力）	“ 北原 新吉	“ 鈴木 兼吉
富久丸（木造 26t65 20馬力）	“ 松永 興吉	“ 鈴木安太郎

らによって発見された。

カツオなど大漁を続けた。以後、船型、機関共に大型になり、1919年（大正8年）より、漁船第2大洋丸 t、ディーゼル機関100馬力を装備し、好成績を収め、漁場の発見、開拓大いに成果を収めた。1924年（大正13年）第3川岸丸（鋼船、76t63、150馬力）の優秀船で更に各漁場を開拓した。

㊸ ※ 拓南山、※※ 拓南山の山

※ 八丈島の北東約21哩、北緯 $33^{\circ} 17' 0$ 、東経 $140^{\circ} 11' 0$ 、水深202m。

※※ “ “ $33^{\circ} 13' 5$ 、 “ $140^{\circ} 12' 0$ 、 “ 392m。

発見船 ※ 東京都水産試験場調査船 拓南丸（14.68t、60HP）

“ ※※ “ 拓南（19.58t、160HP）

発見年月日 ※ 昭和34年8月

※※ 昭和50年9月

※ 船長 石井義道、 機関長 佐々木晴一、 指導技師 草苺 正

※※ 長田一市、 “ 本橋 彰 三 “ 石川吉造

㊸ ベヨネーズ列岩および付近（明神礁） この列岩の外国人の最初の発見は

1) 1846年～50年（弘化3～7年）5月31日、仏国軍艦ベヨネーズ号“ Bayonnaise ” 艦長 Jurien. de. Lagraviere により発見、北緯 $32^{\circ} 0' 0.7$ 、東経 $139^{\circ} 5' 9.3$ に測定した。

また、和蘭国艦隊コウリイル号“ Couier ”、艦長 Van. Braam. Schouckowi、イウフササイ号、ヨーロッパ号、フリーゲート、バルト号、ウッセラス号、フレビウス号にも視認された。（水路誌 1885）

2) 1869年（明治2年）、北緯 $31^{\circ} 5' 7.0$ 、東経 $140^{\circ} 0' 0.0$ （明神礁）に海底噴火あった。（Cutologue of the Active Volcanoes of the World … B. V Edinburagh 1947）

3) 1870年（明治3年）青ヶ島の南東約25哩、北緯 $32^{\circ} 0' 7.3$ 、東経 $140^{\circ} 0' 6.1$ （概位）

に小噴火島が噴出したのを青ヶ島住民が視認した。

(八丈島仙郷誌、大賀郷村、大脇繁吉 1)

- 4) 1880年(明治13年)米国軍艦“Alert号”は、危険な列岩と要注意航海と警告した。その位置、北緯 $31^{\circ}55.3'$ 、東経 $139^{\circ}54.3'$ と測定。
 - 5) 1896年(明治29年)英船“S. S. Linjifahrn”号は、列岩の北方約8哩、北緯 $32^{\circ}03.0'$ 、東経 $139^{\circ}54.0'$ に新火山島の噴出をみた。
 - 6) 1898年～1902年(明治31年～明治35年)軍艦 秋津州、斉藤艦長、軍艦 高千穂、梶川良吉艦長、前記の噴火島を発見できなかった。
 - 7) 1906年(明治39年)4月7日～15日、逓信省海底ケーブル布設船“沖繩丸”梶浦通信技師、列岩付近に海底噴火を認めた。
 - 8) 1915年(大正4年)2月、日本郵船KK 遠江丸、北緯 $31^{\circ}56.0'$ 、東経 $140^{\circ}01.5'$ 、水深約10mの浅礁を測った。同年6月14日、海中大噴火を認めた。静岡県焼津漁船、第3高根丸、川岸丸、カツオ漁を操業中大噴火に遇う。
- ㊦ 白根 北緯 $31^{\circ}30.1'$ 、東経 $140^{\circ}03.6'$ 、水深7m。

1921年(大正11年)、静岡県志田郡焼津、第二日出丸(48t、HP)、船長 前田吉太郎、漁撈長、機関長らによって発見された。

(資料：日本水路誌第1巻 1914)

註 白根の東約 哩に海底火山あり、1870年(明治3年)仏国軍艦“Schiller”が海中から火焰の昇るを認めた。

また、同年英国軍艦“H. M. S. Benefacress”、艦長 Elred がスミス島の北東微北 $\frac{1}{2}$ 北、約5哩に噴火と、その火口から高さ約40呎(約13m)、長さ100呎(約33m)の小島を認めた。

㊦ 富士丸場(富士丸浅場)

北緯 $28^{\circ}05.0'$ 、東経 $141^{\circ}58.6'$ 、水深270m。

1927～28年(昭和2～3年)に、静岡県水産試験場(清水市日之出町)場長 後藤昇蔵 大富士丸(第3代 161t、HP)、船長 増田興平、機関長、漁撈長、漁業指導官らによって発見された。

その後、小笠原漁場は、カツオ、マグロ、ハマダイ(オナガ)など回遊魚、根付魚の好漁場として開発された。

註 当時活躍した調査船は第3代、第4代富士丸である。

第3代 富士丸(179.8t、320HP) 船長 橋川 昭

第4代 富士丸 (191t 380HP)

- 初代船長
- ” 機関長
- ” 漁撈長
- ” 指導技官

によって、小笠原、硫黄島およびマリアナ群島海域において調査研究、漁場開拓に大いに活躍した。

㊦ 母島南瀬場

姉島の南方より姪島の南南東の間の10～13湊の間にあり、別図に示すように数個の尖礁が存在している。北緯 $26^{\circ}27'0'' \sim 26^{\circ}17'0''$ 、東経 $142^{\circ}12'0'' \sim 142^{\circ}22'0''$ の間に分布し、水深280～380mである。

1940～1941年(昭和15～16年)の戦前、静岡県御前崎、所有漁船“福吉丸”船長、機関長、漁撈長らによって、水深280mの尖礁が発見され、手釣により、マグロ、ハマダイ等の回遊魚、底棲魚を大漁した。

当時“福吉丸”の乗組員であった石田友吉は、戦後母島の前田守所有漁船“好漁丸”(t、HP)、船長 神奈川美知太、漁撈長 佐々木虎四郎、機関長らによってこの礁を再発見し、好漁を続け現在に続いている。

㊧ 得撫山魚礁

父島巽崎の南微、約9湊、北緯 $26^{\circ}53'0''$ 、東経 $142^{\circ}15'0''$ 、水深197m、底質“岩”。

㊨ 赤場浅根魚礁

母島東岬の東方約4湊、北緯 $26^{\circ}39'7''$ 、東経 $142^{\circ}15'1''$ 、水深162m、底質“砂”。等の好漁場は、1911年(明治44年)5月～10月、日本海軍の測量艦“松江”(2250排水トン)、艦長 海軍中佐 米原林蔵、測量班長 大後五郎、測量員 水路大技師、露木秀等により測量艇9隻によって測量され、上記諸礁も海図上に記載され、漁業上大いに益した。

魚礁の開発は、大正の初期より昭和の初期(太平洋戦ごろまで)の間、小笠原群島の父島二見港、母島北港、沖港を基地する。石田友雄、浅沼竜之助、前田守、河野卯吉ら所有漁船

漁栄丸 (19t、HP)	船長	機関長
大正丸 (19t、HP)	”	”
母島丸 (19t、HP)	”	”
北星丸 (19t、HP)	”	”
沖丸 (19t、HP)	”	”

好漁丸（19 t、 HP） 船長 機関長

によって行われた。

⑩ 興洋礁

興洋礁、北緯 $27^{\circ}07.4'$ 、東経 $142^{\circ}20.2'$ 、水深 280～300 m。

興洋礁南、北緯 $26^{\circ}57.0'$ 、東経 $142^{\circ}18.0'$ 、水深280 m。

東京都小笠原水産センター所属、調査船 興洋（43 t、530 HP）、船長 浅沼隆、機関長
・ 調査員 小泉正行、堤清樹調査員によって1972～73年（昭和47～48年）に発見された。

⑪ ラマポ堆

父島の東側、伊豆、小笠原海溝を隔て、父島の東方150 哩にあり、1933年（昭和8年）
米国測量船“Ramapo”号により水深75 mの堆を発見、“Ramapo Bank” と呼称され
ている。

⑫ 小笠原海神場（東海神場）

“Ramapo Bank”域内にあり、北緯 $27^{\circ}15.0'$ 、東経 $145^{\circ}12.0'$ 、水深75～100 mの
この礁は、1937年（昭和12年）11月、静岡県榛原郡白羽、高塚甚左衛門漁船“海神丸”
（124 t、 HP）、船長 、機関長 、漁撈長 らによって発見
開拓され、周年、キメジ、ダルマ、カツオ、ピンナガなどの回遊魚の他に、ハマダイ（オナガ）
カサゴ類など手釣による漁獲が多い。

⑬ 相模場

この礁は“Ramapo Bank”域内の前記の“東海神場”付近の北緯 $27^{\circ}16.0'$ 、東経 145°
 $11.0'$ 、水深61～92 mで、ハマダイ（オナガ）、カサゴ、ムツなど、多くの底棲魚が主とし
て手釣によって漁獲されている。

発見船は、神奈川県船籍の漁船であると推定されているが、定かではなく、その発見年月も不明
である。

この礁付近は、漁船に搭載されている伝馬船が密集し手釣により操業していることが、しばし
ばある。

⑭ 富蔵弁天の瀬

北緯 $18^{\circ}07.0'$ 、東経 $142^{\circ}57.8'$ 、水深130 m。

静岡県西伊豆町田子、山本常吉所有カツオ一本釣漁船“弁天丸”（142 t、320 HP）、
船長 山本忠之助、機関長 山本直、漁撈長 山本幸四郎らにより、1963年（昭和38年）
11月発見された。

この礁の側面は急深で切り立っている尖礁であり、カツオ、キワダ等の好漁場である。

㊸ 荒 金 礁

北緯 $15^{\circ}37.0'$ 、東経 $142^{\circ}45.5'$ 、水深 $8\sim 15m$ 。

1933年(昭和8年) 月、荒金政信が飛行中、航空機上より、礁の浅部が青白い変色海域を認め、浅礁と確認した。

19 年(昭和 年)静岡県榛原郡地頭方、清水新蔵所有漁船“大黒丸”(t、HP)、船長 、漁撈長 、機関長 ら再発見し、漁獲をあげた。
水深深く、荒天時は波浪が砕波するため、要注意。

㊹ 千代丸場

北緯 $26^{\circ}07.5'$ 、東経 $141^{\circ}07.5'$ 、付近水深 $120m$ 。

19 年(昭和 年)静岡県焼津市、昭和漁業株式会社。

㊺ 昭洋海山

南硫黄島の南東約 140 湮、北緯 $22^{\circ}28.4'$ 、東経 $142^{\circ}58.5'$ 。

1977年(昭和52年)6月、海上保安庁水路部測量船“昭洋”(1800t、2400HP)船長 平野整、機関長 宇野貞秋、測量班長 高田四郎らによって、この近海測量中発見された。最少水深 $564m$ であった。

㊻ 明 星 場

北緯 $20^{\circ}27.0'$ 、東経 $145^{\circ}03.0'$ 、水深 $120\sim 150m$ 。

1937年(昭和12年)静岡県榛原郡御前崎、川口賢太郎所有カツオー本釣漁船“明星丸”(120t、 HP)、船長 、機関長 、漁撈長 によって発見され、キメジ、ダルマ、カツオ漁多く、ダルマは硫黄流の変色水帯からよく釣れた。

㊼ サリグアン、西の瀬

サリグアン島(マリアナ群島)の西方約 8 湮、北緯 $16^{\circ}44.0'$ 、東経 $145^{\circ}38.5'$ 、水深 $170m$ で礁上は尖っており、周りは急深で 150 トン級カツオ船の旋回圏より狭い尖礁で、その礁の真上には周年を通じ濃密なカツオ群があり、太平洋戦前、19 年(昭和 年)により発見された。

その後、1951年(昭和27年5月)マッカーサーライン廃止(昭和27年4月27日)後静岡県清水市、小笠原漁業株式会社所有のカツオー本釣漁船第2小笠原丸(160t、450HP)船長 井桁勇三、漁撈長 金沢 、機関長 平塚芳夫によって戦後再発見され、カツオの高漁獲があった。

㊽ 高 鵬 礁

北緯 $26^{\circ}51.7'$ 、東経 $135^{\circ}00.4'$ 、水深 $260m$ 。

1932年(昭和7年)8月、高知県 郡須崎町、高知県水産試験場(場長)
漁業指導船(試験、調査船)、高鵬丸(木造船80t、100HP)、船長 杉本鹿次、機関長
小松伝太郎、航海士 遠近島市、漁業指導官、農林技師和田秀政の指導のもとにマグロ延縄操業
中、この礁を発見し、船名にちなみ、“高鵬礁”と呼称し、漁業者(漁船乗組員)は現在もこの
呼称を用いている。1977年(昭和52年)水路部は、北高鵬海山、南高鵬海山と命名した。

この礁は、マグロ、キワダ、カツオ、ピンチョウマグロの好漁場で、指導船高鵬丸の外、静岡、
三重、高崎、鹿児島、神奈川等の諸県の漁船により操業開拓され、また、水路部の測量艦船によ
って水深測量を実施された。

このため、栄吉場、蒼鷹堆、駒橋海山等の名称を付されている。

1977年(昭和52年)北高鵬海山、南高鵬海山と命名。

④ 蒼鷹堆

北緯 $29^{\circ}51.0'$ 、東経 $133^{\circ}21.0'$ 、水深480m。

1938年(昭和15年)6月 日、農林省中央水産試験場(場長 春日信市)調査船“蒼
鷹丸”(202t、 HP)、船長 今村喜一、機関長 、調査班長 宇田道隆、海洋
観測中、採水器を下す途中に着定したため付近を音響測深儀で調査の結果、最深480mを測得
した。底質は、白い砂混り、およびサンゴ類を採取した。

⑤ 三七山

北緯 $34^{\circ}39.0'$ 、東経 $139^{\circ}19.0'$ 、水深240m。

東京都水産試験場大島分場(分場長 国分東一)所属調査船“かもめ”、船長 田中七郎、漁
撈長 黒雲三次郎、調査員 小西尚男、1962年(昭和37年11月)、大島から利島付近に
かけて底魚漁場を探索中に、従来底釣漁場として未利用だった浅根を魚探により確認した。同漁
場ではキンメ、オオメダイ、ムツの好漁があり、その後大島の各船共大漁した。現在も小型船に
利用されている好漁場である。

⑥ スミス島

北緯 $31^{\circ}26.8'$ 、東経 $140^{\circ}03.0'$ 、高さ136m。

「八丈実記」筆島がスミス島か(近藤富蔵)

1851年(嘉永3年)3月26日、英国軍艦サラ・ワルソン号、艦長スチックは、島島を観
察後、同日スミス島を視認した。

1851年(嘉永3年) 月、英艦ヘバー号(艦長 Smith)によって再視認し
た(島名は、艦長名をとってスミス島とす)

1859年(安政5年)、英国軍艦トリビウン号視認。

1880年(明治13年)、米国軍艦“Alert”号、艦長 C. L. Hantigton (海軍少佐) 島を421呎と測定。

註 当時のスペイン海図には、“サンマテオ島”と記された。

④ 鳥 島 東京より約310哩、 Km、 アハウ島棲息

北緯 $30^{\circ}28'$ 、東経 $140^{\circ}19'$ 、高さ 旭山 404 m。

1709年(宝永6年)4月29日、仏国船“St Antoine”号の船長 De Firondat により S. Antoine I と命名された。

1785年(天明5年2月)土州(高知県)鏡郡赤岡浦、松屋儀七、沖船頭

1788年(天明8年2月)摂津国、大阪、北堀江、亀次郎、沖船頭 儀三郎ら漂着。

1790年(寛政2年正月)薩州(鹿児島県)志布志浦、中山屋三右衛門船、沖船頭 栄右衛門ら6名漂着。

1820年(文政2年)露国艦“ボロティノ号”の艦長、Lieut Ponafidin (海軍大尉) 島を観察す。位置を $30^{\circ}28'26''N$ 、 $140^{\circ}14'12''E$ に測定した。島名を艦長の名をとり、外国名は、ボネフィディン島と呼称。

1841年(天保12年9月13日)四国、土佐ノ国(高知県)幡多郡、宇佐浦徳之丞船、船頭(船長) 蔵、中浜万次郎漂着。6月7日、米国マサケッツ州ベッドホルド港所属の捕鯨船“ジョン・ホーランド号”船長 ホイットフィールドに救助される。

1851年(嘉永3年)3月26日、英国軍艦“サラ・ワルレン号”、艦長 スチック、島を観察す。

1886年(明治19年)玉置半右エ門、アハウ島、フン採取、開拓す。

1902年(明治35年)8月8日大噴火、島民125人、家畜共全滅す。

⑤ S. Thomas ソーズ(婿婦岩)東京350哩、約650Km、鳥島より30哩

北緯 $29^{\circ}47'$ 、東経 $140^{\circ}22'$ 、弧立、直立した岩で、高さ100 m。

1709年(宝永6年)4月29日、仏国船“St. Antonine号”の船長 De Firondat により発見され、S. Roch (S. Rock)と命名した。

註 この岩の名称は、“リカ・ロッククイブ”、“ソウフ・オロ”、“ソウフロック”とも呼ばれ、スペイン海図には、“ブレラ岩”、“セイルロック”岩、“ソウブ”、“アームステット”、“オルムシー岩”、“黒岩”等の多数の名がある。

1788年(天明5年)英艦“フリエス号”艦長 Jhon Mears は Jorb Island …… Lots Wife “ヤモメ岩”と名付けた。

1853年(嘉永6年)英艦“イサベリダ・ハイン号”艦長 リマルビン。

1854年(嘉永7年)米艦“マセドニアン号”ロッヂャー(海軍大尉)

1854年(“)米艦“ウインセンス号”

上記各艦ソウフ岩を観察した。

1880年(明治13年)米艦“Alert”艦長 C.L. Hangting to 海軍少佐は観察した。

④ 南鳥島 (24°17.0' N, 153°59.0' E)

Marcus I. or Weeks I. 父島の東方約640哩にある洋上に孤立した高さ約10m(頂19m)、面積1.2Km²、囲7.6Kmで、我が国領土中最東、最南東の亜熱帯海域に位置する弧島で、島付き、根(瀬)付き、カツオなどの回遊魚およびカサゴ等の底棲魚が豊富で良漁場である。

沿 革

1) 1543年(天文12年)西国軍艦“San Juan”号は、Bernand de le Torre 指導のもとに航行中、多分この島を視認が考えられている。

(Donald D. Brand 1967) 註ア。

2) 1694年(元禄7年)6月21日、西国船(補給船“a small tender”)

Manila から A capulco の間 Marcus I. か Wake I. のどちらかで視認、かつ島から島水を補給した。(Donald D. Brand 1967) 註ア。

3) 1800年(万治元年)米国の伝導船の宣教師がこの島を認め、Marcus I. と命名した。

4) 1864年(元治元年)米艦“Morning Star”号、艦長 Galett 大佐視認、White Pearl I. と命名。

5) 1874年(明治7年)米測量船“Tuscarora”号、船長 Belknap、島の位置 24°14.0' N, 154°00.0' Eと決定。

6) 1879年(明治12年)静岡県西伊豆岩地村の斉藤清左衛門は帆船“晴海丸”で来島したが風波で上陸できなかった。後毎年廻航した。

7) 1880年(明治13年)仏国船“Eclair-lem”号、船長 Folny 来島。

8) 1883年(明治16年)11月、英国船(横浜コンシロー商会)“Eata”号で、高知県人 信岡(信崎)常太郎、杉浦時自郎 来島。

9) 1889年(明治22年)米国帆船“Warren”号、船長 A. A. Rosehill 来島、椰子に米国国旗を揚げた。

10) * 1893年(明治26年)5月、静岡県人 斉藤清左衛門来島、乗組2名と上陸、島を調査した。

11) ** 1896年(明治29年)12月3日帆船“天祐丸”船長 水谷新六来島、同年後備海軍大尉、小林春三来島。翌年3月22日国務大臣樺山資紀に版図編入を上申、4月5日東京府知事

久我通久に島嶼発見届を提出。

1898年(明治31年)7月19日先占権によりわが領土となる。同年24日内務大臣板垣退助は東京府知事肥塚竜に南島(水谷島を改名)を小笠原島庁管轄とする旨訓令す。水谷新六は島の開発にあたった。

12) 1901年(明治31年)9月、帆船的矢丸、明德丸、天候不良のため島に上陸できなかった。

13) 1902年(明治32年)7月、帆船共和丸の移任当者30名上陸。

14) 同年7月27日、軍艦“笠置”艦長一坂本一大佐来島、秋元中尉外17名の陸戦隊を残し、同月29日離島。

15) 同年8月1日、米国帆船“Warren”号、船長 A. A. Rosehill. Dr W. A. Brjan 来島、数日後離島。

16) 同年8月29日、軍艦“高千穂”艦長 梶川良吉大佐来島。

17) 1913年(大正3年)10月、軍艦“香取”艦長 近藤大佐来島。

18) 1938年(大正10年)2月、軍艦“駒橋”艦長 下坊定吉大佐気象観測所設立のため来島。

19) 1924年(大正13年)特務艦“神威”来島。

20) 1925年(大正14年)特務艦“鳴戸”来島。

21) 1938~40(昭和14~15年)千葉県水産試験場“ふさ丸”、船長 佐藤孫七、海洋観測、漁場調査のため来島。

22) 1945年(昭和20年)8月15日、太平洋戦争終戦(海軍警備隊司令官 松浦雅太少将、陸軍独立歩兵第12連隊長 世応 純三大佐他特兵約4,500名)、以後米軍駐とんとす。

23) 1951~63年(昭和26~38年)7月まで米国の委託により、気象庁により気象観測行われた。

、、*、* 外務省、外交資料館所蔵資料“帝国版図”に関する雑件(1918)。

24) 1963年(昭和43年)6月26日、日返還、日本領土に復帰。

④7 沖の鳥島(20°25.0'N、136°05.0'E)

この島は硫黄島の南西方約390哩の洋上に孤立する岩礁で、東西約4.6Km、南北約1.7Kmの環礁で、その西部に2ヶの水上岩(北岩2.8m、現在頭部破壊している。南岩2.2m、現在低くなっている)があるが、最近は次第に沈下が懸念されている。

沿 革

1) 1543年(天文12年)9月15日、西国軍艦“San Juan”号、指揮官 Bernard de

- la Tore 視認。“Mel Abriojos”、“Abriojos”と命名(中村 1965)。
- 2) 1565年(元禄8年)6月21日、西国軍艦“San Pedro”号、指揮官 Felipe de Salced 視認、“Parece Vela”。“Vela”と命名(Andre W. Sharp 1960)。
 - 3) 1639年(寛永16年)7月17日、和軍艦“Engle”号、“Gracht”号、指揮官、Quast、艦長—Tasman 視認。“Engelbroochte”と命名(中村 1965)。
 - 4) 1732年(享保17年)8月26日、西国軍艦“Nuestra Senora de Guiei”号 視認か。ア。
 - 5) * 1789年(寛政1年)9月15日、英国船“Iphigenia”号、船長 Douglas 視認、“Douglas reef”と名付く。
 - 6) 1843年(天保14年)3月、英国軍艦“Maria”号、艦長 Sproll 視認。
 - 7) ** 1890年(明治23年)英国船“Amphion”号礁を測量す。
 - 8) *** 1921・24年(大正11・14年)軍艦“満州”この礁測量す。
 - 9) **** 1931年(昭和6年)7月、礁名を“沖ノ鳥島”と命名、先占権でわが領土とし、東京府小笠原島庁の所管とした。内務省告示第163号。
 - 10) 1933年(昭和8年)11月、測量艦“膠州”小干比古大佐、調査班 田山利三郎ら同礁の地質を調査す。
 - 11) 年月不明、軍艦“春日”来島し、記念鉄柱(標)は流失していた。
 - 12) 1938年(昭和13年)5～6月、気象観測所設立のため特設輸送船“神祥丸”来島視察す。
 - 13) 1939年(昭和14年)5月30日、御用船松本丸、翌年相良丸建設にあたる。露岩上に灯火を掲げた。航海は7次まで続いた。
(1941年(昭和16年6月まで第7次工事終了)(気象百年史 気象庁 1974)
 - 14) 1939～41年(昭和14～16年)千葉県水産試験場“ふさ丸” 船長 佐藤孫七、遷礁周囲の漁業調査を行った。
 - 15) 1944年(昭和19年)10月、海軍気象部観測船“三洋丸” 船長 嘉藤技平ら観測装置建設のため来島の途次空襲にあう。
 - 16) 1963年(昭和38年)ヘリコプターで調査、経約12mのコンクリート台を観察。
 - 17) 1968年(昭和43年)6月26日返還、日本領土となる。
 - 18) 1969年(昭和44年)2月27日、東海大学丸二世、船長 佐藤孫七、東南アジア研修航海(団長 山口房雄)の途上、返還後の島(岩礁)の状況を観察し、海上保安庁水路部に報告した。

19) 1969年(昭和45年)5月、水路部測量船“明洋” 船長 奥村英明、調査班長 進士
晃ら来島し、環礁内の旧施設を調査、設置を行う。

経緯度観測 北緯 $20^{\circ}25'05.6''$
測点標識設置 東経 $136^{\circ}04'34.4''$ (進士 1977)

20) 1978年(昭和53年)200マイル漁業専管水域内における各礁総合調査の一環として、
東京都水産試験場大島分場所属(分場長 草苺正)の漁業調査船“みやこ”(127.23トン、
600HP)(船長 青沼勇、調査員 中川政男、床枝真吉)によって6/21日に各種の調査
が行われ、調査記念のペナント(石板)を中央地に設置した。(昭和53年度 東京都水産試験場事業報告)

註 * * * * * 外務省、外交資料館所蔵“帝国版図雑件(1918)

○海上保安庁水路部“日本南東岸水路誌”(19)

㊤ 中ノ鳥島

$30^{\circ}00'0.0''N$ 、 $154^{\circ}00'0.0''E$ にあるとされた。この疑存島は1908年(明治41年)4
月28日、東京市小石川区諏訪町20番地山田禎三郎の発見によるもので、小笠原群島の東約
560哩にあり、島の周囲1里25町()64余坪()の一島を発見し、これ
に“中の鳥島”と命名し、島内を三分して、日向平、真鳥山、西向平の小字名をつけ、当時の
海図上のガンダス島に相当すると報告している。島上には、アホウ鳥数百万羽、地面の80%は
燐 堆積し、その厚さ6呎位(約2m)、これに含有する磷酸石灰は20~25%、着船所は西
向平(南岸)にあり、これを西港と仮称した。

以上を小笠原島々司 阿利孝太郎に届け出た。

同年8月、日本領土として、東京府告示、第141号で“中ノ鳥島”と命名した。

後、探検の結果、島は不存在として海図から抹消した。(日本水路誌 第一巻 1914)

沿 革

イ) Ganges I. $30^{\circ}51'0''N$ $154^{\circ}16'0''E$ に一島

ロ) Ganges Reef $31^{\circ}05'0''N$ $154^{\circ}18'0''E$ に一礁

ハ) Los Judines I. $21^{\circ}40'0''N$ 、 $151^{\circ}35'0''N$ に2小島ありと

1778年(天明8年)英国軍艦“スカルポロー号” 艦長 マーシャル“Marshall”
の発見報告。

1529年(大永の年)前記の位置に、Alvaro de Saavedra は島を発見して、Los
Judines Islands の名をつけた。

ニ) 一捕鯨船、上記の南東方約100哩の $2030.0''N$ 、 $15310.0''N$ に一礁ありと報告す。

1926年(大正15年)軍艦“満州”はこれらを探索したが、20哩以内には発見できな

なかった。

註 これらの位置に、魚群の出現、漁場となる載。

④ 小笠原群島の発見（沿革）

1542年（天文11）11月1日、Nueve Espania（Mexico）のAcapulcoより出港した。司令官 General Ruy Lobe de Villalobos の指揮した6隻からなる第4回東洋遠征艦隊（“Santiago” “San Anloni” “San Jorge” “San Crustohal” “San Marin”）がPhilippineのMindanao Islandに航行中、北部ラドロン諸島“North Part of Landoron Islands”の一部である小笠原群島の一部を視認した可能性も考えられたがさだかでない。

1543年（天文12）10月、西国船“San Juan”号 B. Torre 目撃。

1593年（文祿2）小笠原民部大輔貞頼、群島を巡検、後表子民部長直が渡島す。1625年（寛永2）まで33年間に6回航海す。

註1 小笠原の群島名は発見者にちなんだ。人の住まない無人島のブニンが訛り、ポニンとなり、外国航海者は、“Bonin Island”と固有名詞で呼ばれた。

註2 発見に関し伝承で、史的事実の根拠が明確でないとされるも、日本領土の帰属についての問題では絶対的に抹殺できない重要な伝承である。

1639年（寛永16）7月、和国船“Engele”号“Gracht”号、船長 Abel Janzoon Tasman、母島、父島、聳島を目撃。

1669年（寛文9）四国の勘右衛門船、船長 長右衛門漂着。

1675年（延宝3）4月、幕命の“富国寿船”（500石、約50トン）、船長 島谷市左エ門ら約1ヶ月、群島を探検、調査し、地図を作成す。

1686年（貞享2）肥前国（佐賀県）唐津の船漂着。

1690年（元祿3）越前国（石川県）三国の船漂着。

1706年（宝永3）9月、西国船“Nuestra Senora del Rosario”のGeneral D. J. M. Cirrano 目撃した。

1709年（宝永6）9月、西国船“Nuestra Senora del Begona” General F. D. Anguto 群島を見る。

1717年（享保2）10月、西国船“Nuestra del Begona”のGeneral D. F. Echereste 群島を見る。

1720年（享保5）遠近国“五兵徒船” 船頭 左太夫ら漂着。

1730年（享保15）小笠原宮内貞任300石船で、小笠原に向ったが4年後も帰港せず。

1736年(天文元) 江戸塩町の善助船漂着。

1739年(天文4) 江戸の善入船、船頭 富蔵ら10名漂着。

1773年() 英 “Margaret”、船長 Magee 目撃、Margaret Island と命名す。

1785年(天署5) 3月、土佐

1787年(天明7) 12月、

1789年(寛政元) 6月、薩摩国(鹿児島県)三右エ門船、船頭 栄右エ門ら漂着。

1823年(文政6) 米国捕鯨船 “Transit” 船長 Coffin 寄港。

1824年(文政7) 米国捕鯨船 “Supply” 船長 John Ebbets 寄港。

1826年(文政9) 英国捕鯨船 “William” 父島に漂着。

1826年(文政9) 英国捕鯨船 “Timor” 父島入港。 “William” を救助す。

1827年(文政10) “H. M. S. Blossom” 艦長 Beechy R. N 父島入港、小笠原群島を「英国王、ジョージ陛下の命令において群島を占領する。1827年6月14日」銅板に彫り、州崎の樹木に針付け、英国領土と宣言す。

1828年(文政11) 露国艦 “Semavine” 艦長 Fyodor Petrovich Lutke、父島に入港、露国領土を宣言しようとしたとき、英艦に先を越されたことを知り大いにくやしがる。

1830年(天保1) 6月26日、ハワイよりスクナー型帆船で入港、サポリーら白人5名(米、英、伊の各国人)、カナガ族25名来島。開拓す。

1835年(天保6) 英船 “Volunteer” 入港、船体修理す。このため小笠原群島の重要性を認めた、清国(中国)駐在の英国監督官、Cuptain Elliot Charles は、本国政府に軍艦の派遣を要請した。

1837年(天保8) 8月、要請により、“H. M. S. Raleigh” Captain Quin 父島入港、群島を調査す。

1840年(天保11) 奥州小友浦の船(約40t)、船頭 友之丞らが漂着す。

1849年(嘉永2) “ルイザ号”、船長 ハードレー・“メード・オブ・オーストラリア号”、船長 ヤング・“セント・アンドリュース号”、船長 パーカーら香港より入港。後者の2船は海賊行為を働した。

1851年(嘉永4) “H. M. S. Enterprise” 艦長 Richard Collins on 入港、住民に武器と、三回目の英国々旗「ユニオン・ジャック」を与えた。

1853年(嘉永6) 6月、米艦 “U. S. S. Susquehana” “U. S. S. Satoga” (艦隊水提督 Perry Matthew Colfraith) 父島に入港。4日間の停泊中、米、英各二隻の捕鯨船

入港、部落人から食料等多量の物資の入手を見た。

1853年(嘉永6)7月、露国艦隊“Pallada”“Vostok”“Olivusta”“Knaz・Menshikov”の4隻(水提督 Puttatin Evfimic Vasilevich)父島に入港。

1853年(嘉永6)10月 米艦“U. S. S. Plymouth” Commander Kelly 父島に入港。

1854年(嘉永7)4月、米艦“U. S. S. Plymouth Captain Abot 父島入港、父島の米国海軍のエージェントである Nathaniel Savory に“Bonin Island”の主権に関する書翰を渡す。

以後、小笠原群島の領有権につき、米国 M. C. Perry と英国の香港(Hong Kong)総督 Bonham Sir George との間に領有抗争が起る。M. C. Perry “日本領土”と主張す。

1860年(万延元年) 徳川幕府は初めて事態の重大さを知り、小笠原開発に乗り出る。

1861年(文久元)12月、幕府は軍艦、臨丸、艦長 小野友五郎、外国奉行 水野筑後等忠徳ら90余名は、19日父島二見に入港、22日大日章旗を旭山山頂に掲げる。朝陽丸、艦長 佐々倉桐太郎(二代 伴鉄太郎)帆船千秋丸、船長 を遣派す。

1875年(明治8年)11月 幕末政変後、工部省の汽船“明治丸”(船長 Robert H. Peters)田辺太一、小花作助らに小笠原調査を行う。英国は軍艦“H. M. S. Curlew” Captain Church 明治丸の後を追うも、日本側の儀式終了後入港、英国駐日代表部 Parks Sir Harry 公使、Robertson 領事らは、一切を「既成事実」とし、英領宣言を無効とした。

⑤ 火山列島(硫黄列島)発見(沿革)

1543年(天文12)9月、西国艦“Sanjuan” Captain Bernardo de Torre 三島を視認、中の一島より噴火を観察、Los Valcanes と命名。

1639年(寛永16)7月、和国艦“Engel 号、Gracht 号” Commandor Mathyas Quast、Captain Abel Janszoon Tasman 北硫島に“Hooge Meuwen Eylat”と命名した。

1701年(元禄14)9月、西国艦“San Francisco Zaviel” General Don Bernardino de Emdaia 南硫島(Sun Agustin I)を目撃。

1702年(元禄15)9月、西国艦“Nuestra Senora de Rosario” Genral Don Tedoro de San Lucas 硫黄島(Fortuna)北硫黄島(San Alesandoro)を認めた。

1703年(元禄16)10月、西国艦“Nuestra Senora de Rosario”(General Don Joseph Martines de Ciriano 南硫黄島視認。

1706年(宝永3)9月、西国艦“Nuestra Senora de Rosario” General Don

Joseph Martines de Ciriano 列島を見噴煙を観察。

1714年(正徳4)9月、西国艦“Santo Crist” General Don Francisco de Olavide Lat 25°39.0'N(火山列島)?を認む。

1717年(享保2)10月、西国艦“Nuestra Senora de Begona” General Don Francisco de Echereste 北硫島視認。

1726年(享保11)10月、西国艦“Nuestra Senora de los Dolores” General Don Antonio Goncolez de Quiyano 南硫黄島認む。

1729年(享保14)9月、西国艦“Sacra Femilira” General Don Juan Antonio de Arrendondo 列島を認め、摺針山、噴煙観察。

1779年(安永8)11月、英国艦 H. M. S. “Resolutin” H. M. S. “Disco Very” Captain Jhon Gore。Captain James King 南硫黄島、硫黄島を認め、摺針山より水蒸気、噴煙の昇るを観察。Sulphur Is と命名。

1786年(天明3) 西国船、La Perouse 列島を探索す。

1788年(天明5) 英国船“Grampus”号。Captain John Magee。この列島を認め Grampus Is と命名。

1803年(享和3)1月、日本帆船“順吉丸”(17反帆、300石積船)、船頭(船長)文助ら漂着。海岸から酷熱の泡ぶしの噴出を観察。

1805年(文化2)11月、露国艦“Nadeshda”号、“Neva”号、Commander A. I. Von Krwsesten 南、中硫黄島を観察す。

1804年(文化1) 西国艦“La Conseption” Captain 南硫黄島を目撃。

1880~81年(明治13~14) 米国艦“Alert” Captain C. L. Hantington 列島を観察(測量)、噴火浅根を観察。

1820~1900年頃まで、英、米、仏など各国の捕鯨船によって列島が観察または目撃された。

1887年(明治20)11月、明治丸(船長 G. F. Allene)で、東京府知事、高崎五六長官、法制局参事、岩崎小次郎ら一行火山列島を視察。

1888年(明治21)1~10月、菊地安、松葉新之助ら地質調査。

1889年(明治22)5月、井上恒、南洋丸で鮫漁業を起す。12月島庁職員、中野氏渡島、このとき島の各地に名称がつけられた。

1891年(明治24)9月、勅令第180号により領土とす。

1895年(明治28) 硫黄島に開拓者移住。

1889年(明治32)4月、石野兵之丞初めて北硫黄に移住。

1902年(明治35) 日本郵船kk、兵庫丸(船長 三室清蔵)小笠原より航路を延長、島の開発に貢献した。

1911年(明治44)5~6月、軍艦松江(2250排水トン)、艦長 米原林蔵、海軍中佐、測量長、大後五郎、水路大監、測量員、露木秀、水路大技師らによって列島周辺を測量、海図を作成した。

1944(昭和19)3月、硫黄島に初めて父島要塞より守備隊4,883名(指揮官、厚地兼彦大佐)渡島、同年、小笠原兵团(最高司令官、栗林忠道中將、翌年3月17日付任陸軍大將)に要塞化し、翌年3月26日総攻撃後全員玉砕す。死傷者彼戦共約5万人。

1946年(昭和21)1月、連合施政権下に入る(行政権分離の覚書)

1966年(昭和43)6月26日返還、小笠原支庁の所管となった。

⑤ 西之島発見 (沿革)

1543年(天文12)10月、西国艦“San Juan” Captain B. Toor For Fana Iの5ヶ所から噴出する火山島が西之島か？。

1585~86、1630年の間に“San Juan”号の船名によって、現在の“西之島”を発見し、島名を“San Juan Island”と呼称した。

多くの捕鯨船によって“San Juan I”が視認された。

1702年(元禄15)9月、西国艦“Nuestra Senora del Rosario” General Don Francisco de Acorch は San June I と異なる島と思い、“Rosirio I” ロザリオ島と命名した。

1706年(宝永3)9月、西国艦“Nuestra Senora del Rosario” General Don Joseph Martine Ciriano 石之島？ 目撃。

1709年(宝永6)9月、西国艦“Nuestra senora de Begona” General Don Fernando de Angulo、Sun Juan Is(西之島)を目撃。

1801年(享和1) 英国 H. M. S. “Nalulils” Captain Bishop 西之島を認め、島名を Disappointment Is と命名した。

1813年(文化10)9月、西国“La Fidelidad”(忠誠号) Captain Solis Rosario Is を再発見。

1837年(天保8)8月、英艦 H. M. S. “Raleigr” Captain M. Puin 目撃。

1885年(嘉永6)6月、米艦“Susquen hana”、“Saratoga” Comander Admiral Perry、Captain Franklin Buchaman。Captain William S. Walker、艦隊

測量長 Chief Surveyor Rogers Pineau 西之島の位置、地質を調査した。

1800～1900年（文化～明治初期）米、英等各国の捕鯨船がこの島の周囲海域で活躍し、島を目撃し、船名を島名とした。例1. サウス・ローワン号により、サウス・ローワン島、例2. 再発見できないので“見えざるの島 — Invisible Is ”、他に“ de sebastian ”、“ Lobes ”、“ Todos los Santos ”等。

1911年（明治44）8～9月、軍艦“松江”艦長 米原林蔵、測量班長 栖柴重治、海軍大尉。

1945年（昭和20）8月以後、行政上、小笠原と共同運命をとる。

5. 東京都管下における魚礁（漁場）の分布とその発見

1) 表の説明

(1) 魚礁の海域について

- ① 200海里漁業専管水域外の隣接海域の魚礁にも能率的操業面から記載した。例、九州パラオ海領上の高鵬礁等。
- ② 戦前に本邦の漁船が発見開拓した魚礁も記載した、例としては、西アリアナ、中マリアナ海嶺南部、東アリアナ、マーカス、ウエーキ海山群の魚礁も記入した。
- ③ 戦後連合国最高指令官により漁船の行動制限が行われたが、その後第一次、第二次および昭和27年4月25日の第三次の制限撤廃があり、漁船の行動範囲も広範囲となり、その際に発見、開拓した南洋の魚礁（海山）も記載した。

(2) 礁の水深変化について

- ① 礁上の底棲魚（ハマダイ、カサゴ類、メバル類）など根付魚群が多いときは、手釣の際に釣針の錘が着底しないうちに魚群の餌付が始まり、錘の着底が判明しないこともある。この場合魚の餌付の水層を礁の水深と判断して、実際よりも数 m ～数十 m も浅く判断することも応々にしてある。

このことはわれわれがよく経験しており、同一漁場でも魚が釣れなくなると、改めて礁の実深が確認されることがある。

- ② 火山性の礁は海底火山活動によって溶岩の噴出があり、そのため水深が浅くなることもあり、また爆発するときには大量の噴出物も一瞬で吹き飛ぶこともある。このほか風波による浸蝕や自然的な沈下等により水深が大きく変化することがある。
- ③ 魚礁の位置は船位の誤差によるところが多く、船位測定の精度の良否、測定計器類（推測、陸測、天候、ロラン、レーダー、オメガ航法、NNS等）で船位測定の精度が若干異なることがある。

特に頂上の鋭く尖った礁は再び同一地点に在船するような操船は、大洋上においては極めて困難である。したがって、このような礁の場合は水深が往々にして異なることがある。

(3) 礁位の記載について

表は相当に詳しく記載しており、近距離の礁までが記載されている理由は、各船の漁獲位置をそれぞれ記載したためである。

操業位置が数百 m 離れても漁獲が著しく変ることがある。特に底棲魚対象の場合はその傾向が多い。そのため各漁船が実際に漁をした場所を魚礁位置としてそのまま記入した。



一つの礁（海山）には成層火山のような礁は極めて少く、海底に噴出した溶岩が凝結して

多くの凹凸ができるので、礁のなかにも多くの漁場が形成されている。

また、「礁の汐がみ」、「汐した」などの海面に魚群が出現するときでも、海流、汐流、及びその混合流、そのほか流向速度の変化によって、異った海面に魚群が出現する。

したがって、一つの礁でも魚群の出現状況に種々の変化がみられ、その都度異った位置に漁場が形成される。

(4) 記載凡例

- ① 水深 …… 単位メートル(数字)で示す。
- ② +高さ …… (島、山、岩) *m*
- ③  …… 硫黄流、変色水など
- ④  …… 温泉
- ⑤ \triangle …… 海底火山
- ⑥ $\triangle 300$ …… 活火山 数字は高さ (300 *m*)
- ⑦ 520▲ …… 山 数字は高さ (520 *m*)
- ⑧ 600R …… 底質(岩) 数字は水深(160 *m*)
- ⑨ 水深未記入
- ⑩ 船籍欄はつぎの区分とする。
 - イ. 静岡 …… 静岡県
 - ロ. 神奈川 …… 神奈川県
 - ハ. 千葉 …… 千葉県
 - ニ. 東京 …… 東京都
 - ホ. 西 …… スペイン
 - ヘ. 米 …… アメリカ
 - ト. 英 …… イギリス
 - チ. 和 …… オランダ
 - リ. 仏 …… フランス

嶺海島七豆伊表3第

番号	漁場地名(漁場)	緯度	経度	水深	発見船名	発見船籍	記事
1	伊豆大島	34°43'6	139°23'8	△+75.5m			{ 684, 1112, 1416~21 "応永28" (海威噴火) 1777~78, 1912 噴火
2					漁船		
3					"	静岡	
4	大島西の瀬	34 46.0	139 12.0	208	{ 治郎船 善兵衛船 上三船 久治郎船 ナンバン船 伝兵衛船	{ 静岡 神奈川 千葉 東京	{ 1886 "明19" 静岡漁船伊豆七島に 出漁し、三宅島、神津島、漁船間 入会問題起る。1896 "明31" 以 後、この近海の漁業盛。
5	大島千波瀬	34 27.7	139 16.7	160	"	東京	
6	三七山	34 39.0	139 19.0	240	調査船かもめ		{ 昭和37年11月東京水試大島分場 調査船 "かもめ" (船長田中七郎) キンメ、ムツ、オオメダイ漁場とし て開拓する。
7	利島北の瀬	34 34.8	139 16.9	85	"	"	
8	鵜渡根出し	34 35.0	139 13.7	71	"	"	{ 1886 "明19" 静岡、東京(大島) の漁船、大島、利島近海の漁場の開 拓す。入会問題各島と会議す。
9	"	34 32.0	129 15.0		"	"	

番号	漁場礁名(漁場)	緯度	経度	水深	発見船名	発見船の船籍	記事
10	利島沖	34°32.0	139°18.0	119m	漁船	東京	
11	利島“官塚山出し”	34 31.0	139 17.0	+ 508▲	“	“	
12	大室出し	34 34.6	139 29.0	47R	“	“	
13	“	34 34.2	139. 29.0	33	“	“	
14	“ 瀬	34 33.5	139. 29.0	69	“	“	
15	“ アオダイ場	34 32.0	139. 30.0	53	“	“	
16	21 尋 礁	34 32.2	139 15.0	~38R	“	“	利島 NW1.3 M(日本水誌誌) 利島 E 2.0 M(利島の犬室出し寄り礁)
17	6 6 尋 礁	34 31.4	139 20.2	115 200	“	“	
18		34	139				
19	浅 礁	34 30.0	139 41.5	245S	船舶		1921 “大10” 軍艦満洲Zの礎認めず
20	綿渡根島	34 28.1	139 17.8	+ 210▲	漁船		
21	“ 東の瀬				“		
22					“		
23	新島東 人形出し	34 21.1	139 22.9	95	“		1898 “明31” 以後、神津、新島、三宅、大野原近海、漁場開拓、次第に伊豆七島に出漁す。
24	新島 浦の瀬	34 20.6	139 23.0	58~ 80	“		
25	松丸 場	34 28.5	139 12.5	91 ~96	“	静岡	1908 “明39” 泉水試25t、20馬力機関付、富士丸建造、
26	高 瀬	34 27.8	139 31.4		“	“	
27	新島 “官塚山”	34 23.3	139 11.0	△+ 429			886 “仁和Z” 噴火

28	高瀬	南の場	34 26. 5	139 10. 4	62 ~79	"	{ 1904 "明39" 以後石油発動機船 (25トン20馬力) ので、新島、三宅、 神津、黒瀬、八丈近海に出漁し、漁場 開拓す。
29	海軍	場	34 20. 5	139 11. 0		"	
30	式根島		34 19. 0	139 13. 0	㊦ 109▲	"	
31	ひょうたん	瀬	34 20. 9	139 03. 0	129	"	
32						"	
33	アシカ瀬	(オッパセ)	34 08. 9	139 04. 0	29	"	
34	神津島	"天上山"	34 06. 0	138 55. 0	㊦ △+571	836 " " 噴火	
35	祇苗島		34 13. 0	139 10. 0	87▲	(日本水路誌第1巻-1)	
36	恩馳島		34 12. 3	139 11. 8	65▲	(" ")	
37	コーラ波 新船	センバ礁	34 11. 0	139 04. 8	18R	1085, 1154, 1811~74~1940~ 62噴火	
38		"	34 10. 1	139 03. 8	29R		
39			34 09. 0	139. 03. 9			
40	三宅島	"雄山"	34 14. 9	139 31. 5	△+813		
41							
42			34 04. 0	139 24. 0			
43	大野原	"三本岳"島	34 02. 9	139 24. 4	㊦ 117▲		
44	"						
45	神津	中の瀬	34 04. 3	139 15. 0	162~ 170		
46	"		34 04. 0	139 19. 0	194		
47	三本岳	SWの瀬	33 58. 5	139 17. 5			
48	カツオ	の漁場	34 50. 0	140 04. 5	200	漁船 増徳丸 静岡 1886 "明19" カツオ漁場開発始む	

番号	漁場礁名(漁場)	緯度	経度	水深	発見船名	発見の船籍	記	事
49	神津南の瀬	33°58'8	139°10'4	266	漁船 増徳丸	静岡		
50	御蔵島の東	33 59.1	139 11.8	276		"		
51	ミクラ島の南	33 52.3	139 36.5	854▲		"		1918“大8”島の近海好漁場となる
52	"	33 52.7	140 05.0	277		"		御蔵島以南の海域の黒瀬、新黒瀬は、
53	"	33 45.6	139 54.0	274		"		1908“明41” 静岡県漁船は、
54	イナンバ NEの瀬	33 47.0	140 07.0	305		"		黒瀬川と呼び、カツオ等の好漁場とし
55	"	33 43.5	139 24.1	275	森久丸	"		て開拓された。
56	"	33 43.0	139 24.5	508	増徳丸	"		
57	"			228	高根丸	"		
58	間瀬波島(岩)	33 38.6	139 18.0	75▲	日之出丸	"		
59	新黒瀬	33 39.0	140 07.5	190	福吉丸	"		1918“大3”近海カツオ好漁す。
60	中の黒瀬	33 35.0	139 53.0	201	高草丸	"		東京都水試調査船により、詳細な漁場
61	新黒瀬	33 35.0	140 08.0	139~170	東洋丸	"		(海底地形)を調査す。
62	アメリカ瀬	33 29.3	139 32.2	178	帆船 ~ハース号	米国		
63	"	33 29.0	139 35.5	△ 96	測量船 第四海洋	東京		1891“明24”~ハース号海底噴火道
64	"	33 27.0	139 35.5	96	“明洋	"		遇所。1956“31”ア最深96m、底
65	黒瀬	33 22.7	139 39.0	153	漁船	静岡		賀安山岩、サンゴを採取した。
66	"	33 22.0	139 38.0	160	“久富丸	"		1908“明41”
67	新黒瀬	33 27.0	140 08.4		“東洋丸	"		発動機船にて、黒瀬、八丈島附近のカ
68	"	33 33.0	140 08.0	173	“高草丸	"		ツオ漁発見、大漁す。
69	"	33 33.0	140 08.0	170	“東洋丸	"		1908“明41”漁場発見、開発
70	"	33 33.0	140 08.0		“久富丸	"		木造約25t

71	西	"	33 32.7	139 59.0	180	"	高草丸	"	"
72	瀬西の	瀬西の	33 32.0	139 17.3	160	"	"	"	"
73	黒瀬西の	黒瀬西の	33 33 19.0	139 15.5 139 17.0	204 315	"	"	"	"
74									
75	山人め	山人め	33 14.0	139 43.0	485	"	拓南丸	東京	
76									
77	八丈島	"西山"	33 08.7	139 46.0	△+858	山			1489, 1518~23, 1605~07
78	小島	島	33 07.0	139 41.5	+617▲		高根丸	静岡	島付カツオ、トビ漁獲多。
79							漁船	東京	
80	ケン	山	33 07.0	139 27.0	497	"	富久丸	東京	
81	八丈島	山	33 05.0	139 41.7	188	"	調査船	静岡	
82	小島	瀬	33 22.0	139 38.0	149~ 180	"	拓南丸	東京	八丈島周辺、新黒瀬、黒瀬の付近海底
83	新黒瀬	瀬	33 24.0	139 12.0	290	"	"	東京	は、太平洋、東京都水産試験場、
84	権藤	山	33 17.5	140 11.0	202~ 316	"	"	"	調査船、都南丸、拓南丸等によって詳細に調査された。
85	拓南	山	33 13.5	140 12.0	394	"	"	"	
86	拓南	場	33 15.0	139 11.0	397	"	"	"	
87									
88									
89	八丈小島	瀬西の	32 52.3	139 08.5	283R	測量船	明洋	"	
90									
91									
92									

番号	漁場礁名(漁場)	緯度	経度	水深	発見船名	発見の船籍	記	事
93	青ヶ島西の瀬	32°30'5	139°34'5		漁船		1909 明42	漁場発見
94	"	32 29.3	139 32.2	178	"			
95	"	32 29.0	139 33.5	93	"			
96		32 29.0	139 28.0		"			
97		32 29.0	139 37.7	170	"			
98		32 30.5	139 54.0		"			
99								
100	青ヶ島東の瀬	32 29.5	139 56.0	98	"			青ヶ島の東4哩の魚礁
101	"	32 29.0	139 52.3	272	"	静岡		
102	"	32 28.9	139 53.5	99	"	"		
103	青ヶ島の場東より	32 26.0	140 00.0	27	"	"		
104	"	32 25.5	140 00.0	9	"	"		
105	"	32 25.0	139 56.3	33	"	"		
106	青ヶ島西の場	32 29.0	139 33.5	93	"	"		
107	第2日光丸場	32 27.0	139 28.0		"	第2日光丸		
108		32 29.0	139 27.7	170	"	"		
109								
110	青ヶ島	32 29.0	139 46.0	424				1652~70~80, 1780~85 "天明5" 噴火
111		32						
112								
113		32 20.0	138 44.4	350~ 380				1912 "明45" 漁場発見、開発
114		32 07.3	140 06.1		青ヶ島 島 民	東京		1870 "明3" 新火山島出現

115	波	磯	32 03.0	139 54.0	丕	0	軍艦 “リンズワート —ルン号	英国	1869 “明2” 発見、現在不存在。
116	ハロース	東の場	32 02.0	140 05.5			漁船	静岡	1912 “明45” 硫黄流
117	“	“	31 57.5	140 02.0	云		“ { 第3高根丸 山岸丸 鈴川丸	“	1915 “大4” 海底噴火
118									
119									
120	明	神磯	31 57.0	140 00.5	云	150	“ 第11明神丸	“	1952 “昭27” 海底噴火
121	ハロース	東浅場	31 57.0	140 02.5	云	60	“ 川岸丸	“	1970 “昭45” 硫黄流
122	ベヨネース	東沖浅場	31 57.0	140 02.8	云	11	“		
123			31 56.7	140 01.8	云	60	“		
124			31 56.3	140 01.5		11~ 10	汽船 速近丸	東京	1915 “大4” 岩礁発見
125							漁船 第2高根丸	静岡	1919 “大8” カツオ好漁
126	ハロース (ベヨネース岩)		31 55.0	139 52.0	云+	9▲	“ 川岸丸	“	1915 “大4” 火山島出現
127	高根磯		31 55.0	139 56.0	云		“ 第3高根丸	“	
128	ハロース	東の場	31 54.0	140 01.8	云		“		
129									
130			31 37.0	139 17.5		379	“	静岡	1912 “明45” 2の海区漁場開発
131			31 35.0	139 46.0			“	“	
132	スミ	西の場	31 35.0	139 47.5			“ 日光丸	“	
133			31 34.5	139 46.0					1912 “明治45” 漁場開発
134			31	139					

番号	漁場礁名(漁場)	緯度	経度	水深	発見船名	発見船の国籍	記	事
135		31	139					
136		31°34'5	139°46'0					
137	ス ≡ ス 中 の 根	31 32.0	139 55.5					
138	ス ≡ ス 西 の 根	31 32.0	139 52.0					
139	白 根	31 32.0	140 03.0	云 7	漁 船 第二日之出丸	静 岡	1921 "大10" 発見	
140	"							
141		31 31.8	139 54.5	157				
142		31 30.8	140 04.6	8				
143		31 30.5	140 00.5	285				
144	ス ≡ ス 中 の 瀬	31 30.0	139 55.5					
145		31 30.0	139 34.0					
146	白 根 付 近 の 瀬	31 29.8	140 04.0	云 7	軍 艦 "Schiller"	仏 国	1870 "明3" 海底噴火	
147		31 29.7	139 56.5	285				
148		31 29.5	139 56.0	270				
149		31 29.4	139 55.0					
150		31 29.0	139 56.5					
151		31 27.7	140 01.0	29				
152	ス ≡ ス 島	31 26.8	140 03.0	云 136		日・英	1672, 1869~70~73 1910 "明治43" "大正5" 海底噴火 1974~76 硫黄流	
153	ス ≡ ス 西 の 瀬	31 24.0	140 01.0	42	漁 船	静 岡		
154	ス ≡ ス 沖 の 場	31 23.0	139 55.0					

155	松	生	場	30	58.0					漁船	松生丸	静岡	1915“大4”鳥島近海漁場開拓
156	富士丸	場	場	30	39.0	140	06.0	35		“富士丸	“	“	
157	富士丸	東の	場	30	35.5	140	25.0	12		“第2日光丸	“	“	1915“大4”発見
158	鳥島	東の	場	30	33.5	140	23.8			“	“	“	
159		“		30	33.0	140	26.0			“	“	“	
160	鳥島東の場	(日光丸場)		30	32.5	140	24.0			“	“	“	
161	鳥島家の前	“		30	32.5	140	26.0	81		“	“	“	
162				30	31.0	139	52.5	510		測量船	第四海洋	東京	1951“昭和26”測量 1954“昭和29”
163				30	31.0	140	06.0			漁船	“	静岡	
164	鳥島	家の	前	30	31.0	140	24.0			“	“	“	
165				30	31.0	140	18.0			“	“	“	
166				30	30.5	140	25.5			“	“	“	
167	鳥島	西の	場	30	30.5	139	50.5	404		“富士丸	静岡	“	
168				30		139				調査船	富士丸等	“	
169				30	30.5	140	25.5			“	“	“	
170	鳥島	家の	場	30	30.0	140	17.5			“	“	“	
171	鳥島	西の	瀬	30	30.0	140	08.0			“	“	“	
172	鳥島	島	場	30	30.2	140	08.5			“	“	“	
173	鳥島	“旭山”		30	28.7	140	19.0			“	“	“	
174	磯	存	礁	30	28.6	140	17.2			“	“	“	
175													

1902~39“明35・大14”火山海底噴火
 { 1709“ ” 1820“ ” 1880
 “明13”観察す

番号	漁場礁名(漁場)	緯度	経度	水深	発見船名	発見船籍	記 事
176	1. スミス島の南西約10哩	31° 20' 5	139° 53' 0	13			(1870~72 "明治5" 噴火岩発見...後未発見)
177	2. " " " 26"	31 11.5	139 38.0	1.4	帆船 愛坂丸	日本	(1902 "明治35" きけん岩発見...後未発見)
178	3. " 北東" 36"	31 53.0	140 31.5				
179	4. 鳥島の北西約20"	30 39.0	139 59.0				
180	5.	29 48.0	142 33	2~3	帆船 アメリカ号	米 国	1909 "明治42" (東西約800呎 波浪礁)
181	6. リーフ岩の東約85哩	29 37.3	141 57.7	2	" 順豊丸	日 本	1888 "明治31" (東西約360呎 "120呎 後未発見)
182	7. スミスとハロースの間						
183							
184							
185							
186		30 13.0	140 04.0		漁船		附近にピン長マダロ が沈み、揚げ
187		29 50.0	140 40.0		"		ができないことがある。
189							漁船はこの附近に浅瀬のあることも考へられると
190	ソウフ岩(筆島)	29 47.0	140 22.0	100▲	軍艦 S.Roch	仏 国	1916 "大5" ソウフ岩附近の漁場開発
191	ソウフ西の場	29 46.5	139 33.6	320	漁船	静 岡	1788 "天明5" MearesはLots wife と名づけた。
192		29 46.5	139 30.5				
193		29 46.5	139 33.0	370			

194		29 45. 0	139 33. 0	370	拓洋	東京	1979“昭和54”測量
195		29 03. 6	140 32. 5	694	測量船		
196		28 56. 0	140 32. 5	400			
197		28 37. 0	140 51. 2				
198	波浪礁	28 35. 0	142 49. 0	波浪礁	船舶		1963“昭和28”報告(水誌誌1963)
199							
200		28 20. 5	140 39. 5	200			
201		28 17. 5	140 31. 2	450			
202							
203		27 22. 0	140 58. 0	1070			
204		27 17. 0	140 52. 0				1543“天文2”岩山噴火か
205	西之島	27 14. 6	140 52. 6	▲ △	軍艦 Sunjune	西国	1702“天 15”Rosario 号再発見
206	西之島 新島	27 15. 0	140 54. 0	▲ △	漁船 丸2 姪子丸	静岡	1918“大正7”島近海のカツオ漁場 開発
207	白虎礁	27 15. 6	140 47. 9	998	実習船 東海大学丸二世	東京	
208	東龍礁	27 15. 5	140 51. 2	500	“ ”	“	1973~74“昭48”海底噴火
209	福一礁	27 14. 0	140 44. 0	985	漁船 第3福一丸	静岡	
210	朱雀礁	27 09. 8	140 54. 8	194	実習船 東海大学丸二世	東京	1975“昭43”海底噴火
211	烏羊礁	27 12. 0	140 38. 2		“ ”	“	
212		27 08. 4	140 35. 0	230	漁船	静岡	
213	明德場	26 51. 0	140 41. 0		“ 明德丸	“	

西之島海底火山群漁場

番号	漁場標名(漁場)	緯度	経度	水深	発見船名	発見の船種	記	事
214	海形場	26°41'0	140°57'0	163	漁船海形丸	静岡	1925	"大14" 発見、カツオ、キワタ大漁
215	海良場	26 41. 0	140 56. 0	260~476	"	"	"	"
216	"	26 40. 2	140 56. 5	160	"	"	"	"
217	海形場	26 40. 0	140 57. 0	89~163 100~200	"	"	"	"
218	"	26 39. 5	140 56. 0	130	"	"	"	"
219	海神場 (一名不明場とも云う)	26 36. 4	141 25. 0		"	"		
220	海徳北の場	26 18. 5	141 05. 0	104	海徳丸	"	1926	"海図上は深い" 発見、カツオ・サメ大漁
221	(海徳北の瀬)	26 18. 5	141 05. 5	104~200	"	"		
222	"	26 18. 0	141 07. 0	"	"	"		
223	南セン場	26 17. 0	141 12. 0	240	第2清寿丸	"		
224	第2清寿場	26 11. 5	141 00. 0	240	"	"		
225	海徳場	26 01. 0	141 07. 0	200	海徳丸	"	1927	"昭2" 発見
226	"	26 09. 0	141 09. 5		"	"		
227	千代丸場	26 08. 0	141 06. 5	190	第8千代丸	"		
228	東海徳場	26 08. 0	141 07. 5	167~250	海徳丸	"		
229	海徳場	26 08. 0	141 01. 0	200	"	"		
230	東海徳場	26 08. 0	141 06. 0	120	"	"		
231	千代丸場	26 07. 5	141 07. 5	120	第8千代丸	"		
232	"	26 06. 8	140 42. 5	128	"	"		
233	海徳東の場	26 06. 5	141 06. 0	150~160	海徳丸	"		
234	海徳東の瀬	26 06. 0	141 08. 0	304	"	"	1927	"昭2" 発見

235	海徳西の場	徳	26 06. 0	140 58. 0	76	"	"	静岡	
236	"		26 05. 0	140 58. 0		"	"	"	
237	"		26 04. 8	140 58. 0	76	"	"	"	
238	海徳東の場	海	26 04. 8	141 09. 5	166	"	"	"	
239	"		26 04. 8	141 04. 5	166	"	"	"	
240	千代丸場		26 04. 0	140 57. 0	140~170	"	第3 八千代丸	"	註 西海徳場と呼ぶ船もある。
241		底						"	
242	海徳西の場		26 03. 5	140 58. 0	76	"	海徳丸	"	
243	海徳		26 03. 0	140 55. 0		"	"	"	
244	"	火	26 03. 0	140 56. 0	80~100	"	"	"	
245	"		26 03. 0	140 57. 5	140	"	"	"	
246	海徳西の瀬		26 03. 0	140 55. 0	250	"	"	"	1927 "和2" 発見
247	"	山	26 02. 0	140 55. 0	100	"	"	"	
248	"		26 01. 0	140 57. 0	△ 100	"	"	"	(1543 "天文12") 西国Sun Juan
249	"		26 01. 0	140 55. 0	140	"	"	"	海底噴火、報告あり。
250	"	群						"	
251	西海徳場		26 02. 0	140 35. 0	120	"	"	"	
252	"		26 01. 0	140 35. 5	120	"	"	"	
253									
254	海徳南の場		26 00. 5	141 04. 8	166	"	"	"	
255	"		26 00. 0	141 12. 5	70	"	"	"	
256	"		26 00. 0	141 13. 5	120	"	"	"	

番号	漁場礁名(漁場)	緯度	経度	水深	発見船名	発見の船籍	記事
257	海徳南の場	26°00'0	141°15'0	120	漁船 海徳丸	静岡	
258	"				"	"	
259	"	25 58.0	141 06.2	80	"	"	
260	"	25 57.2	141 02.3	50	"	"	
261							
262	北硫黄北の場	25 34.0	141 08.0	159	"	"	北硫黄島北の岬よりN $\frac{1}{2}$ W5'
263	北硫黄北の場	25 33.0	141 14.0	100	"	"	
264	北硫黄岡の場	25 30.3	141 10.8	80	"	"	
265	北硫西浅場	25 29.8	141 10.5	90	"	"	
266		25 28.0	141 27.6		"	"	魚群か
267		25 28.0	141 21.6		"	"	"
268	噴火浅根	25 27.1	141 14.3	14	軍艦 ALEUT	米国	(1880“明治13”)米艦Aleut(1933-45-53噴火)
269	噴火浅根西の瀬	25 27.0	141 11.5	40m	漁船	静岡	1936“大11”以降火山列島付近の
270	"	25 27.1	141 11.7	40	"	小笠原	註カゾオ漁場は静岡県、小笠原等の漁
271	"	25 27.0	141 27.6		"	"	船が開拓した
272							
273	北硫黄島	25 26.0	141 17.0	802	軍艦	西国	1543“天文12”発見
274							1639“寛永16”再発見
275	北硫黄西近場	25 25.0	141 12.4	39			
276	"	25 21.5	141 13.7	294			
277	"	25 21.0	141 14.2	60	漁船	静岡	
278	"	25 20.0	141 16.0	73	"	"	Report.

279	北硫黄神立場	25 19. 5	141 14. 0	40	"	"	"
280	"	25 19. 1	145 15. 0	40	"	"	"
281	北硫黄南の場	25 18. 9	141 17. 0		"	"	"
282	"	25 18. 0	141 14. 2	75	"	"	"
283	"	25 17. 9	141 17. 0		"	"	"
284	"	25 16. 5	141 11. 3	294	"	第2清寿丸	"
285	第2清寿場	25 16. 0	140 50. 5		"	"	"
286	海神北の場	25 15. 2	141 16. 1		"	海神丸	"
287	中硫黄東の場	25 15. 0	141 43. 0	800	"	"	"
288	海神場	25 13. 0	141 16. 0	140	"	海神丸	静岡
289	"	25 12. 8	141 27. 7		"	"	"
290	"	25 12. 8	141 21. 7		"	"	"
291	"	25 12. 5	141 17. 4		"	"	"
292	中硫黄東根	25 12. 5	141 56. 0		"	"	魚群か
293	海神場	25 12. 5	141 00. 4		"	"	北硫黄島表根鼻よりS/W $\frac{1}{2}$ W16'
294		25 12. 0	141 14. 2	662	"	"	静岡
295	千代丸場	25 12. 0	141 14. 5		"	第3 八千代丸	"
296	(海神場とも云う)	25 11. 8	141 19. 5		"	"	"
297	"	25 10. 8	141 15. 0	200	"	"	"
298	"	25 10. 5	141 16. 0	136	"	"	"
299	"	25 10. 1	141 14. 4	200	"	"	"
300	海神場	25 09. 9	141 12. 2		"	海神丸	"

番号	漁場礁名(漁場)	緯度	経度	水深	発見船名	発見の船籍	記 事
301	千代丸場	25°09'0	141°14'0	160~180	漁船	静岡	
302	"	25°09.0	141°19.0	190	"	"	
303	"	25°08.4	141°14.1	178	"	"	
304	海神場	25°07.5	141°14.0	180	海神丸	"	
305	"	25°07.4	141°14.0	180	"	"	
306	"	25°07.0	141°14.0	180	"	"	
307	海勢場	24°54.0	141°10.0	≒ 60	海勢丸	"	1933~74 "昭16~49" 硫黄流観察
308	"	24°51.5	141°07.7	≒ 170	"	"	1951 "昭26" 富士鷹丸硫黄流観察
309	"	24°51.0	141°07.0	≒ 170	"	"	1974 "昭47" イオ一流、米国水踏告示
310	"	24°51.0	141°10.0	210	"	"	
311	"	24°49.0	141°07.0	176	"	"	
312	海星場	24°47.3	141°27.0		海星丸	"	
313	"	24°47.2	141°27.2		"	"	
314	"	24°46.0	141°11.0	170	"	"	
315	"				"	"	
316							
317	硫黄島	24°45.0	141°17.0	167	軍艦 "San Juan"	西	1543 "天文12" 1702 "天祿15" 1779
318				△	" "Rosario"	西	"安永8" 1802 "享和2"
319					" "Resolwt-ion"	英	註1 1889 "明22" フカ漁開始 註2 海岸付近は火山作用により、等々 隆起しつつあり、航泊要注意
400	"	24°46.5	141°23.0	▲ 5.1			
401	"	24°47.0	141°17.4	▲ 12			
402	"	24°48.0	141°17.4	▲ 8.5			

403	南硫黄の瀬	24 39.0	141 27.0		漁船	静岡	魚群の出現
404	"	24 39.0	141 40.0		"	"	"
405	海神南の場	24 36.4	141 25.0		"	海神丸	"
406	海勢南西の場	24 35.2	141 19.7	≒	"	海勢丸	1942“昭17”硫黄流、観察
408	"	24 35.2	141 19.3	≒	"	"	"
409	"	24 33.2	141 20.0	374	"	"	"
410	"	24 32.7	141 19.3		"	"	"
411	"	24 31.7	141 19.3		"	"	"
412	中硫黄西の場	24 30.0	141 06.0		"	"	"
413	" 沖の場	24 30.3	141 22.0	315	"	"	"
419	福徳北の場	24 30.0	141 27.0	315	"	福徳丸	"
420	"	24 29.0	141 29.0	170	"	"	"
421	"	24 28.5	141 23.6	283	"	"	"
422	"	24 27.2	141 23.5	125	"	"	"
423	海勢場	24 28.0	141 28.0	200	"	海勢丸	"
424	"	24 26.4	141 27.5		"	"	"
425	南硫黄三星中の場	24 26.0	141 28.0	170	"	"	"
426	"	24 26.0	141 28.9		"	"	"
427	"	24 26.0	141 29.4		"	"	"
428	南硫黄N/Wの場	24 25.0	141 24.5	50	"	"	"
429	福徳北の瀬	24 24.0	141 24.0	≒	"	福徳丸	1928~37“昭3~12”硫黄流

番号	漁場礁名(漁場)	緯度	経度	水深	発見船名	発見船籍	記 事
430	福徳北の瀬	24°24'0	141°26'0	ニ	漁船 福徳丸	静岡	
431	中硫黄中の場	24 23.0	141 25.5	ニ	"	"	
432							
433	中硫黄南の場	24 22.9	141 28.7	539		"	
434	"	24 22.5	141 26.2	137		"	
435	南硫黄岡の場	24 22.8	141 25.5	ニ	漁船 福徳丸	"	1904~05 "明37~38" 1914 "大3" 二回火
436	海勢岡の場	24 22.3	141 29.5	ニ	" 海勢丸	"	山島出現、中硫黄島からカヌーで、ま た軍艦高千穂が調査。
437	"	24 22.0	141 29.5	ニ	"	"	1951~52 "昭26~27" 硫黄流魚群多し。
438	"	24 19.3	141 30.6	ニ	"	"	
439	福徳岡の場	24 17.3	141 28.5	82	" 福徳丸	"	
440	"	24 17.0	141 27.0	80	"	"	1916~50~52~53~55~56~63~74 硫黄流噴出
441	"	24 16.4	141 29.5	82	"	"	
442	"	24 16.0	141 29.8	18	"	"	
443							
444	第2日光場	24 17.0	141 29.0	82		"	
445	南硫黄西の場	24 15.0	140 57.0	1000	" 富士鷹丸	"	
446	" 東の場	24 14.0	141 40.0				
447							
448	南硫黄島	24 14.0	141 28.0	918▲	軍艦 San Juan	西 国	1543 "天文12" 1804 "文比2" (帆船順吉丸
449					" Nadeshda	露 国	1802 "享和2" 漂流

500		24 13. 0	141 56. 0	≒ 150	漁 船 福 德 丸	静 岡	1931 " 昭 6 " 発 見 大 漁 す。
501		24 13. 0	141 35. 0	≒ 110 150	" "	"	{ 1962~65 " 37~40 " 毘 沙 門 丸 は 漁 捕 中、 大 量 の 硫 黄 流 を 観 察
502	南 硫 黄 岡 の 場	24 10. 0	141 15. 0	800	" "	"	
503		24 07. 0	141 35. 0	≒ 130 170			
504	福 德 場	24 06. 4	141 35. 0	201			
505	"	24 06. 0	141 35. 0	160 180			
506	" (一 名 西 カ 瓜)	24 05. 0	142 23. 3				
505	"	24 04. 0	141 37. 0				
506	"	24 03. 5	141 38. 0				
507	"	24 03. 5	141 37. 5				
508	"	24 03. 0	141 36. 0				
509	福 德 南 の 場	24 00. 4	141 37. 0				
510	"	24 00. 0	141 37. 0				
511							
512							
513							
514							
515							

嶺 海 島 西 七 第 4 表

番号	漁場礁名(漁場)	緯度	経度	水深	発見船名	発見の船籍	記事
516	神子之島	34°34'2	138°56'5	32▲	漁船 久治郎船	静岡	1844~44“弘化年間”石田重右エ門船 (肩巾7R5寸)豆州三子之島、青根岬漁
517	神根	34 32. 2	138 52. 5	190	“ 上三船	“	1869“明2”石田忠吉船(肩巾8Rt廻替)
518	岡青根	34 32. 0	138 50. 6	195	“ 善兵衛船	“	伊豆諸島に出漁
519	場	34 30. 0	138 49. 0	325	“ 次郎船	“	
520	青根 1	34 26. 5	138 45. 8	470	“ 伝兵衛船	“	
521	青根 2	34 25. 9	138 54. 0		“	“	青根漁場は伊豆神子之島のSSW~SW
522	山下山根	34 30. 5	138 52. 5		“	“	の11哩付近で、安政年間から焼津等
523	青根 3	34 29. 2	138 55. 8		“	“	の漁船が活躍した
524	カタノマチガイ荒場	34 27. 8	138 47. 0	460	“	“	
525					“	“	
526					“	“	
527	恩馳島	34 11. 0		+ 65▲			
528							
529	コーラ波センバ礁	34 11. 3		18	漁船 高草丸	“	恩馳西の瀬とも云い、島の西方約1哩
530	“ 南西の瀬	34 10. 0		35	“ 青峯丸	“	
531	新船センバ礁	34 08. 0		31	“ 春洋丸	“	恩馳南の瀬とも云い、島の南方約2哩
532	神津SWの場	34 09. 0		135	“ 古早丸	“	
533	“ Sの瀬	34 04. 0		89	“ 三徳丸	“	
534					“	“	
535					“	“	

536	中	瀬	34	03.7	138	53.9	83	"	アシカより銭州まで続いている。付近の浅場はカツオの好漁場であり、静岡・神奈川千葉等諸県のカツオ漁船は1910“明治43年より出漁、漁場を開拓した。
537	わ	たり	34	06.0	138	55.8	80	"	
538	銭	州						"	
539	銭	州						"	
540	銭	州						"	
541	銭	州	33	57.8	138	58.0		"	
542	銭	州	33	55.0	138	50.5	+	6.5▲	
543	銭	州							
544	銭	州	33	56.0	138	49.5	+	13▲	
545	銭	州							
546	銭	州							1875“明治8”稲葉半七発見
547	銭	州	33	52.8	138	49.5	84	"	註1. 銭州“ゼニス”の周辺は、波浪礁となる險礁もあり、カツオなどの廻遊魚のほか、カサゴ、メジナ、根付魚が多く、四季を通じて好漁場で、静岡県沿岸の樽罾、帆走当時の漁船は、ゼニの州に行けば、魚がいくらでも獲れるので、恰度金箱に例へて、銭(ゼニ)の州と呼んだ。
548	銭	州	33	52.5	138	49.2	93	"	
549	銭	州	33	52.0	138	44.2	129	"	
550	銭	州	33	52.0	138	42.0	765	"	
551	銭	州	33	50.0	138	42.0	134	"	
552	銭	州	33	51.0	138	41.0		"	
553	銭	州	33	19.5	139	16.0	112	"	
554	銭	州	32	12.8	139	08.5	286	"	
555	銭	州	32	50.6	138	40.7	138	"	
556	銭	州	32	44.0	139	44.0	145	"	
557	銭	州	32	41.0	139	48.0	150	"	
557	銭	州	32	40.0	139	30.8	225	"	

番号	漁場礁名(漁場)	緯度	経度	水深	発見船名	発見の船種	記	事
558	銭州	32°40'0	139°19'0	275	漁船	"	註2.	
559	"	32 38.0	139 15.0	495	"	"	銭州の南西方近くにある諸礁を、ゼニスハダガカリと云い、カツオ、サバなどの好漁場で、漁期には漁船は昼夜とも多い。	
560	"	32 36.0	139 00.0	412	"	"		
561	"	32 33.5	139 08.5	256	"	"		
562	"	32 29.0	138 52.0	449	"	"		
563	"	32 27.0	138 54.0	412	"	"		
564	"	32 24.5	138 54.5	280	"	"		
565	"	32 20.0	138 44.4	380	"	"		
566	青ヶ島西沖の場	32 16.0	139 14.9	75	"	"		
567	"	32 09.5	138 47.5	610	"	"		
568	"	31 53.0	138 45.0	120	"	"		
569	"	31 47.0	138 46.0	120	"	"		
570	"	31 51.0	138 45.0		"	"		
571	海徳場	31 38.0	139 19.0	347	漁船 海徳丸	静岡		
572	"	31 37.0	139 17.5		"	"		
573	"	31 32.5	139 17.5	379	"	"		
574	"	31 32.4	139 11.2	400	"	"		
575	"	31 26.6	138 19.0	447	"	"		
576	"	31 22.0	138 11.0		"	"		魚群
577	"	31 08.0	138 36.0		"	"		"
578	松生岡の場	31 03.8	138 57.5	192	" 松生丸	"		

579	"	31 03. 5	139 01. 5	283	"	"	"	"	"
580	"	31 02. 0	138 56. 0	192	"	"	"	"	"
581	"	31 02. 0	138 57. 0		"	"	"	"	魚群
582	"	31 01. 0	138 57. 0		"	"	"	"	"
583	"	31 00. 3	139 02. 0	283	"	"	"	"	"
584	"	30 59. 3	138 56. 0		"	"	"	"	魚群
585	"	30 59. 3	138 58. 0	50	"	第18 東洋丸	1961"昭36.2"第18東洋丸の測得水深		
586	"	30 59. 1	139 00. 5	230	"	松生丸			
586	"	30 59. 0	138 59. 0	180	"	第2日光丸	第2日光丸の測得水深		
587	"	30 58. 0	138 00. 0	238	"	松生丸			
588									
589	松生岡の場	30 58. 5	138 59. 0						魚群
590		30 58. 0	138 58. 0	56~ 270	漁船	松生丸	静岡		
591		30 58. 0	139 00. 0	80~ 180	"	"	"		
592		30 57. 0	138 59. 0	80	"	"	"		
593	新海徳場	30 56. 8	138 39. 0	146	"	海徳丸	"		
594	"	30 56. 0	138 39. 0	146	"	"	"		
595	"	30 56. 0	138 40. 0	120	"	"	"		
596	松生場	30 55. 0	138 56. 0	120	"	"	"		
597	富士丸場	30 55. 6	138 56. 0	120	調査船	富士丸	"		
598	"	30 54. 0	138 57. 0		"	"	"		魚群
599	富士丸場西	30 54. 0	138 43. 0		"	"	"		"

番号	漁場礁名(漁場)	緯度	経度	水深	発見船名	発見船の船籍	記	事
600	東洋場	30°53'0	138°46'0	120	漁船 第18東洋丸	静岡		
601	"	30 53.0	138 45.0	120	"	"		
602	"	30 52.0	138 42.5	144	"	"		
603	海徳場	30 52.0	138 44.0	120	海徳丸	"		
604	"	30 52.0	138 41.5	137	"	"		
605	"	30 52.0	138 40.0	140	"	"		
606	"	30 32.0	138 38.0	79	"	"		
607	"	30 51.5	138 41.5	137	"	"		
608	江之島丸場	30 52.0	138 56.0	170	江之島丸	"		鳥島よりWNW 7 7 裡、海底凸凹で380 m前後東西に続く、SW側3裡延びた瀬がある。
609	海徳中の場	30 51.0	138 48.0	144	海徳丸	"		
610	"	30 51.0	138 45.0	140~200	"	"		
611	"(第2日光場)	30 51.0	139 00.0		第2日光丸	"		魚群か
612	第2日光場	30 50.0	138 59.0	230	"	"		
613	松生中の場	30 50.5	138 42.0	238	松生丸	"		
614	"	30 50.0	138 30.0	79	"	"		
615	海徳沖の場	30 46.5	138 56.0	245	海徳丸	"		
616								
617	清正場	30 47.0	138 34.0		第2清正丸	"		この礁は、春季ピンチョウマダゴロの好
618	"	30 45.0	138 28.0	270	"	"		漁場。

619	松生南の場	30 44. 0	138 55. 0						魚群
620								"	"
621		30 39. 3	138 56. 0					"	"
622		30 38. 0	138 04. 0					"	"
623	海徳沖の場	30 37. 5	138 03. 5	245				"	"
624									
625	南新海徳場	30 38. 0	138 04. 0	245				"	"
626		30 37. 0	138 05. 0					"	"
627		30 35. 0	138 05. 0					"	"
628									
629		30 24. 0	139 09. 0	644					
630									
631		30 15. 0	138 58. 0	555					
632									
633									
634									
635									

第5表 小笠原海嶺

番号	漁場礁名(漁場)	緯度	経度	水深	発見船名	発見船の籍	記	事
636		29° 50' 0	141° 50' 0	4000m	漁船 幸神丸			註 { 小笠原近海は1911“明44”軍艦松江により測量され、海底地形が明らかになった。
637		29 50. 0	142 00. 0					
638		29 37. 3	141 57. 7					魚群の出現か、好漁場か
639	幸甚堆	29 32. 0	142 32. 0	22	帆船 順豊丸	日本(不明)	1898“明治31”報告礁の大きさS~N37m,E~W110m	
641	(存在不明)	29 32. 0	142 32. 0	1.8	“アメリカ号		1909“明治42”報告礁の大きさS~N244m,E~W244m	
642	“	28 56. 7	141 56. 0	1550				
643		28 35. 0	140 48. 0					
644		28 11. 5	142 24. 0					
645		28 05. 0	141 58. 6	270	漁船 富士丸	静岡	{ 1927“昭2”	魚礁、あるらしい、北の島よりNNE約32'に北之島の北の瀬ともいう県水産試験場指導船
646	富士丸浅場	28 04. 8	141 58. 0		“	“		
647	“	28 04. 0	141 58. 6		“	“		
648	北の島沖の浅場	28 04. 0	141 56. 0	335				
649		28 04. 0	141 55. 0	335	“ 富士丸	“		
650	富士丸瀬	28 04. 0	141 50. 0	330	“	“		
651	“	28 03. 0	141 58. 0	750	“			
652	“	28 03. 0	142 04. 0	380	“ 第1富丸	千葉		北の島よりN/W ⁵ W 17'
653	富の瀬	28 02. 2	141 58. 5	91				
654	“	28 02. 0	141 57. 0	119	“	“		
655	“							

656		28 02. 0	141 58. 0		"	"	"	
657		28 01. 5	141 56. 5		"	全勝丸	千葉	
658	北の島の瀬	28 00. 5	141 52. 0		"	"	"	
659	(一名北の島浅場)	28 00. 0	141 52. 0		"	漁栄丸等	小笠原	
660	北の島北の瀬	27 59. 5	141 59. 5	110-130	"	"	"	
661		27 59. 0	141 59. 0		"	"	"	
662	北の島のNNW15Mの場	27 59. 0	141 52. 0		"	"	"	
663	"	27 59. 0	141 52. 0		"	"	"	
664	"	27 59. 0	141 51. 0		"	"	"	
665	北の島の浅瀬	27 59. 0	141 56. 5	165	"	"	"	
666	"	27 58. 5	141 57. 5	140	"	"	"	
667	北の島の浅場	27 58. 0	141 57. 0	129	"	"	"	
668	北の島NW/N19Mの場	27 58. 0	141 54. 0		"	"	"	
669	北の島東浅瀬	27 58. 0	142 01. 3	208	"	"	"	
670					"	"	"	
671	北の島の瀬	27 58. 0	141 54. 0		"	"	"	
672	"	28 12. 0	142 23.	波浪礁	"	"	"	
678	北の島東浅瀬	27 55. 0	142 00. 0	64	漁船	"	"	
669		27 48. 5	142 03. 0		"	"	"	
670	北の島の瀬	27 51. 0	142 01. 5	95	"	"	"	
671	"	27 50. 0	141 59. 0	113	"	"	"	
672	"	27 47. 7	142 03. 2	53	"	"	"	

註 小笠原近海の魚礁はカツオ一本釣漁船、父島二見港、母島沖港、北港を基地とした漁栄丸、沖丸、大正丸、北西丸等によって開拓された。

1955 "昭30" 報告 舞島NNE 34連

番号	漁場礁名(漁場)	緯度	経度	水深	発見船名	発見の船籍	記 事
673	弁 天 場	27°46'5	142°03'0	20	漁 船 弁 天 丸	静岡	1876“明治9”以来、小笠原群島の沿岸 付近の魚礁は、ほとんど地元漁船によつ て開拓された。
674	”	27 49.7	142 01.7	98	”		
675	”	27 45.7	142 02.7	53	”		
676	一 ツ 岩	27 44.6	142 06.7	34▲			
677		27 45.0	142 04.9	62			
678	二 ツ 岩	27 44.3	142 06.8	77▲			
679	三 ツ 岩	27 44.2	142 06.9	4.9			
680	四 ツ 岩	27 43.5	142 06.9	7.7			
681							アホー鳥
682	北 の 島	27 42.9	142 05.8	52▲			
683							
684	笹 奥 島	27 42.9	142 07.5	30▲			
685							南浜(島の南西)に井水あり
686	鞆 島	27 40.7	142 08.4	88▲			
687							アホー鳥住む
688	鳥 島(鞆島)	27 40.6	142 07.6	36▲			鞆島鮪場とも云い、鞆島よりE7.5M
689	鞆島東の場	27 40.6	142 16.8		漁 船 富 士 丸	静 岡	
690	針 之 岩	27 39.5	142 09.4	136▲			
691							
692	媒 島	27 37.4	142 10.9	155▲			島の南西に小浜の湾あり、井水あり
693	富 士 丸 場	27 36.0	143 46.0		漁 船 富 士 丸	静 岡	媒島の東方、小笠原海溝付近

694	鳥島(煤島)				56▲				了ホ一鳥棲息す
695	鞆島SWの場	27 34.5	142 10.0		100	漁船	富士丸	静岡	
696	"	27 34.5	142 11.2		128	"	"	"	
697		27 34.5	142 01.2						
698	塚島	27 34.2	142 10.2						
699		27 29.5	142 12.5		102▲				
700	塚島西漁場	27 29.0	142 7.55			漁船	沖丸等	東京 (小笠原)	塚島のW 6~7 裡に好漁場あり
701		27 19.5	142 10.5		135	"	"	"	
702	鞆島鮪漁場	27 40.6	142 16.8			"	"	"	鞆島よりE 7.5' 鮪の好漁場
703	"	27 34.5	142 01.2			"	"	"	"
704	父島東の場	27 34.2	142 10.2			"	"	"	" SE $\frac{1}{2}$ S 9.0' の場
705	父島F 8 5 裡	27 17.0	143 46.0			飛行機		"	1940 "昭15" 報告 (本州南東岸水路誌 1968)
706		27 09.3	142 11.0			漁船	沖丸等	"	
707		27 06.4	142 12.7		257	"	"	"	
708		27 06.0	142 18.2		171	"	"	"	
709		27 06.2	142 06.9		382	"	"	小笠原	
710	孫島	27 11.5	142 11.6		+ 135				
711	弟島	27 09.8	142 11.2		+ 234				
712	兄島	27 07.0	142 12.5		+ 254				
713	父島	27 03.5	142 13.0		+ 327				
714	西島	27 06.7	142 10.0		+ 100				
715	東島	27 05.4	142 14.6		+ 92				

番号	漁場礁名(漁場)	緯度	経度	水深	発見船名	発見船籍	記 事
716	南 島	27°02'0	142°10'2	+ 60▲		東 京	1972-73 "昭47~48" 発見
717	興 洋 礁	27 07.4	142 20.2	280~300	調査船 興 洋	小笠原	
718	兄島東の瀬	27 06.0	142 18.2	171	漁 船 大正丸等	"	
719	"	27 06.2	142 06.9	382	"	"	
720	相 模 場	27 05.0	142 14.9	29	" 相 模 丸	神奈川	
721	"				"	"	
722	ウルツブ山	27 03.6	142 14.9	171	" 好 漁 丸 等	小笠原	
723	(父島南の瀬)	26 58.1	142 04.9	197	"	"	
724	父島南西の瀬	26 53.0	142 15.9		"	"	
725	"	26 55.0	142 17.0	付近 140R	"	"	
726	興洋礁南場	26 50.5	142 05.8	~170R	"	"	
727	母 島	26 49.4	142 06.2	180~260	調査船 興 洋	東 京	1972-73 "昭47~48" 発見
728	向 島	26 57.0	142 18.0	+ 462▲			
729	平 島	26 40.0	142 09.2	+ 136▲			
730	姉 島	26 35.8	142 07.7	+ 60▲			
731	妹 島	26 35.0	142 09.0	+ 121▲			
732	姪 島	26 33.0	142 09.2	+ 121▲			
733	母島東の瀬	26 33.2	142 12.4	+ 121▲	漁 船 北星丸等	小笠原	
734	姉島出し	26 34.0	142 13.8	+ 113▲	"	"	
735	母島西近場	26 39.7	142 15.5	162	"	"	
736		26 38.7	142 11.7	27	"	"	
		26 35.1	142 13.0	34	"	"	
		26 36.8	142 03.9		"	"	母島沖港よりW4~5Mの漁場

737		26 24.0	142 11.8	232	"	"	"	1940~	"昭15"発見
738	母島茂場	26 17.2	142 21.9	380	"	福吉丸	静岡	1940~43	"昭15~18"発見
739		26 22.8	143 01.0	1076	"	"	"		
740	姪島南の場	26 20.0	142 16.0	280	"	"	"		
741	姪島よりSSE17Mの場	26 19.0	143 01.5	1076	"	"	"		
742	東島東の場	26 18.1	142 21.5	280	"	第2清寿丸	静岡	1949~50	"昭24~25"発見
743	第2清寿場	26 17.0	142 52.0	572	"	"	"		
744		26 17.0	142 02.0	380	"	"	"		
745		26 16.5	142 52.0	1071					
746		26 10.0	142 16.0						
747		26 08.6	142 28.0	967					
748		26 08.0	142 07.0		漁船		米		
749	Voleabio reeb	25 15.0	142 56.0		船		国		魚群か 1944"昭19"報告 (本州南東岸水路誌1968)
750	三福場	25 10.0	142 53.0	300~324	漁船	三福丸			
751	"	25 10.3	142 50.9		"	"			
752		25 13.0	142 56.0	32R	飛行機			1944	"昭19"報告(水路部1968)
753									
754	噴火岩(報告)	25 43.0	143 02.0		軍艦	San Juan	丕	1543	(天文12)10-2指揮官Toore. 水先人Geatanは岩山の5ヶ所より噴火
756									
757									
758									
759									
760									

第6表 小笠原東方漁場 ラマポ堆・小笠原海台

番号	漁場礁名(漁場)	緯度	経度	水深	発見船名	発見の経緯	記	事
761								
762								
763								
764								
765								
766	ラマポNEの場	27°40'0	145°53'0	880				
767	富士丸場	27 36.0	143 46.0		富士丸	静岡		
768	"	27 17.0	143 47.0	85	"	"		
769								
770	東海神場	27 19.0	145 16.0	100	海神丸	"		
771	小笠原海神場	27 18.8	145 13.5	128	"	"		
772	"							
773	ラマポ堆	27 18.0	145 12.0	75	観測船 Ramapo	米国	1933 " 昭	
774		27 17.0	145 12.0	50				
775	相模場	27 16.0	145 11.0	61~92	漁船 相模丸	神奈川		
776	"	27 16.0	145 12.0	100	"	"		
777	"	27 16.0	145 10.0	60~90	" 海神丸	静岡		
778	海神場(東ノ場)	27 15.0	145 12.0	75	軍艦 Ramapo	米国	1933 Ramapo Bank	
779	ラマポ堆	27 13.0	145 12.0					父島の東方約160哩の漁場
780	父島東沖の場	27 05.0	145 12.0					

781									
782									
783									
784									
785		26	17.0	145	52.0	572			
786		26	17.0	145	05.0	550			
787		26	13.0	145	00.5	550			
789	矢部 堆	26	12.0	145	12.0	1016m			
790		26	10.0	145	05.0	572			
791	三福東の場	26	09.0	144	09.0	606	漁船 三福丸	静岡	岡
792									
793	母島ESEの場	26	00.0	146	00.0	1150			
794	"								
795									
796		25	26.0	143	42.0	1210			
797	中硫黄東の場	25	15.0	143	43.0	880	漁船		
798									
799		22	10.0	144	53.0	558			
800									
801									
802									
803									
804									
805									

1972“昭47”東海大学丸二世調査す。
ドレッヂの中にマンガン塊とエビ採取。
1971“昭46”東海大学丸二世調査す。
ドレッヂを行う。

第7表 南鳥島付近の漁礁

番号	漁場礁名(漁場)	緯度	経度	水深	発見船名	発見船種	記	事
806								
807								
808								
809		31° 05' 0N	154° 18' 0E	62m				1919“大正8”船舶の報告
810	中ノ鳥島	30 51. 0	154 16. 0	▲				1880“明治13”米国水路告示(現存)
811	Ganges Ree	31 05. 0	154 18. 0					”
812								
813	中ノ鳥島	30 05. 0	154 02. 0	▲				1907“明治40”山田禎三郎(東京)
814								発見、翌年中ノ島と命名(現在不明)
815	南鳥島NWの場	25 06. 0	152 45. 0	578				
816	”	24 27. 0	154 00. 0					
817	南鳥島東の場	24 22. 0	154 33. 0	480				
818								
819								
820	南鳥島	24 17. 5	153 58. 0	+ 19▲	San Juan Morning Star	(西) (米)		1543了“天文12” 1864“天祿7”
821					軍艦			
822	南鳥島西の場	24 15. 0	149 55. 0	480	漁船			
823								
824	南鳥島SWの場	23 46. 0	148 42. 0	572				
825								

826										
827	Los Jardines I	21 40. 0	151 35. 0	▲	商 船	(英)	1788 Cap Marshall (英) 2島発見			
828	"	20 30. 0	153 00. 0				1529 Alvaro de Saavedro島を発見 これに Los Jardines Is と命名。 註 1926 "大15"軍艦"満州"不発見			
829										
830										
831										
832	ウエーキ浅場	22 52. 0	162 22. 0							
833										
834	ウエーキの場	22 34. 0	162 30. 0							
835		22 21. 0	163 02. 0							
836	南鳥島のSSW250 哩	20 24. 0	152 12. 0	変色水	船 舶		1963 "昭38" N~Sの方向に変色水 条			

番号	漁場礁名(漁場)	緯度	経度	水深	発見船名	発見船の籍	記	事
837		23°47'0	141°43'0	130~200	漁船			
838	福一場	23 26.6	141 29.5		" 福一丸	静岡		
839	"	23 25.0	141 13.0		" 松生丸	"		
840	南松生場北	23 24.7	141 26.0		" "	"		
841	"	23 24.4	141 26.5	230~260	" "	"		
842	福一場	23 24.1	141 24.0		" 福一丸	"		
843	"	23 24.0	141 28.0		" "	"		
844	鷹寿岡の場	23 24.1	141 54.8	100	" 鷹寿丸	"		
845	"	23 23.0	141 31.0		" "	"		
846	"	23 23.0	141 25.0	170~200	" "	"		
847	"	23 22.0	141 33.0	600	" "	"		
848	"	23 22.0	141 23.0		" "	"		
849	南松生場南	23 22.5	141 26.0	210	" 松生丸	"		
850	鷹寿岡の場	23 21.0	141 21.0		" 鷹寿丸	"		
851	不明	23 21.0	141 15.0	200~250	" "	"		
852	"	23 21.0	141 23.0		" "	"		
853	南松生場	23 20.8	141 27.0	170~220	" 松生丸	"		

857						40~90			
858	福一場	23 21.0	141 26.2	23 17.5	141 32.0	30			
859	鷹寿場	23 16.5	141 33.5	23 16.5	141 33.5				
860	南松生場	23 16.0	141 32.4	23 16.0	141 32.4	55			
861	千代丸場	23 15.0	141 33.0	23 15.0	141 33.0	65	第3八千代丸		
862	不明	23 15.0	141 33.5	23 15.0	141 33.5	100	不明丸了		
863		23 15.0	141 24.0	23 15.0	141 24.0	44			
864	南日光場	23 14.5	141 32.5	23 14.5	141 32.5	52	第8日光丸	静岡	1954“昭29”第8日光丸大漁す
865	“	23 14.5	141 22.5	23 14.5	141 22.5	60	“	“	1947“昭24”第2日光丸発見す
866	“	23 14.3	141 32.4	23 14.3	141 32.4	60	“	“	
867	“	23 14.5	141 34.5	23 14.5	141 34.5	52	“	“	
868	鷹寿場	23 14.3	141 32.4	23 14.3	141 32.4	60	鷹寿丸	“	
869	“	23 14.0	141 33.0	23 14.0	141 33.0	50	“	“	
870	“	23 14.0	141 30.0	23 14.0	141 30.0	56	“	“	1940“昭15”鷹寿丸発見
871	小田丸場	23 14.0	141 24.0	23 14.0	141 24.0	90	小田丸	“	1960“昭35”小田丸発見
872	“	23 13.5	141 37.0	23 13.5	141 37.0		“	“	
873	“	23 13.5	141 33.0	23 13.5	141 33.0	60	“	“	
874	三福場	23 13.0	141 30.0	23 13.0	141 30.0	56	三福丸	“	
875									
876	鷹寿東の場	23 13.0	141 42.0	23 13.0	141 42.0	50	鷹寿丸	“	
877	“	23 13.0	141 30.0	23 13.0	141 30.0	30	“	“	
878	不明	23 12.0	141 30.0	23 12.0	141 30.0	56	不明丸	“	

番号	漁場礁名(漁場)	緯度	経度	水深	発見船名	発見船籍	記	事
879	鷹 寿 場	23°12' 0	141°31' 6	48	漁 船 鷹 寿 丸	静 岡		
880	"	23 11.3	141 22.0	260	"	"		
881	"	23 11.0	141 32.0	50	"	"		
882	"	23 11.0	141 40.0					
883	"	23 06.0	141 34.0					
884	"							
885	"	22 51.5	141 37.5	240	漁 船 鷹 寿 丸	静 岡		
886	"	22 24.0	141 51.0		"	"		
887	"	22 21.0	141 50.0	989	"	"		
888	"	22 22.0	141 32.0	600~886	"	"		
889	"	22 21.5	141 50.0	987	" 三 福 丸	"		
890	三福SWの場	22 12.0	141 15.0	200~250	"	"		
891	"	22 12.0	141 36.0	52	"	"		
892	"	22 12.0	141 49.5	530	"	"		
893	"	22 11.6	141 30.0	48	"	"		
894	"	22 11.0	141 50.0	550	"	"		
895	"	22 11.0	141 46.5	360	" 福 神 丸	"		
896	福神西の場	22 10.6	141 49.0	550	"	"		
897	"	22 10.0	141 42.5	550	"	"		
898	"	22 10.0	141 44.0	525	"	"		
899	"							

900	昭 騰 場	22 10. 0	141 54. 5	90	"	昭 騰 丸	"
901	"	22 07. 0	141 45. 5	570	"	"	"
902	"	21 47. 0	142 00. 0	924	"	"	"
903	"	21 47. 0	142 03. 0		"	"	"
904	小田丸場	21 37. 0	141 26. 0	432	"	小田丸	"
905	西海徳場	21 25. 0	141 10. 0	200	"	海徳丸	"
906	"	21 17. 0	141 46. 0	950	"	"	"
907	"	21 08. 0	141 07. 0	250	"	"	"
908	"	21 05. 0	143 35. 0		"	"	"
909	海形場	20 55. 0	142 26. 0		"	海形丸	"
910	砥石(小田丸場)	20 50. 0	142 20. 0	52	"	小田丸	"
911	第2清寿場	20 48. 0	142 12. 0	91	"	第2清寿丸	"
912	砥石西の場	20 48. 0	142 13. 0	94	"	日吉丸	"
913	小田丸場	20 47. 8	142 35. 7	280	"	小田丸	"
914	砥石場	20 47. 5	142 13. 0	34	"	日吉丸	"
915	焼津砥石場	20 47. 5	142 12. 5	20	"	第2清寿丸	"
916	"	20 47. 0	142 04. 5	35	"	"	"
917	第2清寿場	20 46. 6	142 26. 0	421	"	"	"
918	"	20 46. 6	142 25. 0		"	"	"
919	"	20 46. 6	142 35. 2	421	"	"	"
920	"	20 46. 0	142 36. 0	250	"	"	"
921	明星岡場	20 45. 5	142 31. 5	280	"	明星丸	"

1936“昭11”日吉丸
(船長坂本忠作)発見

現在はこの位置を砥石場と云う

番号	漁場礁名(漁場)	緯度	経度	水深	発見船名	発見の船籍	記	事
922	明星岡場	20°45'5	142°35'8	280	漁船明星丸	静岡		
923	"	20 44.5	142 35.5	280~330	"	"		
924	"	20 44.5	142 34.0		"	"		
925	"	20 44.5	142 33.0		"	"		
926	"	20 44.5	142 33.8		"	"		
927	西明星場	20 44.0	142 33.8	300	"	"		
928	東明星場	20 44.0	142 45.0	96	"	"		
929	明星岡の場	20 44.0	142 34.0	280	"	"		
930	"	20 42.0	142 32.5	130	"	"		
931	東明星場	20 42.0	142 43.0		"	"		
932	明星岡の場	20 40.0	142 36.0	250	"	"		
933	明星西の場	20 40.6	142 25.2	348	"	"		
934	砥石場	20 34.5	142 23.0	8~22	漁船第2清寿丸	"	1949 " 昭和24 " 発見	
935	" " 明星中の場	20 34.2	142 13.0	≒ 146	"	"	1954 " 昭和29 " 愛歴丸軽石流をみる	
936	" " 青ゾーリ	20 33.0	142 25.0	14	"	"		
937	焼津砥石場	20 33.0	142 22.0	14	"	"		
938	"	20 32.0	142 22.0	146	"	"		
939	"	20 31.8	142 27.5	30	"	"		
940	砥石場	20 31.5	142 27.5	146	"	"		
941	"	20 30.5	142 24.6	12~20	"	"		
942	"	20 30.5	142 26.5	13~15	"	"		

943	青ゾーリ場	20 29. 9	142 25. 5	14	漁船 日吉丸	"	1936 "昭和11" 発見
944	明星砥石場	20 29. 5	142 27. 0	20	" 明星丸	"	
945	"	20 29. 5	142 28. 5	20	"	"	1954 "昭和29" 愛歴丸小量軽石流みる
946	"	20 29. 0	142 27. 0	20~ 30	"	"	
947	Slinaray Shoal	20 29. 6	142 26. 2	146	漁船 第2清寿丸	米 国	1954 "昭和29" 報告
948	清 寿 場	20 29. 0	142 20. 0		"	静 岡	
949	"	20 29. 0	142 24. 5	20	"		
950							
951	"	20 28. 0	142 22. 0		"	"	
952	"	20 28. 0	142 40. 0	750	"	"	
953	小 田 丸 場	20 20. 0	142 20. 0	750	" 小 田 丸	"	
954	"	20 16. 5	142 45. 0	700~800	"	"	
955	アグリガン西の瀬	19 09. 5	143 59. 5	50~ 95	"	"	
956	"	19 08. 0	143 57. 0	506	"	"	
957	"	18 52. 0	143 04. 0		"	"	
958	パカン西の瀬	18 08. 2	143 07. 0	26~ 30	"	"	
959	"	18 08. 0	143 07. 0	30	"	"	
960	富蔵弁天の瀬	18 07. 5	142 56. 5	120	" 弁 天 丸	"	1963 "昭38" 発見
961	"	18 07. 0	142 57. 8	130	"	"	礁は尖っている
962	"	18 06. 9	142 56. 0	120	"	"	
963	パカン西の瀬	18 07. 0	143 03. 0	30	"	"	
964	"	18 06. 7	143 06. 8	25	"	"	

番号	漁場礁名(漁場)	緯度	経度	水深	発見船名	発見船種	記	事
965	バガン西の瀬	18°06.5	143°09.0	23	漁船			
966	"	18 06.0	143 07.0	26	"			
967	"	18 06.0	142 40.0					
968	"	18 05.2	143 02.0	13				
969	"	18 05.0	143 07.0	13~25 ~50				
970	"	18 04.0	143 06.0					
971	日之出丸場	18 03.0	143 07.0	25	漁船 第5日出丸			
972	"	18 01.0	143 10.0	23	"			
973	バガン西沖の瀬	17 45.5	142 52.0					
974	"	17 45.5	142 53.0	62	"			
975	"	17 43.5	142 52.0	50~70	"			
976	"	17 43.5	142 51.5		"			
977	"	17 43.0	142 45.0	62	"			
978	"	17 41.5	142 54.0	80	"			
979	"	17 41.5	142 49.0	60~70	"			
980	"	17 41.0	142 54.0	35	"			
981	"	17 40.8	142 51.0		"			
982	"	17 40.0	142 51.0	38	"			
983	"	17 39.5	142 52.6	647	"	米 国	1936 " 昭11 " 発見、東西 4 ~ 5 km { 海底白色の浅瀬	
984	"	17 37.6	143 02.6	64	"			
985	"							米 国 海国海図による

986	海龍瀬	17 13. 4	143 15. 0									
987	"	17 13. 0	143 17. 0	530	"	海龍丸	"	静岡				
988	沖明星場	17 09. 0	143 13. 5	20~30	"	明星丸	"	"				
989	"	17 07. 0	143 16. 0		"	"	"	"				
990	アタタハン西の場	17 08. 0	143 15. 0	22.5	"	"	"	"				
991	"	16 58. 5	142 56. 0	150~500	"	"	"	"				
992	"	16 54. 0	142 53. 0	400	"	"	"	"				
993	"	16 46. 0	142 30. 5		"	"	"	"				
994	"	16 45. 0	142 47. 0		"	"	"	"				
995	"	16 33. 0	143 10. 0	14	"	"	"	"				
996	"	16 32. 0	143 07. 5	8	"	"	"	"				
997	"	16 31. 0	143 07. 0		"	"	"	"				
998	"	16 31. 0	143 08. 0	146	"	"	"	"				アタタハンの西方約270k " 1945 " 昭 "
999	"			30	"	"	"	"				
1000	アタタハン南東の瀬	16 30. 5	143 09. 0	67~87	"	"	"	"				アタタハンのESE33k水 67~87
1001	"	16 23. 0	143 29. 0		"	"	"	"				
1002	(不明)	16 23. 0	143 28. 0	67~87	"	"	"	"				1945 " "アタタハンw230k
1003		16 22. 5	143 28. 5		"	"	"	"				
1004		16 22. 0	143 28. 5		"	"	"	"				
1005		16 03. 0	143 20. 0	1734	"	"	"	"				鯨魚の出現
1006	サイパン西の瀬	15 38. 0	142 52. 0	8~9	"	"	"	"				
1007	荒金礁	15 39. 6	142 45. 5	8	"	航空機	"	日本				1933 " 昭18 " 飛行中荒金正信発見

番号	漁場名称(漁場)	緯度	経度	水深	発見船名	発見船種	記 事
1008	荒 金(大黒場)	15° 37.0	142° 45.0	14.6	漁 船 大 黒 丸	静 岡	
1009	"	15 26.5	142 45.0		"	"	
1010	ロ タ 西 の 瀬	14 14.5	142 50.5	23	"	"	
1011	"	14 14.2	142 51.0	43	"	"	
1012	"	14 13.5	142 53.0	40~50	"	"	
1013	"	14 11.8	142 59.0	191	"	"	
1014	(不 明)	13 58.0	137 50.0	120	"	"	
1015	"						
1016	"	10 30.0	140 08.8	70	"	"	
1017	"	10 05.0	140 43.0	45	"	"	
1018							
1 019							
1020							
1021							

第 9 表 中 マ リ ア ナ 海 嶺 M i D D L E M A R I A N A R I D G E

番号	漁場礁名(漁場)	緯 度	経 度	水 深	発見船名	発見船の船籍	記 事
1022							
1023							
1024							
1025							
1026	海 徳 場	24° 00' 0	141° 37' 0		漁 船 海 徳 丸	静 岡	魚 群
1027		23 53. 1	142 18. 0	≡	航 空 機	日 航	1977 "昭52" 海面に変色水の異状
1028	睦 丸 場	23 47. 0	141 40. 0	111	漁 船 睦 丸		{1923 "大12" 静岡県水試、富士丸
1029	日 吉 場	23 47. 0	141 43. 0	120	" "		1925 "大14" 各漁船開拓す
1030	日 吉 岡 の 場	23 47. 0	141 42. 0	96~100	" 日 吉 丸	静 岡	1933 "昭8" 発見
1031	" "	23 47. 0	141 47. 0	110	" (第2日光丸)	"	
1032	" "	23 46. 5	141 43. 0	80	" 日 吉 丸	"	1933 "昭和8" 発見
1033	" "	23 46. 3	141 43. 0	100	" "	"	
1034	睦 丸 岡 の 場	23 47. 0	141 43. 0	120~130	" 睦 丸	"	
1035	" "	23 46. 0	141 43. 0	100	" "	"	
1036	北 日 吉 場	23 45. 8	141 41. 9	75	" 日 吉 丸	"	
1037		23 42. 0	141 42. 0				
1038	日 吉 岡 の 場	23 41. 0	141 48. 5	≡	航 空 機	日 航	1977 "昭52" 海面変色水の異状
1039	" "	23 40. 1	141 49. 5	100△	漁 船 日 吉 丸	静 岡	1949~52 ("昭24~27") 第2日光丸漁す
1040	" "	23 39. 0	141 46. 5	110	" "	"	

番号	漁場礁名(漁場)	緯度	経度	水深	発見船名	発見船船籍	記	事
1041	日吉岡の場	23° 39' 0	141° 45' 0	170	漁船	静岡		
1042	睦丸中の場	23 39. 0	141 47. 0	110	" 睦丸	"		
1043	日吉中の場	23 38. 0	141 46. 5	180	" 日吉丸	"		
1044	"	23 37. 4	141 47. 0	150~200	" "	"		
1045	"	23 37. 4	141 47. 7	161	" "	"		
1046	"	23 37. 5	141 48. 0	150~170	" "	"		
1047	" 日	23 37. 5	141 47. 0	161	" "	"		
1048	南日吉場	23 37. 4	141 47. 7	164	" "	"		
1049	沖の海徳場	23 32. 0	141 56. 6	150	" 海徳丸	"		
1050	日吉沖の場	23. 31. 7	141 55. 3	120 ~ 30	" 第33光栄丸	大分	1975 "昭50"変色観測	
1051	" 海	23 31. 0	141 56. 6	130	" 日吉丸	静岡	1975 "昭50"第8光賞丸変色水観測	
1052	" 底	23 31. 0	142 02. 0	130	" "	"	1975~76 "昭50~51"大分県漁船 第33幸栄丸爆発、硫黄変色水観測	
1053	" 火	23 31. 0	141 54. 0	100	" "	"		
1054	睦丸沖の場	23 30. 9	141 54. 3	130	" 睦丸	"		
1055	" 山	23 30. 5	141 56. 0	150	" "	"		
1056	"	23 30. 5	141 58. 0	160	" "	"		
1057	日吉南の場	23 30. 3	141 55. 0	130	" 日吉丸	"	1975 "昭50"静岡県漁船第8光賞丸 噴火による黒色岩を観察	
1058	"	23 30. 0	141 55. 0	130	" "	"		
1059	"	23 30. 0	141 52. 8	30 ~ 130	" "	"	1977 "昭52"光賞丸硫黄変色水観測	
1060	"	23 30. 0	141 53. 5	120	" "	"		
1061	晴丸沖の場	23 30. 0	141 58. 0	120	" 晴丸	"		

1062	"		23 29.2	141 56.5	245	"	"	"	1977 "昭52"海上保安庁機、海上自衛隊機変色水を観察
1063	日吉南の場		23 28.7	141 53.0	云 120	"	日吉丸	"	
1064	"		23 28.0	141 53.5		"	"	"	
1065	"		23 28.0	141 53.0	云	"	"	"	
1066	鷹寿西の場		23 25.0	141 19.0		"	鷹寿丸	"	
1067	" 東の場		23 24.7	141 54.8		"	"	"	
1068	鷹寿の場		23 24.4	141 26.5	230~260	"	"	"	礁の頂上狭く尖っている、アカサバ(チビキ)多し
1069	"		23 24.0	141 28.0		"	"	"	
1070	"		23 23.0	141 25.0	170~200	"	"	"	
1071	"		23 22.0	141 27.0		"	"	"	
1072	"		23 22.0	141 23.0		"	"	"	
1073	"		23 22.0	141 32.0	600~800	"	"	"	
1074	南松生場		23 22.5	141 26.0	210	"	松生丸	"	
1075	"		23 22.0	141 27.0		"	"	"	
1076	"		23 20.8	141 27.0	220	"	"	"	
1077	小田丸場		23 21.5	141 15.0	200~250	"	小田丸	"	
1078	"		23 17.5	141 32.0		"	"	"	
1079	不明場		23 16.5	141 33.5	50	"	不明丸	"	
1100	小田丸場		23 15.0	141 24.0	37	"	小田丸	"	
1101	不明南の場		23 14.1	141 33.3	78	"	不明丸	"	
1102	"		23 14.0	141 33.0	61~137	"	"	"	
1103	"		23 14.0	141 24.0		"	"	"	

番号	漁場礁名(漁場)	緯度	経度	水深	発見船名	発見船籍	記	事
1104	小田丸場	23° 11' 3	141° 22' 0	260	漁船小田丸	静岡		
1105	"	23 11. 0	141 40. 0		"	"		
1106	"	23 10. 0	142 35. 0		"	"		
1107	"	23 06. 0	141 32. 0	54	"	"		
1108	日光場	23 05. 5	142 16. 0	600	日光丸	"		
1109	"	23 05. 0	142 16. 0	600	"	"		
1110	"	23 04. 5	142 18. 8	612	"	"		
1111								
1112	三福場	22 59. 0	142 42. 0		漁船三福丸	静岡		魚群
1113	"	22 57. 5	142 42. 0	240	"	"		
1114	第2清寿場	22 57. 0	142 18. 0		第2清寿丸	"		
1115	"	22 55. 0	142 42. 0		"	"		
1116	"	22 54. 0	142 37. 0	200	"	"		
1117	"	22 53. 5	142 38. 0	150~ 90	"	"		
1118	千代丸場	22 53. 0	142 37. 5	180~500	第3千代丸	"		
1119	"(三福場とも云う)	22 53. 0	142 38. 5		"	"		
1120	三福岡の場	22 52. 5	142 42. 0	240	三福丸	"		
1121	"	22 52. 5	142 36. 0	310	"	"		
1122	"	22 52. 0	142 35. 5		"	"		
1123	"	22 52. 0	142 39. 0	250	"	"		
1124	"	22 52. 0	142 38. 0		"	"		

1125	"	22 51. 8	142 38. 2	446	測量船	東京	1777 "昭52"水路部は三福梅山と命名
1126	"	22 51. 5	142 37. 5	450	漁船	静岡	
1127	"	22 51. 0	143 10. 0		"	"	
1128	第2清寿場	22 50. 5	142 37. 0		" 第2清寿丸	"	
1129	三福岡の場	22 50. 1	142 36. 3		" 三福丸	"	
1130	"	22 50. 0	142 36. 5		" "	"	
1131	第2清寿場	22 50. 0	142 36. 7	180	" 第2清寿丸	"	
1132	"	22 50. 0	142 37. 0		" "	"	
1133	三福本場	22 49. 5	142 37. 0	225~300	" 三福丸	"	
1134	"	22 49. 5	142 32. 5	300	" "	"	
1135							
1136	第5明星場	22 48. 0	142 32. 0	700	漁船 第5明星丸	静岡	
1137	" (三福SWの場とも云う)	22 48. 0	142 38. 0	700	" "	"	
1138	"	22 47. 0	142 42. 0		" "	"	
1139	三福沖の場	22 46. 5	142 40. 0	380	" 三福丸	"	
1140	第2清寿場	22 46. 3	142 24. 0		" 第2清寿丸	"	
1141	三福沖の場	22 46. 0	142 42. 0	404	" 三福丸	"	
1142	"	22 39. 0	142 22. 5		" "	"	
1143	三福西の場	22 38. 5	142 36. 0	770	" "	"	
1144	"	22 38. 5	142 36. 5	770	" "	"	
1145	睦丸東の場	22 38. 0	143 08. 0		" 睦丸	"	
1146	睦丸中の場	22. 37. 5	142 17. 5	736	" "	"	

番号	漁場礁名(漁場)	緯度	経度	水深	発見船名	発見船籍	記 事
1147	陸丸中の場	22°37'0	142°17'5		漁船陸丸	静岡	
1148	陸丸東の場	22 37.0	142 29.0		"	"	
1149	陸丸中の場	22 36.0	142 18.0		"	"	
1150	三福南の場	22 30.0	143 20.0		" 三福丸	"	
1151	昭洋海山	22 28.4	142 58.5	564	測量船昭洋丸	東京	1977“昭52”測量船昭洋(による魚群)
1152	三福S Eの場	22 28.0	142 46.0		漁船三福丸		1977“昭52”測量船昭洋測量
1153	"	22 27.8	142 52.2	572	"	静岡	
1154							
1155	福神北の場	22 25.8	143 12.0	1370	測量船昭洋	東京	1977“昭52”水路部北福神海山と命名
1156	"						
1157	"	22 17.0	143 16.7	1100	測量船昭洋	東京	1977“昭52”水路部第2北福神海山と命名
1158	"	22 11.0	142 46.0		漁船	静岡	"
1159	"	22 10.0	144 05.3	558	"	"	"
1160	"	22 09.5	142 27.0		"	"	"
1161	"	22 06.5	143 30.0	1780	測量船昭洋	"	1977“昭52”水路部第1北福神海丘と命名
1162	"	22 04.0	143 24.0		"	"	"
1163	"	22 02.0	143 16.0		"	"	"
1164	福神岡の場	22 00.0	143 30.0	5	船 船	米	1973“昭48”在日米海軍司令部彦色水観察
1165	"	22 00.0	143 28.0		漁船福神丸	静岡	
1166	"	21 59.7	143 38.3	2180	測量船昭洋	東京	1977“昭52”水路部第2北福神海丘と命名
1167							

1168											1935“昭10”発見 1973“昭48”第8 益漁丸
1169											1973“昭48”益漁丸, 第1稻荷丸
1170										静岡	1951-59“昭26-34”愛鷹丸, 第8日光丸
1171										”	1936“昭11”測深す
1172										”	1973 第8日光丸, 第17日光丸, 第1稲荷丸
1173										”	” 第8富士鷹丸変色水を観察
1174										日本	1974“昭49”第8辰巳丸, 安養丸
1175										静岡	1951-52 富士鷹丸 1959-60第8日光丸
1176	春日場									”	1976“昭51”水踏部福神海山と命名す
1177	福神岡の場									”	
1178										”	
1179										”	
1180										”	
1181										”	
1182	大黒場									”	
1183	福神岡の場									”	
1184										”	1973“昭48”第12神徳丸, 第6鶴丸
1185										”	
1186										”	
1187										”	1974“昭49”三社丸 漁撈中爆発を見る
1188										”	194“昭49”P Z V-7海上自衛隊
1189										航空機 日本	

番号	漁場礁名(漁場)	緯度	経度	水深	発見船名	発見の船種	記	事
1190	福神岡の場	21°52'0	143°24'0	丕	船	米	1973“昭48”在日米海軍司令部	
1191	東春日海山	21 55.0	143 50.0	1360	測量船 昭洋	東京	1976“昭51”水路、東春日海山と命名	
1192	福神西の場	21 47.6	143 04.5	35	漁船	静岡		
1193		21 47.0	143 43.0	54	船	米	1975“昭50.11.1”水路告示	
1194	春日場	21 46.0	143 45.0	480	漁船 春日丸	静岡	1959~60“昭24~25”第8日丸輕部群発見	
1195	“	21 45.8	143 42.5	598	測量船 昭洋	東京	1976“昭51”水路部 春日海山と命名	
1196	“	21 45.5	143 45.0	480	漁船 春日丸	静岡	1935“昭10”発見	
1197	春日岡の場	21 44.5	143 45.0	480	“	“		
1198	“	21 41.0	143 24.0	430	“	“		
1199	“	21 39.0	143 36.5					
1200								
1201	春日南の場	21 37.0	143 39.5	850	漁船 春日丸	宮崎		
1202	福神沖の場	21 36.5	143 39.0	270	“	“		
1203	“	21 36.0	143 32.0	300~330	“ 福神丸	静岡		
1204	“	21 36.0	143 28.3	274	“	宮崎	1935“昭15”発見	
1205	春日南の場	21 36.0	143 28.2	280	“ 第1春日丸	“	1976“昭51”水路部は南春日海山と命名す	
1206	“	21 36.0	143 38.0	300	“	“		
1207	“	21 35.5	143 40.0	405	“	“		
1208	福神沖の場	21 35.5	143 40.5		“ 福神丸	静岡		
1209	“	21 35.0	143 37.5		“	“		
1210	栄福北の場	21 35.0	144. 12. 7		“ 栄福丸	“		

1211	"	21 35. 0	144 12. 0		"	"		
1212	栄福中の場	21 33. 0	143 38. 5		"	"		
1213	明照場	21 32. 0	143 39. 6		"	明昭丸		
1214	"	21 31. 0	143 40. 0	286	"	"		1959~60 "昭24~25" 第8日光丸艇石群を観察
1215	春日場	21 31. 0	143 40. 2	300	"	春日丸		
1216	栄福場	21 28. 5	144 02. 0		"	栄福丸		
1217	"	21 26. 0	144 08. 5		"	"		
1218	"	21 26. 0	144 09. 5	91	"	"		
1219	"	21 25. 8			"	"		
1220	"	21 24. 7	144 09. 0	297	"	"		
1221	栄福本場	21 24. 5	144 08. 5	280	"	"		1936 "昭11" 栄福丸発見当所の水深 は350m~600mであった
1222	"	21 24. 0	144 08. 5	350	"	"		
1223	小田丸場	21 24. 0	144 12. 0	280~300	"	小田丸		
1224	"	21 21. 3	144 07. 5		"	"		
1225	"	21 21. 3	144 06. 0	360	"	"		
1226	"	21 21. 0	144 37. 5		"	"		
1227	宝栄場	21 20. 0	144 23. 5		"	宝栄丸		
1228	"	21 20. 0	144 23. 8		"	"		
1229	大黒場	21 20. 0	144 24. 0		"	"		
1230	水天場	21 19. 7	144 11. 5	492	"	大黒丸		魚礁を水路部, 大黒海山と命名す
1231	栄福場	21 18. 0	144 14. 0		"	水天丸		
1232	"	21 17. 2	144 04. 3	170	"	栄福丸		
1233	"	21 16. 0	144 07. 0	560	"	"		

番号	漁場礁名(漁場)	緯度	経度	水深	発見船名	発見船の船籍	記 事
1233	大 黒 場	21°15'0	144°12'0	600	漁 船 大 黒 丸	静 岡	1937 "昭11"大黒丸発見大漁す
1234	小 田 丸 場	21 16.0	144 09.5		" 小 田 丸	"	
1235	"	21 16.0	144 00.7	560	" "	"	
1236	大 黒 東 の 場	21 15.0	144 42.0		" 大 黒 丸	"	
1237	"	21 12.7	143 59.0		" "	"	
1238	"	21 11.0	143 10.0	500	" "	不 明	米マリアナ船状海盆海域にあり
1239	小田丸南の場	21 08.0	144 23.0	200	" 小 田 丸		
1240	ウラカス沖の場	21 07.0	144 22.0	200	" "		
1241	"	21 07.0	144 04.0		" "		
1242	"	21 06.7	144 21.6		" "		
1243	光 照 場	21 06.3	144 22.6		" 光 照 丸		
1244	小田丸南沖場	21 05.8			" 小 田 丸		
1245	"	21 05.0	143 35.8	591	" "		
1246	"	21 04.0	144 22.5	≒ 350	" "		付近海域変色水
1247	ウラカス場	21 02.0	144 10.0		" "		
1248		21 02.0	144 06.0		" "		
1249		21 02.0	144 32.0		" "		
1250		20 59.0	144 52.0	≒ 350	" "		1767 "昭 " 調査船相南丸変色水数回認め
1251		20 50.5	144 22.0		" "		
1252	宝永沖の場	20 50.0	144 22.7		" 宝 永 丸		
1253		20 41.0	144 50.0		" "		

1254	ウラカス沖の瀬	20 40. 4	144 45. 5				"		
1255		20 40. 0	144 45. 5				"		
1256	ウラカス岡の瀬	20 39. 0	144 53. 5	70			"		
1257	ウラカス西岡の瀬	20 38. 0	144 51. 0	76			"	第15潜水丸	静岡
1258									
1259	ウラカス島	20 32. 7	144 53. 5	Σ+ 317					1865-75-760, 1901-02-12-25-32 ~36-52-53-73 噴火
1260	ウラカス東の瀬	20 27. 0	145 07. 0	120			漁船		静岡
1261	明星場	20 29. 0	144 51. 0	≒ 120			"		"
1262	"	20 27. 0	145 03. 0	≒ 152			"		"
1263	ウラカス東の瀬	20 26. 0	145 06. 0	120			"	宝永丸	"
1264	ウラカス南の場	20 26. 0	145 01. 0	120			"		"
1265	"	20 25. 5	145 02. 0	308			"		"
1266		20 24. 5	145 02. 0	200~70			"		"
1267	明星場	20 24. 5	145 02. 5	Σ 16			漁船	明星丸	"
1268	"	20 24. 0	145 06. 0	Σ 16~18			"		"
1269	"	20 24. 0	145 17. 0	≒			"		"
1270	"	20 24. 0	145 56. 0				"		"
1271		20 18. 0	145 07. 0				"		"
1272	ウラカス沖の場	20 18. 0	145 04. 0				"		"
1273		20 18. 0	145 00. 0				"		"
1274	明星場	20 17. 5	145 00. 0				"	明照丸	"
1275	"	20 16. 0	145 15. 5				"	"	"

番号	漁場礁名(漁場)	緯度	経度	水深	発見船名	発見船籍	記 事
1276	明 照 場	20° 10' 5	146° 43' 0	96	漁 船 明 照 丸	静 岡	1910 " " Supply の発 1961~62~63 "昭36~37~38" 硫黄変色水 1961 "昭36" 明照丸変色水を観測す
1277	"	20 10. 0	145 59. 0		" "	"	
1278	サブブライ礁	20 09. 0	145 06. 0	≒	軍 艦 Supply	米 国	
1279	"	20 09. 0	145 05. 0	≒			
1280	明 星 場	20 08. 5	145 06. 0	8~10			
1281		20 06. 0	145 09. 0				
1282							
1283	モ ウ グ 島	20 01. 0	145 14. 0	228▲			
1284							
1285	モウグSE½Sの瀬	19 57. 0	145 19. 0				
1286		19 56. 5	145 18. 0	380			
1287							
1288	アツソングソノ島	19 40. 0	145 23. 5	△ 891			
1289							
1290	アツソング沖の島	19 35. 0	145 28. 5	27			
1291	" 南の島	19 28. 0	145 29. 0	126			
1292	" SWの場	19 27. 0	145 14. 0				
1293		19 26. 0	145 30. 0				
1294		19 25. 0	145 18. 0				
1295		19 25. 0	145 27. 0				
1296		19 24. 0	145 28. 0				

1297		19 23.0	145 20.0				
1298		19 23.0	145 29.0				
1299	アツソング沖の瀬	19 23.0	145 28.5	58			
1300	"	19 23.0	145 28.2	120			
1301	"	19 23.0	145 28.0	130~200			
1302		19 23.1	145 26.0				
1303		19 22.7	143 58.7	109			
1304		19 22.5	143 58.5	60			
1305		19 22.0	143 28.0				
1306	アグリガン西の籍	19 10.0	143 00.0	96			
1307	"	19 09.5	143 59.5	50~95			
1308	"	19 09.0	143 29.0	52			
1309		19 08.0	143 59.0				
1310	海 洋 場	19 07.0	145 24.0				
1311	"	19 06.0					
1312		19 03.0	145 44.0				
1313							
1314	アグリガン 島	18 46.0	145 41.0	△+ 965		1917 "	" 大噴火
1315							
1316		18 26.0	145 53.8				
1317		18 18.4	145 50.4				
1318	海 洋 場	18 10.0	145 30.0	500		漁 船 第1海洋丸	静 岡

番号	漁場 礁名 (漁場)	緯 度	経 度	水 深	発 見 船 名	発見の船籍	記 事
1319		18° 09' 5	145° 47' 5				
1320	パ カ ン 島	18 04. 4	145 44. 0	△+ 572			1909~17~22~23~25~39 噴火
1321		17 44. 3	142 51. 0	47			
1322							
1323	アラマガン 島	17 36. 6	145 50. 0	△+ 774			1745~54 噴火
1324							
1325		17 19. 0	145 42. 0				
1326							
1327	グーグワン 島	17 19. 0	145 50. 5	△+ 301			1819~1901 噴火
1328							
1329		17 12. 5	145 37. 0				
1330							
1331	ジーランゾンジョ堆	16 53. 0	145 51. 0	0	軍 艦 "Zealandia"		1858 "嘉永 6" 発見 1921 "大正10" 軍艦 "松江" 測量す
1332							
1333		16 49. 5	145 46. 5	23			
1334							
1335	サリガン岡の場	16 49. 0	145 46. 0	12			
1336		16 47. 0	145 34. 0				
1337		16 46. 0	145 35. 5	58			
1338		16 46. 0	145 45. 0	62			
1339	サリガン西の瀬	16 44. 0	145 37. 0	190			

1340	"	16 44. 0	145 38. 5	170-430	漁 船 第2 小笠原丸	東 京	尖礁で囲りは急深、好漁場
1341		16 43. 0	145 43. 0				
1342							
1343	サリガン島	16 42. 5	145 47. 2	+ 549▲			火山
1344							
1345		16 36. 5	145 45. 5				
1346		16 35. 0	145 46. 5	172			
1347		16 36. 0	145 47. 0	180			
1348		16 32. 5	145 39. 0	333			
1349	アタタハン東の場	16 28. 0	146 05. 0	40			火山
1350		16 26. 0	145 02. 0	84			
1351	アタタハン島	16 22. 0	145 40. 2	+ 786▲			
1352		16 21. 0	145 57. 5				
1353	アタタハン東の場	16 17. 5	146 01. 0	37-166			
1354		16 17. 0	146 57. 5				
1355	アタタハン沖の瀬	15 57. 5	145 41. 5	134			
1356		15 58. 0	145 44. 0				
1357		15 57. 4	145 24. 5	378			
1358		15 56. 5	145 21. 5	378			
1359		15 55. 0	145 37. 0	153			
1360		15 35. 2	145 36. 0	372			
1361		15 26. 5	145 52. 5	26			

番号	漁場礁名(漁場)	緯度	経度	水深	発見船名	発見船籍	記	事
1362		15° 18' 5	145° 27' 2	72				
1363		15 17. 5	145 26. 5	80				
1364		15 09. 0	145 19. 0	482				
1365		15 06. 2	145 25. 2	259				
1366		15 05. 8	145 26. 0	25~ 23				
1367		15 03. 8	145 22. 5	154				
1368		15 02. 5	145 15. 5	159				
1369		14 55. 5	145 08. 0	60				
1370		14 58. 0	145 13. 2	55				
1371								
1372								
1373	エスメラルタ礁	15 58. 5	145 13. 0					
1374	"	15 05. 0	145 08. 2	≦ 54			1965 "昭40"	
1375	" (エスメラルタ北礁)	15 02. 0	145 15. 0	≦ 140			1960 "昭35"	
1376	"	15 00. 0	145 15. 0					
1377	"	15 00. 0	145 18. 0	≦ 60			1945 "昭20"	
1378	"	14 57. 0	145 17. 0	≦ 60	帆船 Esmeralda	米国	1920~21 "大9~10"	
1379	" (エスメラルタ南礁)	14 57. 0	145 16. 0					
1380	"	14 57. 2	145 22. 0	≦ 175				
1381	"	14 56. 5	145 16. 0	60				1971 "昭46" 実習船東海大学丸二世 硫黄流を観測す
1382	"	14 56. 0	145 16. 0	≦				

1383	"	14 55.	145 15. 0				
1384							
1385							
1386							
1387	テニアソ西の場	14 58. 4	145 13. 0	30			
1388							
1389	ロタSWの瀬	13 59. 5	145 01. 0	240~220			ロタ島の西側よりSW $\frac{1}{2}$ S, 10M
1390							
1391	グアム北の瀬	13 48. 5	144 56. 0	50~70			グアム北端よりNE/N $\frac{1}{2}$ N, 10M
1392							
1393	サイパン西の瀬	13 38. 0	142 52. 0				
1394							
1395							

第10表 東マリアナ海嶺 世界第2次大戦前の漁場開拓

番号	漁場礁名(漁場)	緯度	経度	水深	発見船名	発見の経緯	記	事
1396								
1397								
1398	三福場	21°41'0	147°24'0	430	漁船三福丸	静岡		
1399		20 30.0	146 43.0					
1400		20 28.0	146 50.0					
1401		18 10.0	147 50.0					
1402		16 48.0	146 00.0					
1402	アナタハン東の場	16 27.0	146 05.0	40				
1403		16 25.3	146 45.5	190				
1404	アナタハンSEの場	16 18.0	146 02.5	95				
1405		16 17.5	146 01.0	61				
1406		16 17.0	146 02.0					
1407		16 04.0	146 06.0	71				
1408	メヂェニージ島	16 01.5	146 05.0	+ 81▲				
1409		15 58.0	145 46.0					
1410		15 51.0	146 01.5	80				
1411		15 38.0	145 58.0	8				
1412		15 35.0	145 58.0					
1413	サイパン北の堆	15 28.0	145 50.0					
1414	"	15 26.3						
1415	" (5aypan lのN約) # (13km)	15 27.0	145 51.0	51				

堆は長さ6.5km、幅2.7km、中心15°
25°5N、145°52'0、水深56m、最
少水深15°-26.3N、145-53.5

1416	"	15 26. 5	145 52. 5	47~ 26			
1417	"	15 25. 0	145 50. 5	50~ 70			
1418	"	15 24. 0	145 57. 0				
1419	"	15 22. 0	145 35. 0				
1420	サイパン沖の瀬	15 17. 1	145 26. 0	80			
1421	サイパン島	15 12. 0	145 45. 0	+ 474▲			
1422	テニアン島	15 00. 0	145 38. 0	+ 172▲			
1423	アギウグン島	14 50. 1	145 34. 0	+ 178▲			
1424		14 46. 0	145 29. 0				
1425	ロ タ 島	14 10. 0	145 13. 0	+ 497▲			
1426		13 56. 0	145 11. 0				
1427		13 47. 0	144 54. 0	128			
1428							
1429							
1430							

第 1 1 表 紀 南 礁 群 (紀 南 海 山 列)

番号	漁場礁名(漁場)	緯 度	経 度	水 深	発見船名	発見の船種	記 事
1431	あ つ み 堆	32°00'0	137°30'0		観測船 あ つ み	気象庁	
1432							
1433	駒橋第3海山	31 43.0	137 20.6	3755	軍艦 駒 橋	海 軍	1939“昭14”駒橋の測量位置が不明
1434	”	31 36.7	137 12.5	3999	” 勝 力	”	1937“昭12”
1435	駒橋第3海山	31 36.8	137 17.0	1696	測量船 拓 洋	水路部	
1436	”	31 34.8	136 16.7	1719	” 海 洋	”	1960“昭35”
1437	膠 州 海 山	31 31.5	135 43.2	2513	観測船 第1海山	海 軍	1940“昭15”第1海山の中央部
1438	” 膠州第1海山一	31 34.8	135 32.0	2935	観測船 明 洋	水路部	1962“昭37”第1海山の西部の浅所
1439	”	31 36.0	135 38.0	2210	” 富 山 丸	海 軍	1941“昭16”
1440	”	31 27.0	136 15.5	2180	”	”	1962“昭37”
1441	”			3848	観測船 Ramapo	米 国	1930“昭5”9月の測深資料
1442	”	31 25.2	136 09.3	2357	軍艦 駒 橋	海 軍	1938“昭13”
1443	” 拓洋海山	31 28.1	136 15.3	2180	測量船 拓 洋	水路部	1960“昭37”東部の最浅所拓洋海山とも云う
1444							
1445	紀 南 礁						礁は1924“大13”7月軍艦滿州の鐘刺
1446	第1紀南海山	30 27.0	136 17.0	2096	軍艦 駒 橋	海 軍	1940“昭15”
1447	第2 ”	30 16.3	136 38.4	861	測量船 富 山 丸	”	1943“昭18”水路部測量
1448	第2紀南(海山)	30 12.0	136 42.7	6 0	” 拓 洋	水路部	1962“昭37”海山の最浅所
1449	”	30 10.6	136 42.0	710	軍艦 滿 州	海 軍	1924“大13”7月4日滿州の鐘刺
1450	”	30 10.0	136 42.0	537	”	”	

1451	"	30 09. 5	136 42. 7	537				
1452								
1453								
1454		29 27. 0	136 58. 0	1564				周囲の水深 5.000m 円計
1455								
1456		28 52. 0	137 20. 0	2659				"
1457								
1458		27 57. 5	137 32. 0	1357				"
1459								
1460		19 36. 0	139 36. 0	936				"
1461								

第 1 2 表 そ の 他

番号	漁場礁名(漁場)	緯度	経度	水深	発見船名	発見船籍	記	事
1462								
1463	大淀海丘(北)	31° 46' 5	132 36' 5	1760	軍艦大淀	海軍		
1464	(南)	31 41. 5	132 40. 0	1710	"	"		
1465								
1466	都井海丘	31 10. 0	132 19. 0	1510				
1467								
1468	駒橋第2海山	30 00. 0	132 16. 0	1039	軍艦駒橋	海軍		
1469	"	29 55. 6	133 18. 5	2250				
1470	"	29 54. 5	133 20. 0	555				
1471	栄吉岡の場	29 53. 5	133 21. 0	289	漁船栄吉丸	静岡県		
1472								
1473	蒼鷹堆	29 51. 0	133 21. 0	480	調査船蒼鷹丸	東京	19	(農林省中央水産試験場 調査船)発見
1474								
1475		29 12. 0	133 47. 5	1495				
1476								
1477		28 50. 0	134 44. 0	500				
1478								
1479	高鵬岡の場	28 08. 0	134 44. 0		調査船高鵬丸	高知		
1480	"	28 06. 0	134 41. 0	450	"	"		
1481	"	28 05. 5	134 37. 5	620	"	"		

1482	駒橋海山	28 05. 0	134 40. 0	500	軍艦駒橋	海軍	19	水路部比高鷗海山と命名
1483		27 50. 0	134 43 0	695				
1484		26 53. 8	135 11. 4	421	漁船高鷗丸	高知	1932	"昭7" 発見
1485		26 53. 3	135 11. 3		"	"		
1486	高鷗中の場	26 51. 7	135 00. 4		"	"		
1487	(礁)	26 49. 7	135 25. 3	439	"	"		
1488		26 47. 2	135 20. 3	335	測量船富山丸	海軍	1943	"昭18" 水路部測量す
1489		26 47. 0	135 23. 0	330	漁船高鷗丸	高知		
1490		26 46. 7	135 20. 8	320	"	"		
1491								
1492								
1493								
1494								
1495	高鷗東の場	26 46. 0	135 23. 5		漁船高鷗丸	高知	1932~33~34	"昭7~8~9"
1496		26 46. 0	135 24. 0		"	"		
1497		26 46. 0	135 22. 0		"	"		
1498		26 45. 6	135 24. 0		"	"		
1499		26 45. 0	135 21. 0		"	"		
1500		26 45. 0	135 20. 0		"	"		
1501		26 44. 0	135 22. 3	270	"	"		
1502		26 43. 5	135 20. 0		"	"		
1503		26 15. 0	135 48. 0	272	軍艦膠州	海軍	1922~24	"昭11~13" 測量す

番号	漁場礁名(漁場)	緯度	経度	水深	発見船名	発見船の種類	記	事
1504	高鵬東の場	26°14'0	135°46'0	250	軍艦膠州	海軍		
1505	"	26 13.9	135 46.5	270	"	"		1935“昭10.11”竣工第5福一丸、バ
1506	"	26 12.0	135 46.6	250	"	"		チ・キワダ・カツオ大漁す
1507	"	26 11.5	135 45.8		漁船高鵬丸	高知		
1508	"	26 10.0	135 45.0		"	"		
1509	"	26 09.1	135 46.8	340	"	"		
1510	"	26 09.0	135 49.0	371	"	"		
1511	" (西高鵬岬)	26 09.1	135 20.8	340	"	"		
1512	"	26 08.5	135 46.5	350~360	"	"		
1513	"	26 08.0	135 50.0	387	HMS "Chlie- 軍艦 rger"号	英国		
1514	"	26 06.0	135 52.7	1100	漁船高鵬丸	高知		1951“昭26”測深す
1515	"	26 06.0	135 48.0	370	"	"		
1516	"	26 05.0	135 51.2	370	"	"		
1517								
1518		26 06.0	134 41.0	450				
1519								
1520	高鵬沖の場	26 05.0	135 43.0	370	漁船高鵬丸	高知		
1521	"	26 04.0	135 51.0	333	"	"		
1522	"	26 00.0	135 46.0	349	"	"		
1523								
1524		26 51.0	136 05.0					

1525									
1526									
1527		25 30.0	135 55.0	1610					
1528		25 29.0	135 36.0	1011					
1529	栄吉南の場	25 11.0	135 42.0	528	漁船 第2栄吉丸	静岡		1963“昭38”発見、好漁を続ける	
1530	"	25 07.5	135 38.0	320	"	"			
1531	"	25 07.0	135 00.0	450	"	"			
1532									
1533		24 34.0	135 52.0	492					
1534									
1535	栄吉沖の場	24 30.0	134 19.5	75~90 ~130	漁船 第2栄吉丸	静岡		1963“昭38”大漁す	
1536	"	24 30.0	134 19.5	100	"	"			
1537									
1538									
1539		23 30.0	136 50.0	2180					
1540									
1541									
1542		21 47.5	136 40.0	1678					
1543									
1544		20 25.0	136 42.0	367					
1545									
1546									

番号	漁場礁名(漁場)	緯度	経度	水深	発見船名	発見の国籍	記 事
1547					“San Juan”号 軍艦	西 国	1543 “天文12” 発見Mel Abrigaと命名
1548	沖の鳥島	20°06′.0	136°05′.0	2.3▲	“Engel” “Iphigenia” 帆船	和 国	1639 “寛永16” Engelbroochte と命名 1789 “寛政1” Douglas reef と命名
1550					軍艦 “満州”	英 国	1921~22 “大11~12” 測量
1551						日 本	
1552		20 06. 0	135 24. 0	1752			
1553							
1554		19 56. 0	135 36. 0	1678			
1555		19 33.	136 02. 0	457			
1556							
1557	東海大学海山(仮称)	10 53.	134 40. 0	383	調査実習船 東海大学丸二世	静 岡	1971 “昭46” 最少水深38.3m, 堆の 側面3000mで採泥, 白色のサンゴ砂を採取
1558							
1559							
1560	バラオ島	7 76. 0	133 10. 0	▲			

6. おわりに

東京都管内の漁場は、前記のように漁獲魚の種類も多く、そのため漁船も漁具の装備（カツオ・マグロ類の一本釣・ハマダイなどの底棲魚類の手釣・マグロ類サメ類の延縄・トビウオ流刺網・サバまき網・サンゴ網・その他）が異なり、また大小の船型の漁船が操業している。

大島より小笠原、硫黄島に至る間の各島は、台風など荒天時の避難場所となり、更に自然の航路目標的な役目も果している。勿論各島周辺ではこのほか島付き魚類の自然の好漁場が多く形成されている。

しかしながら、一方八丈島の南の青ヶ島以南は、ペヨネーズ列岩、ソーフ岩、北之島などの危険性のある岩島が多く、またこの海域は強い海潮流があり、気象状態も極めて悪い、そのうえ航路標識も全くなく、夜間航海は決して安全な状況ではない。

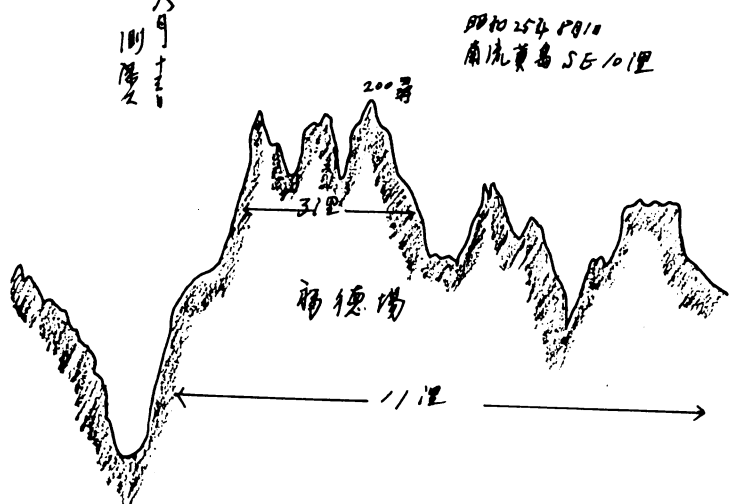
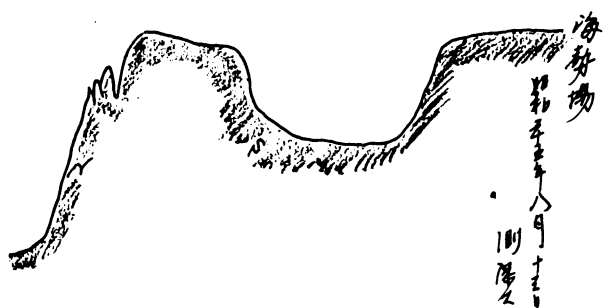
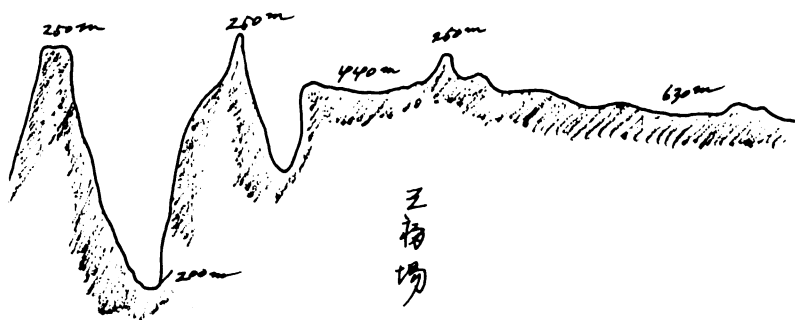
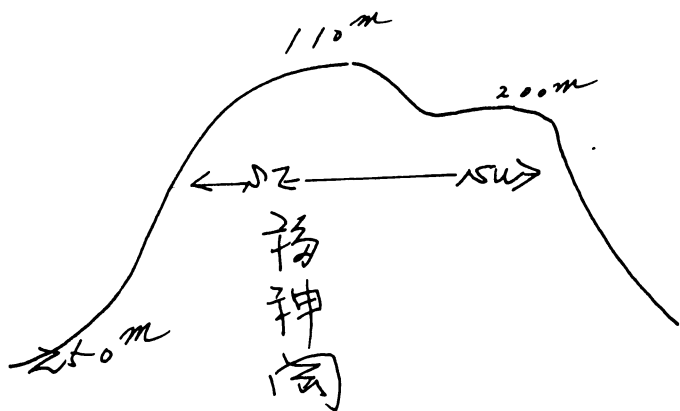
将来とも有効的な利用を望む漁場としては、特に避難、補給、修理等が可能な港湾設備や航路標識の整備は、われわれ漁業者の長年の強い念願である。そして今後子孫ともども永久に利用を続けるこれ等の漁場をより効率的、かつ安全な操業と航海に適するように、今後も全面的な漁場の精査や漁場資源の保護管理の対策が切望される。

最後に海底火山噴出物等と、魚類体質、魚群謂集状況及びサンゴ類や温泉性マンガンなど鉱物資源等の関連性もみられるが、これらの諸調査については比較的資料は少なく、魚礁の火山性活動は、水温、水色、水質、音響等いろいろの要素が魚群の謂集と密接な関係があることが知られているので、この種の調査研究課題は、今後とも重要な事柄であり、東京都水試でも水産資源の管理型漁業の一かんとして調査対策を進めているが、各研究機関においても関連の調査研究を望んで帰する。

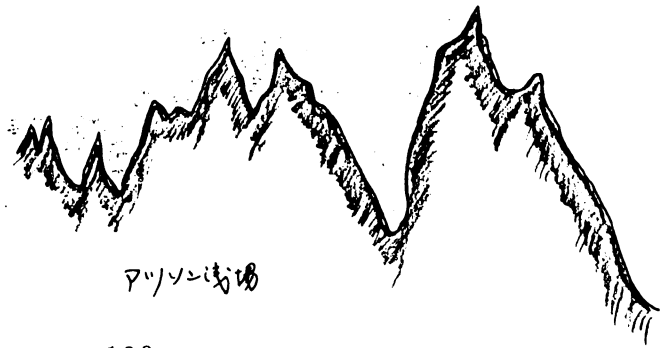
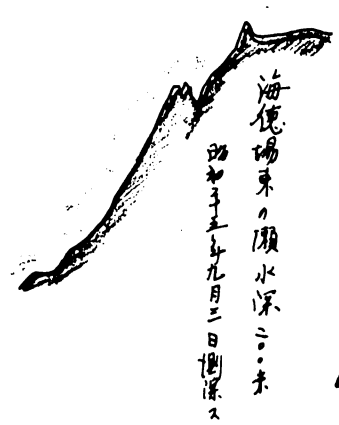
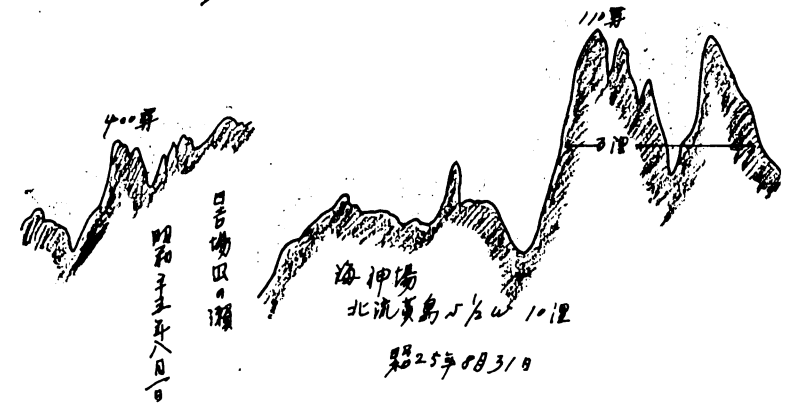
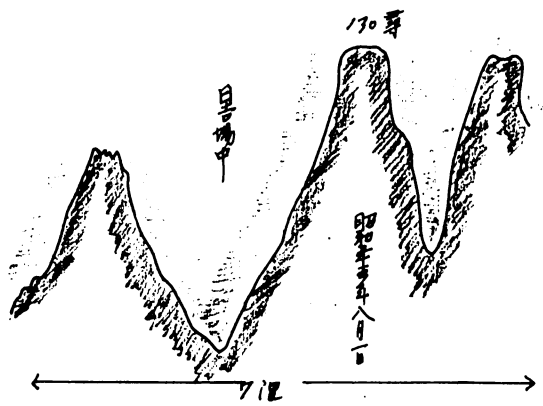
なお、表中に船名、船長名、機関長名あるいはトン数馬力等について空白部分が相当数あるが、今後の資料蓄積により逐次補てんして行きたいので皆様のご協力をお願いしたい。

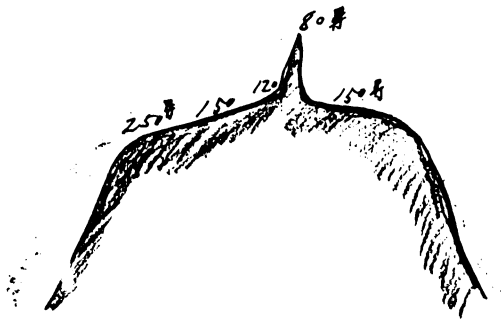
7. 参考資料

- 1) 各漁場における当時の測深資料（6葉）
- 2) ソーフ島
- 3) 漁船発見に対する当時の表彰状



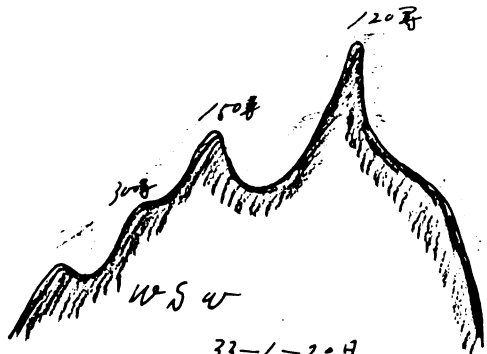
即如 25年 5月 10日
南流真島 SE 10里





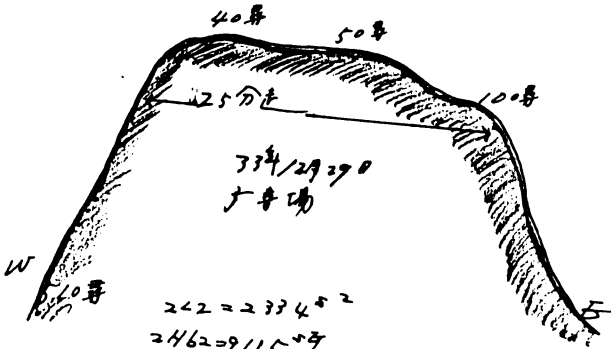
海徳場西ノ瀬

33年1月18日



北硫黄島海神場

33-1-20日



心子に長し
 老リ方にも 30等の竹所、
 50則 100、150則に下、
 底多し、40則 NW 100 100
 敷多し 標本 未了

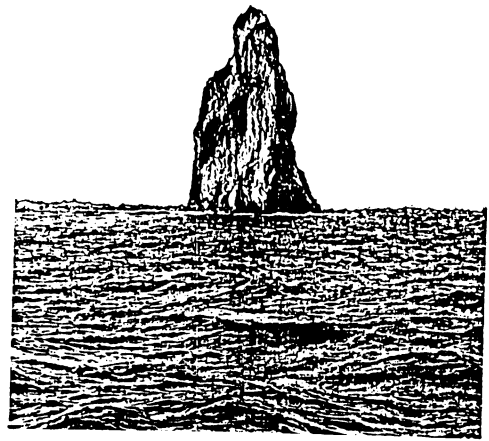
33年1月29日
 大寺場

242 = 233452
 2462 = 911557
 2432 = 217352

33年1月19日

海徳場東ノ瀬





ソウフ島全景（東海大学丸二世撮す）

表彰狀

榛原郡御前崎村

海徳丸船長伊村萬次郎

一漁礁發見

右大正十五年十一月八日北硫黄島北十二度西四度

五十六号底質岩約四疊四方地點於淺礁發見前

後九回三回各航海共鯉鮫交り數千尾宛漁獲り又同

年同月大岡嶋北二十四度西四度地點於五十八号

底質岩南北三度西五度淺礁發見前後七回航

海共鯉鮫交り五千尾宛漁獲り何れも好漁場トシテ再東

當業者此漁場之漁獲多所多ク本會水産事業

奨励規程第三條第一號ニ該當スキキトテ乃チ銀盃

壹個ヲ贈呈シ以テ之ヲ表彰ス

昭和三年九月十九日

静岡縣水産會會長高木祭太郎



8. 参 考 文 献

- 秋岡武次郎(1971):日本地図作成史、鹿島研究所 東京 156P
- Daneglen・E・W.(1916):Were me Hwaiian islands Visitool, ty lthe Spani-
ards before ir Discoveny by Captain Cook in/1783
- Findlay A. G.(1854):A. directory for me navigation of tne north
Pacific O ean. witn discreption of ets Coast island. etc.
- 石井 通則(1976):小笠原諸島 概史その1. 小笠原協会 東京 264P
- 海軍水路局(1885):かんえい水路誌 1. PP. 219~276
- 海軍水路部(1892):日本水路誌 1. PP. 338~341
- 海軍水路部(1904):日本水路誌 1. PP. 641~647
- 西川 満(1952):ちょぶらん(秀姑巒)島漂流記 添書房 横浜 295P
- 中村 拓(1965):御朱印船航海図 日本学術振興会 東京 580P
- 小花 作助(1875):小笠原島要録 初編
- 小花 作助(1876):小笠原島要録 第二編
- 小花 作助(1879):南島要録 (水野筑後守手控)
- 小笠原協会(1967):小笠原諸島概史(その1) 東京 276P
- 小笠原協会(1969):小笠原諸島の概況 東京 62P
- 大熊 良一(1966):歴史の語る小笠原島 東京 258P
- 小林房太郎(1929):火山 南光社 東京 582P
- 佐藤 孫七・佐藤 久(1973):海底火山と航泊(伊豆半島 PP341~365
東海大学出版社 東京
- 佐藤 孫七(1977):火山列島(硫黄列島)に関する歴史的知見
- 佐藤 孫七(1979):小笠原漁場の魚礁とその発見 東海大学紀要
東海大学出版会 東京 PP 293~307
- 焼 津 市():焼津市史

印刷物規格表第2類
印刷番号 541750

昭和55年3月31日

編集・発行 東京都水産試験場技術管理部
〒125 東京都葛飾区水元小合町 3374
電話 03-600-2873

印刷会社名 株式会社 東 邦
電話 03-553-1791